学会発表

川西徹:国立医薬品食品衛生研究所におけるレギュラトリーサイエンスの実践.

日本環境変異学会公開シンポジウム (2014.5)

川西徹:国立医薬品食品衛生研究所のいま-これからの 医薬品QAの視点から-.

QA研究会第23回定時総特別講演(2014.7)

Kawanishi T: The Activities of the Pharmacopoeial Discussion Group (PDG).

International conference EDQM: 50 years of leadership in the quality of medicines - paving the way for the future -EDQM (2014.10)

川西徹:健康・医療戦略推進における薬理学の役割. 第88回日本薬理学会年会シンポジウム (2015.3)

田邊思帆里, 青柳一彦*1, 横崎宏*2, 佐々木博己*1: 胃がん細胞と間葉系幹細胞においてRGS1の遺伝子発現変動が観察された.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

*1国立がん研究センター研究所

*2 神戸大学大学院医学研究科

田邊思帆里, 青柳一彦*¹, 横崎宏*², 佐々木博己*¹: diffuse型胃がんと間葉系幹細胞における上皮間葉転換関連シグナル遺伝子の解析.

第14回日本再生医療学会総会(2015.3)

*1 国立がん研究センター研究所

*2神戸大学大学院医学研究科

角張義尭*, 西野仁美*, Nugroho AE*, 中嶋祐輝*, 出口潤*, 中田麻美*, 平澤祐介*, 金田利夫*, 森田博史*, 川崎洋子, 合田幸広: Molluginの酸化によって生成されたoxomolluginの抗炎症活性.

日本生薬学会第61回年会(2014.9)

* 星薬科大学

角張義尭*, 西野仁美*, Nugroho AE*, 中嶋祐輝*, 出口潤*, 中田麻美*, 平澤祐介*, 金田利夫*, 森田博史*, 川崎洋子, 合田幸広:Mollugin誘導体のLPSシグナル抑制作用.

日本生薬学会第61回年会(2014.9)

* 星薬科大学

西野仁美*, 長谷川友紀*, 角張義尭*, 中嶋祐輝*, 出口潤*, 中田麻美*, Nugroho AE*, 平澤祐介*, 金田利夫*, 川崎洋子, 合田幸広, 森田博史*: 抗炎症作用を持つMollugin誘導体の合成.

日本生薬学会第61回年会(2014.9)

* 星薬科大学

末松孝子 *1 , 細江潤子, 杉本直樹, 三浦亨 *2 , 山田裕子 *2 , 早川昌子 *2 , 鈴木裕樹 *2 , 勝原孝雄 *3 , 西村浩昭 *3 , 菊池祐一 *3 , 山下忠俊 *4 , 合田幸広:NMRによる定量分析技術 "AQARI (\underline{A} ccurate \underline{Q} uantitative NM \underline{R} with \underline{I} nternal Reference Substance)"の日本薬局方試薬への応用。

プロセス化学会2014サマーシンポジウム (2014.7)

*1 ジオルレゾナンス

*2和光純薬

*3 ツムラ

* 4 常磐植物化学

呉暁婷*, 朱姝*, 合田幸広, 小松かつ子*: Gentiana 属 生薬の基原と品質に関する研究(3) - Gentiana 属8種 及び秦艽のITS配列について.

日本生薬学会第61年会(2014.9)

* 富山大学和漢研

Anjiki N*1, Fushimi H*2, Fushimi N*3, Kawahara N*1, Goda Y: Origin of the 'Huashi' (滑石) in Taipei market. The 8th JSP-CCTCN-KSP Joint Symposium on Pharmacognosy (2014.9)

- *1 医薬基盤研薬用植物資源研究センター
- *2富山大学和漢研
- *3 ウチダ和漢薬

Suematsu T^{*1}, Hosoe J, Sugimoto N, Yamada Y^{*2}, Miura T^{*2}, Hayakawa M^{*2}, Suzuki H^{*2}, Katsuhara T^{*3}, Nishimura H^{*3}, Kikuchi Y^{*3}, Yamashita T^{*4}, Goda Y: Application of AQARI (Accurate Quantitative NMR with Internal Reference Substance) to the reagents in the crude drug section of the Japanese Pharmacopoeia.

The 8th JSP-CCTCN-KSP Joint Symposium on Pharmacognosy (2014.9)

*1 ジオルレゾナンス

- *2和光純薬
- *3 ツムラ
- * 4 常磐植物化学

末松孝子*¹, 細江潤子, 杉本直樹, 山田裕子*², 三浦亨*², 早川昌子*², 鈴木裕樹*², 勝原孝雄*³, 西村浩昭*³, 菊池祐一*³, 山下忠俊*⁴, 合田幸広:AQARI (Accurate Quantitative NMR with Internal Reference Substance) による天然由来成分の純度評価のための基礎研究.

天然有機化合物討論会(2014.10)

- *1 ジオルレゾナンス
- *2和光純薬
- *3 ツムラ
- * 4 常磐植物化学

若菜大悟,加藤裕樹*,百瀬忠征*,佐々木伸大*,小関良宏*,合田幸広:オオカナダモ紅葉において誘導されるクロロフィル分解産物の構造.

天然有機化合物討論会(2014.10)

* 東京農工大工

合田幸広:新しい機能性表示と健康食品の品質. 日本食品化学学会第30回食品化学シンポジウム(2014.10)

合田幸広:健康食品の新しい機能性表示と品質に関する 課題.

表示・起源分析技術研究懇談会第12回講演会(2015.1)

天倉吉章 *1 , 杉脇秀美 *1 , 山上沙織 *1 , 好村守生 *1 , 吉田隆志 *1 , 渕野裕之 *2 , 合田幸広,川原信夫 *2 : HPTLC による国内流通生薬の成分比較 (第4報).

日本薬学会第135年会(2015.3)

- *1 松山大学薬学部
- *2 医薬基盤研薬用植物資源研究センター

水上昭吾*1, 小林みな*1, 山路誠一*1, 寺林進*2, 酒井 英二*3, 合田幸広, 川原信夫*4: 薬用植物総合情報デー タベース構築のための基盤整備に関する研究~市場流通 生薬の組織形態(5)・ボウフウ~. 日本薬学会第135年会(2015.3)

- *1日本薬科大学
- *2 横浜薬科大学
- *3 岐阜薬科大学
- *4 医薬基盤研薬用植物資源研究センター

小林みな*1,水上昭吾*1,山路誠一*1,寺林進*2,酒井英二*3,合田幸広、川原信夫*4:薬用植物総合情報データベース構築のための基盤整備に関する研究~市場流通生薬の組織形態(6)・ボクソク~.

日本薬学会第135年会(2015.3)

- *1日本薬科大学
- *2横浜薬科大学
- *3 岐阜薬科大学
- * 4 医薬基盤研薬用植物資源研究センター

柴田寛子,四方田千佳子,吉田寛幸,伊豆津健一,川西 徹,奥田晴宏,合田幸広:リポソームと相互作用する生 体分子の探索とその評価.

日本薬剤学会第29年会(2014.5)

伊豆津健一,柴田寛子,吉田寛幸,合田幸広:凍結溶液における高分子とアミノ酸の相分離と結晶化.

日本薬剤学会第29年会(2014.5)

吉田寛幸, 伊豆津健一,四方田千佳子, 柴田寛子, 合田幸広: GastroPlusを用いた吸入剤の薬物動態予測に関する検討.

日本薬剤学会第29年会(2014.5)

吉田寛幸:経肺吸収製剤の評価法. 日本薬剤学会第29年会 (2014.5)

藤井香穂梨*¹², 伊豆津健一, 久米美汀*¹, 吉野建史*¹, 岸證*³, 吉橋泰生*¹, 菅野清彦*¹, 寺田勝英*¹: 凍結乾 燥医薬品新規賦形剤の探索及びmeso -erythritolの物性 評価.

日本薬剤学会第29年会(2014.5)

伊豆津健一,柴田寛子,吉田寛幸,合田幸広:タンパク 質とアミノ酸添加剤の凍結濃縮相における混合性と結晶

^{*1} 東邦大学 薬学研究科

^{*2}ポーラファルマ

^{*3(}株)リガク

化挙動.

低温生物工学会第59回大会(2014.6)

Izutsu K, Shibata H, Yoshida H, Goda Y: Amorphous/ amorphous phase separation of solutes in frozen solutions: implication for pharmaceutical lyophilization. Amorph 2014 (2014.7)

Izutsu K, Yonemochi E, Yomota C, Goda Y, Okuda H: Studying the morphology of lyophilized protein solids using X-Ray micro CT: effect of post-freeze annealing and controlled nucleation.

Freeze-Drying of Pharmaceuticals and Biopharmaceuticals (2014.9)

伊豆津健一,柴田寛子,吉田寛幸,合田幸広:凍結溶液 の非晶質濃縮相における高分子医薬品とアミノ酸添加剤 の混合性評価.

第50回熱測定討論会(2014.9)

Yoshida H, Shibata H, Izutsu K, Goda Y: Evaluation of fluid flow profiles in flow-through dissolution cells using particle image velocimetry.

BABE symposium 2014 (2014.10)

Izutsu K: Component miscibility and protein stability in Freeze-Dried formulations.

American Association of Pharmaceutical Scientists, Annual Meeting 2014 (2014.11)

Izutsu K, Yoshida H, Shibata H, Goda Y: Protein and stabilizer miscibility in frozen solutions and freezedried formulations.

JAACT 2014 (2014.11)

吉田寛幸,伊豆津健一,柴田寛子,合田幸広:ジェネリック医薬品品質情報検討会において品質確認を実施した3製剤の溶出試験について.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

柴田寛子,吉田寛幸,伊豆津健一,合田幸広:逆相 HPLC-荷電化粒子検出器を使ったリポソーム構成脂質 成分および脂質分解産物の定量法の検討.

日本薬学会第135年会(2015.3)

宮崎玉樹, 阿曽幸男, 合田幸広:ニフェジピンの光安定性に及ぼす非晶質化の影響.

日本薬剤学会第29年会(2014.5)

Miyazaki T, Aso Y, Goda Y: Physical properties and stability of co-amorphous nifedipine-nicotinamide.

AAPS Annual Meeting (2014.11)

阿曽幸男, 宮崎玉樹, 合田幸広:コアモルファスニフェジピン-アセトアミノフェンの結晶化速度と分子運動性の関連.

日本薬学会第135年会(2015.3)

宮崎玉樹,阿曽幸男,合田幸広: co-amorphousニフェジピン-ニコチン酸アミドの物理化学的特性.

日本薬学会第135年会 (2015.3)

香取典子:日本における規制バイオアナリシスの進展と 研究班の役割.

第27回バイオメディカル分析化学シンポジウム (2014.8)

香取典子:薬物動態試験における分析法バリデーション ガイドラインと日本における規制バイオアナリシスにつ いて.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

Sakamoto T: Terahertz spectroscopy and imaging in pharmaceutical sciences.

International Symposium on Frontier of Terahertz Sciences (2014.8)

Sakamoto T, Sasaki T*, Katori N, Goda Y: Effect on viscosity of cellulose derivatives against Pseudopolymorphism conversion of amorphous theophylline using a terahertz spectroscopy.

39th International Conference on Infra-red, Millimeter, and Terahertz Wayes (2014.9)

Sasaki T*1, Kambara O*1, Sakamoto T, Nishizawa J*2: Polarization terahertz spectroscopy allication to theophylline anhydrous single crystal for vibrational mode assignment.

39th International Conference on Infra-red, Millimeter, and Terahertz Waves (2014.9)

^{*} Shizuoka University

^{* 1} Shizuoka University

^{* 2} Tohoku University

瀬古友里恵*¹, 服部祐介*¹, Peerapatana J*², 大塚邦子*³, 江口欣也*⁴, 坂本知昭, 大塚誠*¹: 偽造医薬品判別のための近赤外分光法を用いた経口固形医薬品の簡易同定注

第24回日本医療薬学会年会(2014.9)

- *1 武蔵野大学
- *2 コンケン大学
- *3横浜薬科大学
- * 4 レーザー分光

佐々木哲朗*¹,神原大*¹,坂本知昭,大塚誠*²,西澤潤一*³:テオフィリン無水物単結晶成長とテラヘルツ振動異方性解析.

第44回結晶成長国内会議(2014.11)

- *1静岡大学
- *2 武蔵野大学
- *3 東北大学

坂本知昭,村山広大*1,藤巻康人*2,北川雅博*3,小金 井誠司*2,小宮山誠*1,香取典子,合田幸広:光学活性 医薬品を用いた第二倍音領域の振動分光解析.

第30回近赤外フォーラム (2014.11)

- *1 横河電機
- *2 東京都立産業技術研究センター
- *3エーザイ

瀬古友里恵*¹, 服部祐介*¹, Peerapatana J*², 大塚邦子*³, 江口欣也*⁴, 坂本知昭, 大塚誠*¹: 近赤外分光法によるアトルバスタチン偽造医薬品の簡易同定とその近赤外顕微マッピング.

第30回近赤外フォーラム (2014.11)

- *1 武蔵野大学
- *2コンケン大学
- *3 横浜薬科大学
- * 4 レーザー分光

坂本知昭,佐々木哲朗*,香取典子,合田幸広:テラヘルツケミカルイメージングシステムを用いた錠剤中の医薬品成分の擬似結晶形転移の拡散過程の解析. 第62回応用物理学会春季学術講演会(2015.3)

*静岡大学

坂本知昭,佐々木哲朗*,香取典子,合田幸広:テラヘルツ分光及び近赤外分光マッピングを用いた水和医薬品の擬似結晶形転移及び脱水に及ぼすセルロース誘導体の影響に関する研究.

日本薬学会第135年会(2015.3)

*静岡大学

Koide T, Katori N, Goda Y: Evaluation of distribution of ingredients in pharmaceutical solid dosage forms using time of flight secondary ion mass spectrometry. 20th International Mass Spectrometry Conference (2014.8)

山本佳久*¹, 足立真希*¹, 大貫義則*², 深水啓朗*³, 小 出達夫, 香取典子, 鈴木豊史*⁴, 伴野和夫*⁴: アセトア ミノフェン坐剤における加熱融解によって生じる主薬偏 析の要因に関する研究.

第24回日本医療薬学会年会(2014.9)

*1帝京平成大学薬学部

- *2星薬科大学
- *3明治薬科大学
- * 4 日本大学薬学部

Koide T, Fukami T*: Suitability of Ultralow Frequency Raman Spectroscopy for pharmaceutical evaluation. SCIX 2014 (2014.10)

* 明治薬科大学

鮒谷千明*1, 大貫義則*1, 山本佳久*2, 深水啓朗*3, 小出達夫, 余川隆*4, 小幡誉子*1, 高山幸三*1: MRIを利用したステロイド軟膏と保湿クリームの混合製剤の製剤安定性評.

日本薬学会第135年会(2015.3)

- *1星薬科大学
- *2 帝京平成大学薬学部
- *3明治薬科大学
- *4 バイオビュー(株)

小出達夫,深水啓朗*,久田浩史*,香取典子,合田幸広:超低波数領域を用いたラマン分光法によるステアリン酸マグネシウムの擬似結晶多形の判別に関する研究.

日本薬学会第135年会(2015.3)

* 明治薬科大学

久田浩史*1,深水啓朗*1,小出達夫,山本佳久*2,鈴木豊史*3,伴野和夫*3:インターネット経由で国内に流通する医薬品の迅速評価 – リピトールおよびジェネリック製剤を例として – .

日本薬学会第135年会(2015.3)

- *1 明治薬科大学
- *2 帝京平成大学薬学部
- *3日本大学薬学部

笹津備尚*1, 小出達夫, 河野弥生*2, 廣瀬香織*3, 池内由里*1, 花輪剛久*2, 大西啓*1:ロペラミド含有口内炎治療用フィルムにおける薬物含有率の物性への影響. 日本薬学会第135年会(2015.3)

- *1星薬科大学
- *2 東京理科大学薬学部
- *3 東京医科大学八王子医療センター

山本佳久*¹, 矢田千雅*¹, 赤荻愛理*¹, 深水啓朗*², 小 出達夫, 鈴木豊史*³, 伴野和夫*³: 加熱融解後再固化し たアセトアミノフェン含有モデル坐剤の主薬分布に関す る研究.

日本薬学会第135年会(2015.3)

*1 帝京平成大学薬学部

- *2 明治薬科大学
- *3日本大学薬学部

深水啓朗*1, 瀧波磨理江*2, 大橋由紀*2, 久田浩史*1, 小出達夫, 山本佳久*3, 鈴木豊史*2, 伴野和夫*2: ケトプロフェン含有テープ剤の膏体部における主薬の分子状態に関する研究.

日本薬学会第135年会(2015.3)

- *1 明治薬科大学
- *2日本大学薬学部
- *3 帝京平成大学薬学部

加藤くみ子、桜井真理、合田幸広:リポソーム構成脂質の細胞内動態における細胞種の影響.

日本薬学会第135年会(2015.3)

原島秀吉*1, 秋田英万*1, 加藤くみ子, 松村保弘*2, 片岡一則*34: 日本発革新的ナノ医薬品の創出を目指して.

日本薬学会第135年会(2015.3)

- *1 北海道大学大学院薬学研究院
- *2 国立がん研究センター東病院
- *3 東京大学大学院工学系研究科
- * 4 東京大学大学院医学系研究科

加藤くみ子,南條邦江,川西徹,奥田晴宏,合田幸広: 生体試料中におけるドキソルビシンとその代謝物の高感 度分析法の開発.

第25回クロマトグラフィー科学会議(2014.12)

加藤くみ子,運敬太,合田幸広:カチオン性リポソーム 構成成分の細胞内動態に関する研究.

第29回日本DDS学会(2014.7)

加藤くみ子,桜井真理,川西徹,奥田晴宏,合田幸広: リポソーム製剤の血液適合性に関する評価法研究.

日本薬剤学会第29会年会(2014.5)

橋井則貴:水素/重水素交換質量分析を用いたバイオ医薬品の高次構造解析.

第5回生体相互作用解析フォーラム (2014.4)

三浦ゆり*1,太田悠葵,高倉大輔,橋井則貴,新井康通*2,津元裕樹*1,川崎ナナ,広瀬信義*2,遠藤玉夫*1:日本人超百寿者血漿タンパク質のグライコプロテオミクス解析.

第37回日本基礎老化学会大会(2014.6)

*1東京都健康長寿医療センター

*2 慶応大学医学部

Ishii-Watabe A, Suzuki T, Nishimura K, Mori K^{*1}, Yamaguchi H^{*1}, Torikai M^{*2}, Yanagihara S^{*3}, Koga J^{*4}, Watanabe T^{*4}, Hamaji Y^{*5}, Ishida M^{*5}, Miyamoto T^{*6}, Kawasaki N: Design and the validity test suitable for a therapeutic antibody potency assay using ELISA. USP 6th Bioassay Workshop (2014.6)

*1 アステラス製薬(株)

- *2(一財)化学及血清療法研究所
- *3協和発酵キリン(株)
- * 4 第一三共(株)
- *5 武田薬品工業(株)
- *6富山県薬事研究所

川崎ナナ:バイオ後続品の現状と課題. 日本ジェネリック医薬品学会第8回学術大会(2014.7)

高倉大輔*,多田稔、川崎ナナ:アセトン濃縮とLC/MSによる糖ペプチドの選択的プロファイリングと膜グライコミクスへの応用.

日本プロテオーム学会2014年会(JHUPO第12回大会) (2014.7)

* 次世代バイオ医薬品製造技術研究組合

Li X*1, Kimura Y*1, Iida M*1, Kuniyasu H*2, Fukasawa M*3, Tada M, Ishii A, Watari A*1, Yagi K*1, Kondoh M*1: Anti-tumor activity of a novel monoclonal antibody recognizing claudin-3 and -4.

23rd Biennial Congress of the European Association for Cancer Research (EACR23) (2014.7)

- *1大阪大学
- *2 奈良県立医科大学
- *3 国立感染症研究所

大海雄介 *1 , 伊勢渉 *2 , 高橋聖宜 *3 , 原園景, 川崎ナナ, 黒崎知博 *2 , 古川鋼 $^{-*1}$: 関節リウマチにおける抗原特的IgG糖鎖の機能解析.

第33回日本糖質学会年会(2014.8)

*1 名古屋大学大学院

*2 大阪大学免疫学フロンティア研究センター

*3 国立感染症研究所

西岡宗一郎 *1 , 小林功 *2 , 原園景, 久保勇樹 *3 , 真板宣夫 *4 , 池戸駿介 *1 , 東哲也 *1 , 辻大輔 *1 , 瀬筒秀樹 *2 , 町井博明 *2 , 石井明子, 川崎ナナ, 伊藤孝司 *1 : 組換えカイコ絹糸腺由来ヒトカテプシンAの分子特性とエンドグリコシダーゼによる糖鎖改変.

第33回日本糖質学会年会(2014.8)

- *1 徳島大学大学院
- *2 農業生物資源研究所
- *3 增田化学工業(株)
- * 4 徳島大学疾患酵素研究センター

日向須美子*¹, 日向昌司, 天倉吉章*², 合田幸広, 花輪壽彦*¹: HerbacetinのTrkAリン酸化阻害を介した神経突起伸張抑制作用及び疼痛抑制効果.

第31回和漢医薬学会学術大会(2014.8)

- *1 北里大学東洋医学総合研究所
- *2 松山大学薬学部

豊田陽子 *1 , 伊達公恵 *1 , 川崎ナナ, 橋井則貴, 小川温子 *1,2 : 膵 α -アミラーゼの糖鎖認識による腸内での糖質消化と糖吸収の調節活性.

日本応用糖質科学会平成26年度大会(第63回)(2014.9)

*1 お茶の水女子大学大学院

*2 お茶の水女子大学糖鎖科学教育研究センター

Wakazono Y^{*1}, Kandel MB^{*1}, Midorikawa R^{*1}, Kawasaki N, Oka S^{*2}, Takamiya K^{*1}: Involvement of N-glycosylation in AMPA receptor channel properties. 第37回日本神経科学大会Neuroscience 2014 (2014.9)

- *1 宮崎大学
- *2 京都大学

平山奈保子*,小林哲,石井明子,川崎ナナ,豊島聰*: 各種の抗体関連バイオ医薬品の投与症例における有害事 象初回発現時期の解析.

第4回レギュラトリーサイエンス学会学術大会(2014.9)

* 武蔵野大学

Kimura Y^{*1}, Li X^{*1}, Iida M^{*1}, Tada M, Ishii A, Fukasawa M^{*2}, Kawahigashi Y^{*1}, Watari A^{*1}, Yagi K^{*1}, Kondoh M^{*1}: Tumor-targeting and anti-tumor activity of a novel dual-specificity anti-claudin antibody.

Protein Island Matsuyama International Symposium 2014 (2014.9)

Iida M^{*1}, Yamashita M^{*1}, Nagase S^{*1}, Tada M, Shirasago Y^{*2}, Fukasawa M^{*2}, Watari A^{*1}, Ishii-Watabe A, Yagi K^{*1}, Kondoh M^{*1}: Anti-human claudin-1 antibodies inhibit a Hepatitis C Virus infection in vivo.

21st International Symposium on Hepatitis C and Related Viruses (2014.9)

^{*1}大阪大学

^{*2} 国立感染症研究所

^{*1}大阪大学

^{*2} 国立感染症研究所

北爪しのぶ*1, 今牧理恵*1, 栗本綾子*1, 小川加寿子*1, 加藤雅樹*2, 山口芳樹*2, 田中克典*3, 石田秀治*4, 安藤弘宗*4, 木曽真*4, 橋井則貴, 川崎ナナ, 谷口直之*1: 血管内皮細胞に生存シグナルを送るシアル酸(Endothelial sialic acid transducer cell survival signal). 第87回日本生化学会大会(2014.10)

*1 理化学研究所疾患糖鎖研究チーム

- *2 理化学研究所糖鎖構造生物研究チーム
- *3 理化学研究所生体機能合成化学研究室
- *4 岐阜大学

森瀬譲二 *1 , 木塚康彦 *1 , 藪野景子 *1 , 殿山泰弘 *1 , 橋井則貴, 川崎ナナ, 萬谷博 *2 , 鈴木友子 *3 , 武田伸一 *3 , 遠藤玉夫 *2 , 前田信明 *4 , 竹松弘 *1 , 岡昌吾 *1 : 神経回路形成期におけるホスファカン上の特徴的な O -マンノース型 O -マンノースカース

第87回日本生化学会大会(2014.10)

- *1 京都大学大学院
- *2 東京都老人総合研究所
- *3国立精神・神経医療研究センター
- * 4 東京都医学総合研究所

大海雄介 *1 , 伊勢渉 *2 , 高橋聖宜 *3 , 原園景, 福山英 啓 *4 , 川崎ナナ, 黒崎知博 *24 , 古川鋼 $^{-*1}$: 関節リウマチにおける抗原特的IgGシアル酸の機能解析.

第87回日本生化学会大会(2014.10)

- *1 名古屋大学
- *2 大阪大学免疫学フロンティア研究センター
- *3 国立感染症研究所
- * 4 理化学研究所統合生命医科学研究センター

西岡宗一郎*1, 小林功*2, 原園景, 久保勇樹*4, 真板宣夫*3, 池戸駿介*1, 東哲也*1, 辻大輔*1, 瀬筒秀樹*2, 町井博明*2, 石井明子, 川崎ナナ, 伊藤孝司*1:トランスジェニックカイコ由来ヒトリソソーム酵素の分子特性解析とグライコシンターゼによる糖鎖修飾.

第87回日本生化学会大会(2014.10)

- *1 徳島大学大学院
- *2 農業生物資源研究所
- *3 徳島大学疾患酵素研究センター
- * 4 增田化学工業(株)

多田稔, 飯田愛未*, 近藤昌夫*, 石井明子, 川崎ナナ:

Fcy受容体発現レポーター細胞を用いたADCC活性を有する抗体医薬品候補クローンの選別.

第87回日本生化学会大会(2014.10)

* 大阪大学大学院

小林哲,石井明子,太田悠葵,村山一茂*,高久明美,豊島聰*,川崎ナナ:抗体医薬品によるinfusion reactionの初回発現時期の比較.

第20回日本薬剤疫学会学術総会(2014.10)

* 武蔵野大学

苑宇哲,前田洋助*,川崎ナナ,原田信志*,遊佐敬介:マウス微小ウイルスの核への侵入にはホスホリパーゼA2活性が必要である.

第62回日本ウイルス学会学術集会 (2014.11)

* 熊本大学大学院

高倉大輔*,多田稔、川崎ナナ:アセトン濃縮とLC/MSによる膜グライコミクス.

第37回日本分子生物学会年会(2014.11)

* 次世代バイオ医薬品製造技術研究組合

村田大輔*¹, 志賀有貴*¹, 大島裕太*¹, 小島由載*¹, 杉本晃規*¹, 多田稔, 石井明子, 竹内崇*², 佐藤淳*¹: IgG Fc融合技術を応用したヒトラクトフェリンの医薬品展開.

日本ラクトフェリン学会第6回学術集会(2014.11)

- *1 東京工科大学
- *2 鳥取大学

Fukasawa A^{*1}, Sakagami H^{*1}, Nakakura K^{*1}, Nagasawa N^{*1}, Ohta Y^{*2}, Kawasaki N, Ogawa H^{*1}: Characterization and interaction analyses of multispecific Pleurocybella porrigens lectins.

SFG & JSCR 2014 Joint Annual Meeting (2014.11)

- *1 お茶の水女子大学大学院
- *2次世代バイオ医薬品製造技術研究組合

Kitazume S^{*1}, Imamaki R^{*1}, Kurimoto A^{*1}, Ogawa K^{*1}, Kato M^{*2}, Yamaguchi Y^{*2}, Tanaka K^{*3}, Ishida H^{*4}, Ando H^{*4}, Kiso M^{*4}, Hashii N, Kawasaki N, Taniguchi

N*1: Sweet role of platelet endothelial cell adhesion molecule (PECAM) in understanding angiogenesis. SFG & JSCR 2014 Joint Annual Meeting (2014.11)

*1理化学研究所疾患糖鎖研究チーム

- *2 理化学研究所糖鎖構造生物研究チーム
- *3 理化学研究所生体機能合成化学研究室
- * 4 岐阜大学

Ishii-Watabe A, Tada M, Suzuki T, Miyama C, Kawasaki N: Analysis of the binding properties of therapeutic monoclonal antibodies to human, cynomolgus and mouse Fcy receptors.

2014 AAPS Annual Meeting and Exposition (2014.11)

Tada M, Ishii-Watabe A, Suzuki T, Kawasaki N: Fc γ RIIa reporter cell assay for the characterization of therapeutic monoclonal antibodies.

2014 AAPS Annual Meeting and Exposition (2014.11)

Suzuki T, Miyazaki C, Ishii-watabe A, Tada M, Kawanishi T, Kawasaki N: Development of a fluorescence imaging method of therapeutic antibodies, which can distinguish degraded products from non-degrated antibodies.

2014 AAPS Annual Meeting and Exposition (2014.11)

Iida M^{*1}, Yamashita M^{*1}, Nagase S^{*1}, Tada M, Shirasago Y^{*2}, Fukasawa M^{*2}, Watari A^{*1}, Ishii-Watabe A, Yagi K^{*1}, Kondoh M^{*1}: Anti-human claudin-1 monoclonal antibodies as anti-Hepatitis C Virus agents.

IBC's 25th Annual Antibody Engineering & Therapeutics (2014.12)

Kimura Y*1, Li X*1, Iida M*1, Tada M, Ishii-Watabe A, Fukasawa M*2, Kawahigashi Y*1, Watari A*1, Yagi K*1, Kondoh M*1: Development of a novel bispecific anticlaudin antibody and its anti-tumor activity.

IBC's 25th Annual Antibody Engineering & Therapeutics (2014.12)

多田稔:抗腫瘍活性を目的とした抗Claudin-4抗体の開発.

日本薬学会第135年会シンポジウム (2015.3)

石井明子, 原園景, 多田稔, 立松謙一郎*, 瀬筒秀樹*, 川崎ナナ:カイコが創る次世代抗体医薬品. 日本薬学会第135年会シンポジウム (2015.3)

* 農業生物資源研究所

伊藤孝司*1, 西岡宗一郎*1, 小林功*2, 久保勇樹*3, 原園景, 石井明子, 川崎ナナ, 瀬筒秀樹*2: 組換えカイコを用いるネオグライコバイオロジクスの創製.

日本薬学会第135年会シンポジウム (2015.3)

- *1 徳島大学大学院
- *2 農業生物資源研究所
- *3 增田化学工業(株)

日向須美子*¹, 日向昌司, 山下忠俊*², 大嶋直浩, 鎌倉浩之, 丸山卓郎, 袴塚高志, 天倉吉章*³, 合田幸広, 花輪壽彦*¹:エフェドリンアルカロイド除去麻黄エキス(EFM) の薬理作用.

日本薬学会第135年会(2015.3)

- *1 北里大学東医研
- *2 常磐植物化学研究所
- *3 松山大学薬学部

高橋純*1, 中森俊輔*1, 小林義典*1, 香川 (田中) 聡子, 神野透人, 日向昌司, 袴塚高志, 合田幸広, 日向須美子*2, 花輪壽彦*2: 麻黄のcapsaicin誘発性疼痛における 鎮痛効果.

日本薬学会第135年会(2015.3)

Hakamatsuka T: Managing sustainable use of finite resources – Responsibilities for importing countries and a Japanese case.

5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress (2014.4)

Kikura-Hanajiri R: Changes in the prevalence of new psychoactive substances before and after the introduction of the generic scheduling of synthetic

^{*1}大阪大学

^{*2} 国立感染症研究所

^{*1}大阪大学

^{*2} 国立感染症研究所

^{*1} 北里大学薬学部

^{*2} 北里大学東医研

cannabinoids in Japan.

NEW DRUGS 2014, Scientific and Technical Update on New Psychoactive Substances (2014.5)

Kikura-Hanajiri R, Uchiyama N, Hakamatsuka T: Studies on binding affinities of newly emerging synthetic cannabinoids at the cannabinoid CB1 and CB2 receptors.

The III International Conference on Novel Psychoactive Substances (2014.5)

Uchiyama N, Kikura-Hanajiri R, Aritake K*, Hakamatsuka T, Urade Y*: Changes in electroencephalogram power spectra and locomotor behavior in rat exposed to synthetic cannabinoids.

The III International Conference on Novel Psychoactive Substances (2014.5)

* 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構

在間一将, 丸山卓郎, 合田幸広, 袴塚高志: Polygonum 属植物に含有される Reaveratrol および anthraquinone 類の LC/MS 分析.

日本食品化学学会第20回総会・学術大会(2014.5)

Kikura-Hanajiri R: The emergence of new psychoactive substances in Japan.

ISALM2014 (2014.6)

内山奈穂子, 花尻 (木倉) 瑠理, 袴塚高志: 簡易薬物ス クリーニングキットを用いた合成カンナビノイドの識別 法の検討.

第36回日本中毒学会総会・学術集会 (2014.7)

堀井周文*, 小此木明*, 高橋隆二*, 鎌倉浩之, 袴塚高志, 合田幸広:小青竜湯エキス製剤及び湯剤の同等性に関す る研究 (第3報).

第31回和漢医薬学会学術大会(2014.8)

* クラシエ製薬(株)漢方研究所

Kikura-Hanajiri R, Uchiyama N, Hakamatsuka T: The binding affinities of synthetic cannabinoids newly emerged as alternatives to marijuana at the cannabinoid CB₁ and CB₂ receptors.

50th Congress of the European Societies of Toxicology (EUROTOX 2014) (2014.9)

Uchiyama N, Aritake K*, Urade Y*: Effect of cannabinoids on locomotor behavior and sleep/wake regulation in lipocalin-type prostaglandin D synthase and adenosine A2A receptors KO mice.

FEBS-EMBO2014 (2014.9)

* 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構

在間一将, 丸山卓郎, 林茂樹*1, 菱田敦之*1, 川原信 夫*1, 高上馬希重*2, 合田幸広, 袴塚高志: LC/MS に よる Polygonum 属植物に含有されるアントラキノン類 およびレスベラトロールの定量分析.

日本生薬学会第61回年会(2014.9)

*1 (独) 医薬基盤研究所薬用植物資源研究センター

*2 北海道医療大学薬学部

平澤祐介*,阿川愛美*,在間一将,合田幸広,森田博 史*:アスヒカズラ Lycopodium complanatum より単離 した新規アルカロイドの構造.

日本生薬学会第61回年会(2014.9)

* 星薬科大学

本島多可美*1, 池戸真吾*1, 岡本巧誠*1, 久保範洋*1, 平田智枝*1,柳本佳子*1,杉本智潮*1,富塚弘之*1,中 田裕二*2, 前田浩子*2, 鎌倉浩之, 袴塚高志, 合田幸広: オウレン (末) の原子吸光光度法による鉛分析.

日本生薬学会第61回年会(2014.9)

*1日本漢方生薬製剤協会技術委員会

*2 (一財)日本食品分析センター

山本博章*1, 白鳥誠*1, 多田恵弥*1, 表貴之*1, 安藤英 広*1, 伊藤紫野*1, 池戸真吾*1, 石間慶昭*1, 岡本巧誠*1, 久保範洋*1,田中啓介*1,野澤佳明*1,平田智枝*1,六 川将宏*1, 杉本智潮*1, 富塚弘之*1, 森田友美*2, 竹田 智子*2, 中谷正己*2, 関口道子*2, 袴塚高志, 合田幸広: 生薬の生菌数試験法の違いによる菌数結果差異につい

日本生薬学会第61回年会(2014.9)

政田さやか, 大脇美貴*, 粂田幸恵, 合田幸広, 袴塚高志: ショウマの基原鑑別法に関する研究.

^{*1}日本漢方生薬製剤協会技術委員会

^{*&}lt;sup>2</sup> (一財)日本食品分析センター

日本生薬学会第61回年会(2014.9)

* 東京理科大学大学院薬学研究科

阿川愛実*, 平澤祐介*, 内山奈穂子, 合田幸広, 森田博史*:ヒカゲノカズラ科 *Huperzia brassii* より単離した新規アルカロイドの構造.

日本生薬学会第61回年会(2014.9)

* 星薬科大学

丸山卓郎,河野徳昭*1,朱姝*2,小松かつ子*2,川原信夫*1,合田幸広:薬用植物総合情報データベースの構築-カッコンの遺伝子情報-.

第58回日本薬学会関東支部大会(2014.10)

*1 (独)医薬基盤研究所薬用植物資源研究センター

*2富山大学和漢医薬学総合研究所

Masada S: Evaluation of the botanical origin of Cimicifuga products in Japanese market.

5th International Symposium of the Western Pacific Regional Forum for the Harmonization of Herbal Medicines (FHH) (2014.11)

Kikura-Hanajiri R, Kawamura M, Maebashi K*, Matsumoto S*, Iwadate K*, Hakamatsuka T: Screening and quantitative analyses of newly-emerged psychoactive substances in 4 fatal cases using UPLC-MS/MS.

TIAFT2014 (2014.11)

* The Jikei University School of Medicine

Uchiyama N, Shimokawa Y, Aritake K*, Kikura-Hanajiri R, Hakamatsuka T, Urade Y*: Six newly-distributed synthetic cannabinoids, including FDU-NNEI, in illegal products and their effects on locomotor activity in mice.

TIAFT2014 (2014.11)

* 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構

最所和宏, 花尻(木倉) 瑠理, 合田幸広: 平成25年度無承認無許可医薬品の買い上げ調査について - 強壮用健康食品等 - .

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

河村麻衣子,内山菜穂子,花尻(木倉)瑠理,袴塚高志: 平成25年度危険ドラッグ製品の全国買い上げ調査について

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

村田さつき*, 新谷依子*, 髙橋浩司*, 堀就英*, 小木 曽俊孝*, 梶原淳睦*, 花尻(木倉) 瑠理: 平成24-25年 度福岡県における危険ドラッグ製品の買い上げ調査結 果

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

* 福岡県保健環境研究所

豊岡利正*, 花尻(木倉) 瑠理, 池田日高*: 超臨界流体クロマトグラフィー質量検出法(SFC-MS)による危険ドラッグの分析.

第25回クロマトグラフィー科学会議 (2014.12)

* 静岡県立大学薬学部

大嶋直浩,山下忠俊*1,日向須美子*2,日向昌司,鎌倉浩之,丸山卓郎,袴塚高志,天倉吉章*3,花輪壽彦*2,合田幸広:エフェドリンアルカロイド除去麻黄エキス(EFM)の製造法及びその成分組成について.

日本薬学会第135年会(2015.3)

*1(株)常磐植物化学研究所

*2 北里大学東洋医学総合研究所

*3 松山大学薬学部

榊真由*1, 山路誠一*1, 伏谷眞二*1, 若菜大悟, 丸山卓郎, 鎌倉浩之, 合田幸広, 杉村康司*2, 飯田修*2, 李昭瑩*3: Sida 属植物の組織形態学的研究 (6).

日本薬学会第135年会(2015.3)

*1日本薬科大学

*2 (独)医薬基盤研究所薬用植物資源研究センター

*3中国医薬大学

鎌倉浩之,細江潤子,袴塚高志,合田幸広:漢方エキス中の水銀,ヒ素,鉛及びカドミウムについて.

日本薬学会第135年会(2015.3)

堀井周文*, 小此木明*, 高橋隆二*, 鎌倉浩之, 袴塚高志, 合田幸広: 八味地黄丸エキス製剤及び湯剤の同等性に関 する研究(I).

日本薬学会第135年会 (2015.3)

* クラシエ製薬(株)漢方研究所

政田さやか,牧野利明*1,伊藤美千穂*2,能勢充彦*3, 鄭美和*4,三上正利*5,柴原直利*6,花輪壽彦*7,一般 用漢方製剤委員会*8,袴塚高志,合田幸広:一般用漢方 製剤の安全性確保に関する研究(4):「安全に使うため の一般用漢方処方の鑑別シート」の作成.

日本薬学会第135回年会(2015.3)

- *1 名古屋市立大学大学院薬学研究科
- *2 京都大学大学院薬学研究科
- *3 名城大学薬学部
- * 4 北里大学生命科学研究所
- *5 ミカミ薬局
- *6富山大学和漢医薬学総合研究所
- * 7 北里大学東洋医学総合研究所
- * 8 日本漢方生薬製剤協会

楢木洋子*,小林正治郎*,佐々木隆宏*,関雅晴*,岡秀樹*,横田和義*,政田さやか,袴塚高志,合田幸広:チェストベリーを配合する医薬品及び健康食品における品質評価.

日本薬学会第135回年会(2015.3)

* ゼリア新薬工業(株)

小島梨花*, 永田久美子*, 日坂真輔*, 袴塚高志, 能勢 充彦*: 漢方処方の科学的解析(第10報)マウスを用い た各種甘草配合漢方処方の経口投与時における血中グリ チルレチン酸動態の比較について.

日本薬学会第135年会(2015.3)

* 名城大学薬学部

豊岡利正*, 花尻(木倉) 瑠理, 轟木堅一郎*, 井之上 浩一*, 閔俊哲*, 池田日高*: 超臨界流体クロマトグラ フィー質量検出法 (SFC-MS) による合成カンナビノイ ド類の分析と実試料への応用.

日本薬学会第135年会(2015.3)

* 静岡県立大学薬学部

河村麻衣子, 花尻(木倉) 瑠理, 前橋恭子*, 柗本紗里*, 岩楯公晴*, 袴塚高志: LC-MS/MSを用いたヒト生体試料中危険ドラッグ成分のスクリーニングおよび定量分析.

日本薬学会第135年会(2015.3)

* 東京慈恵会医科大学

内山奈穂子,河村麻衣子,花尻(木倉)瑠理,合田幸広, 袴塚高志:2014年度危険ドラッグ製品流通実態調査によ り検出された新規流通成分の同定.

日本薬学会第135年会(2015.3)

佐藤道大 *1 , 八木下史敏 *2 , 三野孝 *2 , 内山奈穂子, 合田幸広, 野口博司 *1 , Houk K *3 , Tang Y *3 , 渡辺賢二 *1 : Diels-Alder反応によるSch210972炭素骨格構築機構の証明.

日本薬学会第135年会 (2015.3)

*1 静岡県立大学薬学部

- *2 千葉大学大学院工学研究科
- *3 カリフォルニア大学ロサンゼルス校

緒方潤, 阿久津守*1, 河野徳昭*2, 吉松嘉代*2, 川原信夫*2, 花尻(木倉) 瑠理, 袴塚高志:大麻のSSRマーカーによる系統識別.

日本薬学会第135年会 (2015.3)

*1 厚生労働省関東信越厚生局麻薬取締部

*2 (独)医薬基盤研究所薬用植物資源研究センター

田中理恵,柴田光*,永津明人*:qHNMR法による漢方処方中のpaeonolの定量.

日本薬学会第135年会(2015.3)

* 金城学院大学薬学部

Tano K, Yasuda S, Umezawa A*, Sato Y: A highly efficient culture method for growth and detection of undifferentiated human pluripotent stem cells present as impurities in cell-processed therapeutic products. International Society for Cellular Therapy (2014.4)

* 国立成育医療研究センター

内田恵理子,古田美玲,菊池裕,窪崎敦隆,遊佐精一,宮原美知子,佐々木裕子*1,小原有弘*2,大谷梓*2,松山晃文*3,大倉華雪*3,山口照英:日本薬局方参考情報収載マイコプラズマ否定試験のPCR法改正のための共同研究.

日本マイコプラズマ学会第41回学術集会(2014.5)

*1 国立感染症研究所

- *2 医薬基盤研究所
- *3 先端医療振興財団 (現所属:医薬基盤研究所)

Suresh T, Maekawa K, Saito Y, Sato Y, Suzuki T: Individual variations in the human urinary proteome in relation to rats.

The 3rd International Congress on Personalized Medicine (2014.6)

Kuroda T, Tachi S*, Yasuda S, Kusakawa S, Sato Y: Profiling of human induced pluripotent stem cell lines for predicting the differentiation propensity.

ISSCR 12th Annual Meeting (2014.6)

* 名古屋市立大学大学院薬学研究科

Miura T, Sugawara T*, Fukuda A*, Tamoto R*, Umezawa A*, Akutsu H*: Generation of committed neural progenitors from human fibroblasts by defined factors.

ISSCR 12th Annual Meeting (2014.6)

* 国立成育医療研究センター

井上貴雄:核酸医薬品の規制. 日本毒性学会学術年会(2014.7)

佐々木澄美, 吉田徳幸, 内田恵理子, 佐藤陽治, 井上貴雄: siRNAの細胞内取り込み機構の解析.

第6回日本RNAi研究会(2014.8)

Uchida E: Current situation of advanced therapy regulation in the world.

第20回日本遺伝子治療学会学術集会(2014.8)

Uchida E, Igarashi, Y*, Sato Y, Onodera M*, Yamaguchi T: Study on the biosafety of ex vivo transduced cells with retroviral vectors and Cartagena protocol domestic law.

第20回日本遺伝子治療学会学術集会(2014.8)

* 国立成育医療研究センター

Igarashi Y*, Uchida E, Onodera M*: Quality control for the supernatants of retroviral vectors using a nextgeneration DNA sequencer.

第20回日本遺伝子治療学会学術集会(2014.8)

* 国立成育医療研究センター

萩原衆子*1, 山本誠司*1, 吉田徳幸, 佐々木澄美, 飯村信*2, 小泉誠*2, 佐藤陽治, 植村英俊*1, 井上貴雄:オリゴ核酸による自然免疫活性化の評価法に関する研究.アンチセンス・遺伝子・デリバリーシンポジウム2014 (2014.9)

*1扶桑薬品工業

*2 第一三共

黒田拓也:iPS細胞由来移植細胞の品質·安全性について. 第58回日本薬学会関東支部大会若手シンポジウム (2014.10)

佐藤陽治:ヒト由来移植細胞に混入する多能性細胞・造腫瘍性細胞の検出法の性能評価.

第87回日本生化学会大会(2014.10)

佐藤陽治: 再生医療に関する日本の新しい規制の枠組み. RAPS Japan (Regulatory Affairs Professionals Society of Japan) 再生医療プレミアムワークショップ 「再生医療・再生医療等製品のレギュラトリーサイエンス」 (2014.10)

Yoshida T, Sasaki K, Obika S*, Sato Y, Inoue T: Evaluation of Off-target effects of antisense oligonucleotides.

10th Annual Meeting of the Oligonucleotide Therapeutics Society (2014.10)

* Osaka University

Kusakawa S, Yasuda S, Kuroda T, Kawamata S, Sato Y: A new soft agar colony formation assay based on high-content imaging for sensitive detection of tumorigenic cellular impurities in human cell-processed therapeutic products.

Global Controls in Stem Cells (2014.11)

佐藤陽治:細胞技術の許認可の実情-再生医療に関する 日本の新しい規制の枠組み-.

第36回日本バイオマテリアル学会大会 (2014.11)

Sato Y: Japanese regulations for quality and safety of regenerative medicine and cell therapy.

11th Annual Meeting DIA Japan 2014 (2014.11)

山口照英,内田恵理子,小野寺雅史*:遺伝子治療製品の品質/安全性確保のための指針改定と国際調和.

IMSUT-CGCTキックオフシンポジウム2014 (2014.11)

* 国立成育医療研究センター

Yasuda S: The New Japanese regulatory framework for regenerative medicine & cell therapy.

World Stem Cell Summit 14 (2014.12)

田埜慶子,安田智,黒田拓也,斎藤博久*,梅澤明弘*, 佐藤陽治:ヒト多能性幹細胞由来再生医療製品中に残存 する未分化細胞をダイレクトに検出する方法の開発. 第14回日本再生医療学会総会(2015.3)

* 国立成育医療研究センター

草川森士,安田智,黒田拓也,川真田伸*,佐藤陽治: 軟寒天コロニー形成試験を応用した再生医療製品に混在 する悪性形質転換細胞の高感度検出法.

第14回日本再生医療学会総会(2015.3)

* 先端医療振興財団

高田のぞみ,河野健,安田智,澤田留美,新見伸吾,松山晃文*,佐藤陽治:細胞増殖特性を利用した不死化細胞検出試験法の性能評価.

第14回日本再生医療学会総会(2015.3)

*(独)医薬基盤研究所

河野健,新見伸吾,澤田留美:間葉系幹細胞における細胞分化とLINE-1の発現について.

第14回日本再生医療学会総会(2015.3)

佐々木寛人 *1 , 高橋厚妃 *2 , 蟹江慧 *12 , 澤田留美, 本多裕之 *1 , 清田泰次郎 *3 , 加藤竜司 *12 : 骨髄由来および脂肪組織由来間葉系幹細胞の継代培養における品質劣化モニタリング.

第14回日本再生医療学会総会(2015.3)

*3(株) ニコン

服部隆行,大岡伸通,内藤幹彦:プロテアソーム阻害薬 によるシガトキシン誘導性アポトーシスの抑制.

第18回日本がん分子標的治療学会学術集会(2014.6)

大岡伸通,内藤幹彦: Apollon細胞分裂初期においてスピンドルチェックポイント非依存的なcyclin Aの分解を促進する.

第18回日本がん分子標的治療学会学術集会(2014.6)

服部隆行, 高橋美帆*, 大岡伸通, 西川喜代孝*, 内藤 幹彦:プロテアソーム阻害薬による志賀毒素誘導性細胞 死の抑制.

第18回腸管出血性大腸菌感染症研究会(2014.7)

* 同志社大学生命医科学部

Naito M: SNIPER: Inducing protein degradation via recruitment to IAP.

248th ACS National Meeting and Exposition (2014.8)

大岡伸通, 奥平桂一郎, 柴田識人, 服部隆行, 内藤幹彦: ユビキチン・プロテアソームシステムを利用した TACC3分解誘導剤によるがん細胞死の誘導.

第73回日本癌学会学術集会 (2014.9)

柴田識人,大岡伸通,権藤洋一*,内藤幹彦:終止コドンのリードスルー変異によるユビキチン-プロテアソーム系を介した蛋白質の不安定化.

第73回日本癌学会学術集会(2014.9)

* (独)理化学研究所バイオリソースセンター

大岡伸通, 永井克典*, 奥平桂一郎, 柴田識人, 服部隆行, 長展生*, 内藤幹彦: ユビキチン・プロテアソームシステムを利用したTACC3分解誘導剤による癌細胞死の誘導.

第37回日本分子生物学会年会(2014.11)

* 武田薬品工業(株)化学研究所

柴田識人, 大岡伸通, 櫻庭喜行*, 権藤洋一*, 内藤幹彦: Destabilization of carboxy-terminally extended proteins encoded by stop codon read-through mutation via ubiquitin-proteasome system.

Symposium for young ubiquitin researchers in

^{*1} 名古屋大学工学研究科

^{*2} 名古屋大学総薬学研究科

Japan"New Era in the Ubiquitin Research" (2014.11)

* (独)理化学研究所バイオリソースセンター

Ohoka N, Nagai K*, Okuhira K, Shibata N, Hattori T, Cho N*, Naito M: SNIPER (TACC3) degrades TACC3 protein via the ubiquitin-proteasome pathway and induces apoptosis in cancer cells expressing a large amount of TACC3.

26th EORTC-NCI-AACR Symposium on Molecular Targets and Cancer Therapeutics (2014.11)

スレッシュ ティルパッティ, 斎藤嘉朗, 本間正充, 佐藤陽治, 鈴木孝昌:変異原暴露モニタリング手法としてのタンパクアダクトミクス.

日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

Suzuki T, Suresh T: Protein adductome analysis for the human exposure monitoring to mutagens.

The 4th Asian Conference on Environmental Mutagens (2014.12)

内田恵理子:遺伝子治療用製品指針改定の取り組み-品質及び安全性の確保と遺伝子治療製品の開発促進のために.

第5回国際協力遺伝病遺伝子治療フォーラム (2015.1)

内田恵理子:新しいマイコプラズマ否定試験法. 第15回医薬品等ウイルス安全性シンポジウム (2015.2)

鈴木孝昌:医薬品開発においてヒト内在性物質を測定する際の定量分析法に関する留意点(案)の概要:規制の 重要性と今後の課題.

第6回JBFシンポジウム (2015.2)

服部隆行, 高橋美帆*¹, 椎名勇*², 大橋愛美*³, 旦慎吾*³, 西川喜代孝*¹, 内藤幹彦:新規小胞輸送阻害薬による志賀毒素の細胞死誘導活性の抑制.

日本薬学会第135年会(2015.3)

大岡伸通, 永井克典*, 服部隆行, 奥平桂一郎, 柴田識人,

長展生*,内藤幹彦:ユビキチン・プロテアソームシステムを利用したTACC3分解誘導剤の開発と抗がん活性評価.

日本薬学会第135年会 (2015.3)

* 武田薬品工業(株)化学研究所

吉田徳幸, 内藤雄樹*1, 佐々木澄美, 内田恵理子, 小比賀聡*2, 内藤幹彦, 佐藤陽治, 井上貴雄: アンチセンス医薬品のオフターゲット効果の安全性評価に関する研究

日本薬学会第135年会(2015.3)

佐々木澄美,吉田徳幸,内田恵理子,内藤幹彦,佐藤陽 治,井上貴雄:核酸医薬品の細胞内取り込み機構に関す る解析.

日本薬学会第135年会(2015.3)

萩原衆子*1, 山本誠司*1, 吉田徳幸, 佐々木澄美, 飯村信*2, 小泉誠*2, 内藤幹彦, 佐藤陽治, 植村英俊*1, 井上貴雄: 修飾型オリゴ核酸による自然免疫活性化の評価法に関する研究.

日本薬学会第135年会(2015.3)

内田恵理子,豊田淑江,古田美玲,山口照英,佐藤陽治:パルボウイルスB19感染系の改良とジェノタイプの違いによる増殖能の比較.

日本薬学会第135年会(2015.3)

柴田識人,大岡伸通, 櫻庭喜行*, 権藤洋一*, 内藤幹彦: 終止コドンのリードスルー変異によるユビキチン-プロ テアソーム系を介した蛋白質の不安定化.

日本薬学会第135年会(2015.3)

内藤幹彦: Protein Knockdown: Targeted destruction of Pathogenic Proteins by SNIPER Compounds.

日本薬学会第135年会日韓合同シンポジウム (2015.3)

古田美玲, 内田恵理子, 山口照英:再生医療製品のマイ

^{*} 武田薬品工業(株)化学研究所

^{*1} 同志社大学生命医科学部

^{*2} 東京理科大学理学部

^{*3(}財)がん研究会がん研究所がん化学療法センター

^{* 1} ライフサイエンス統合データベースセンター

^{*2} 大阪大学大学院薬学研究科

^{*1} 扶桑薬品工業(株)

^{*2} 第一三共(株)

^{* (}独)理化学研究所バイオリソースセンター

コプラズマ否定試験としてのNATの適用に関する研究. 第14回日本再生医療学会総会(2015.3)

井上貴雄:核酸医薬の実用化に向けたレギュラトリーサイエンス研究への取り組み.

日本化学会第95春期年会(2015.3)

蓜島由二,福井千恵,比留間瞳,野村祐介,田中賢*,新見伸吾:蛋白質吸着挙動に基づく血液適合性評価マーカの検証に関する研究.

第36回日本バイオマテリアル学会大会 (2014.11)

蓜島由二,福井千恵,山﨑佳世*1,野村祐介,小園知,熊田秀文*2,藤澤彩乃*3,井上薫,森川朋美,市村亮平,前田潤,高橋美和,河上強志,伊佐間和郎,柚場俊康*4,鄭雄一*3,小川久美子,新見伸吾,吉田緑:新規血液バッグ用代替可塑剤DOTHのラット亜慢性毒性試験.

第36回日本バイオマテリアル学会大会 (2014.11)

蓜島由二,河上強志,福井千恵,田上昭人*1,柚場俊康*2,向井智和*2,野村祐介,伊佐間和郎,新見伸吾:新規血液バッグ素材DOTH/DINCH配合PVCシートの性能評価.

第36回日本バイオマテリアル学会大会 (2014.11)

蓜島由二,福井千恵,野村祐介,藤澤彩乃*1,山﨑佳世*2,熊田秀文*3,井上薫,森川朋美,高橋美和,河上強志,伊佐間和郎,柚場俊康*4,宮崎謙一*5,鄭雄一*1,小川久美子,新見伸吾,吉田緑:PVC製血液バッグに適用可能な新規可塑剤NJC-NPの毒性評価.

日本薬学会第135年会(2015.3)

Olsen DS*1, Lee M*1, Turley A*1, Sasaki S*2, Yamasaki K*2, Fukui C, Nomura Y, Kato R, Yuba T*3, Sakaguchi K*4, Haishima Y: Extractable positive control for in vitro skin irritation testing of medical devices. 54th Annual Meeting and ToxExpo (2015.3)

蓜島由二:医療機器・再生医療等製品分野におけるエンドトキシンの諸問題.

第30回GMPとバリデーションをめぐる諸問題に関する シンポジウム(2015.3)

天野亮*1, 野村祐介, 永田崇*²³, 小林直宏*⁴, 高田健太*¹, 福永淳一*⁵, 田中陽一郎*⁵, 片平正人*²³, 中村義一*⁶⁷, 神津知子*⁵, 坂本泰一*¹: NMRによるAML1 RuntドメインとRNAアプタマーの相互作用の解析. 日本分光学会年次講演会 (2014.5)

Amano R*1, Nomura Y, Nagata T*2, Kobayashi N*3, Mori Y*1, Takada K*1, Fukunaga J*4, Tanaka Y*4, Katahira M*2, Nakamura Y*56, Kozu T*4, Sakamoto T*1: Properties of RNA aptamer binding to AML1 Runt domain.

International Roundtable of Nucleosides, Nucleotides and Nucleic Acids (2014.8)

^{*} 山形大学

^{*1} 民生科学協会

^{*2}神奈川歯科大学

^{*3} 東京大学

^{* 4} 川澄化学工業

^{*1} 国立成育医療センター

^{*2}神奈川歯科大学

^{*1} 東京大学

^{*2} 民生科学協会

^{*3}神奈川歯科大学

^{* 4} 川澄化学工業

^{*5}新日本理化

^{* 1} Nelson Laboratories, Inc.

^{* &}lt;sup>2</sup> Public Welfare Institute of Scientific Research Fooundation

^{* 3} Kawasumi Laboratories, Inc.

^{* 4} TERUMO Corporation

^{*1} 千葉工業大学

^{*2} 京都大学エネルギー理工学研究所

^{*3} 京都大学工学部

^{* 4} 大阪大学蛋白質研究所

^{*5} 埼玉県立がんセンター

^{*6} 東京大学医科学研究所

^{*7} リボミック

^{* 1} Chiba Institute of Technology

^{* &}lt;sup>2</sup> University of Kyoto

^{* 3} University of Osaka

^{* &}lt;sup>4</sup> Saitama Cancer Center

^{* &}lt;sup>5</sup> The University of Tokyo Institute of Medical Science

^{* &}lt;sup>6</sup> Ribomic Incorporated

神津知子*¹, 福永淳一*¹, 野村祐介, 田中陽一郎*^{1,2}, 天野亮*³, 田中卓*³, 中村義一*⁴, 河合剛太*³, 坂本泰一*³: A sequence-conserved RNA motif binds to the DNA-recognition site of AML1.

第73回日本癌学会学術総会(2014.9)

*1 埼玉県立がんセンター

- *2横浜国立大学
- *3 千葉工業大学
- * 4 東京大学医科学研究所

高田健多*¹, 天野亮*¹, 永田崇*², 片平正人*², 野村祐介, 田中陽一郎*³, 中村義一*^{4,5}, 神津知子*³, 坂本泰一*¹: AML1 Runt domain とRNA アプタマーの相互作用の NMR解析.

第37回日本分子生物学会年会(2014.11)

*1 千葉工業大学

- *2 京都大学
- *3 埼玉県立がんセンター
- * 4 東京大学医科学研究所
- *5(株)リボミック

野村祐介,福井千恵,柚場俊康*1,新藤智子*2,坂口圭介*3,谷川隆洋*3,杉山知子*3,竹ノ内美香*3,新見伸吾,蓜島由二:簡易溶血性試験法の性能評価と公定法との比較給証

第36回日本バイオマテリアル学会大会 (2014.11)

- *1 川澄化学工業
- *2食品薬品安全センター
- *3 テルモ

野村祐介,福井千恵,戸井田瞳,新見伸吾,宮川伸*¹,金玲*¹,中村義一*^{1,2},蓜島由二:RNAアプタマーを用いた新規医用材料の開発.

第36回日本バイオマテリアル学会大会 (2014.11)

- *1 (株)リボミック
- *2 東京大学

宮島敦子,河上強志,小森谷薫,加藤玲子,新見伸吾,伊佐間和郎:酸化金属ナノマテリアルに対するTHP-1細胞の細胞応答.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

Miyajima-Tabata A, Kato R, Komoriya K, Niimi S:

Cellular response of THP-1 cells cultured on the polymer biomaterials.

Eurotox 2014 (2014.9)

宮島敦子,小森谷薫,田中賢*,比留間瞳,加藤玲子,新見伸吾:血液適合性試験におけるHEMA/MEAランダム共重合体材料に対する蛋白質マーカーの挙動について.

第36回日本バイオマテリアル学会大会(2014.11)

* 山形大学

Miyajima-Tabata A, Kawakami T, Komoriya K, Kato R, Niimi S, Isama K: Effects of metal oxide nanomaterials on cytotoxicity and immune response in THP-1 cells. The 54th Annual Meeting of the Society of Toxicology (2015.3)

加藤玲子, 蓜島由二, 福井千恵, 比留間瞳, 澤田留美, 宮島敦子, 新見伸吾: ヒト単球系細胞の蛋白質発現挙動 に基づく医用材料の血液適合性評価マーカの探索. 第36回日本バイオマテリアル学会 (2014.11)

加藤玲子, 佐藤正人*1, 岡田恵里*1, 阿久津英憲*2, 小 久保舞美*1, 河毛知子*1, 宮島敦子, 梅澤明弘*2, 持田 譲治*1, 新見伸吾: 多指症組織由来細胞の免疫制御能の 解析.

第29回日本整形外科学会基礎学術集会(2014.10)

*1 東海大学医学部

*2 国立成育医療研究センター

Koseki H*1, Tomita M*1, Shida T*1, Yoda I*1, Horiuchi H*1, Morinaga Y*2, Yanagihara K*2, Sakoda H, Osaki M*1: *Staphylococcal* Biofilm Formation on Orthopeadic solid Implant materials.

24nd The Japanese-Korean Combined Orthopaedic Symposium (2014.6)

依田周*, 小関弘展*, 志田崇之*, 堀内英彦*, 迫田秀行, 尾崎誠*:表皮ブドウ球菌付着に影響する表面粗さの最 小限領域.

第37回日本骨・関節感染症学会(2014.6)

^{* 1} Nagasaki University

^{* &}lt;sup>2</sup> Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences

* 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

小関弘展*1, 志田崇之*1, 依田周*1, 堀内英彦*1, 迫田秀行, 森永芳智*2, 柳原克紀*2, 尾崎誠*1: 表皮ブドウ球菌バイオフィルム形成に対する固体表面自由エネルギーの影響.

第37回日本骨・関節感染症学会(2014.6)

*1 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

追田秀行: 抜去人工関節分析に基づく人工関節材料の耐 久性評価法の開発.

第53回日本生体医工学会大会(2014.6)

Sakoda H, Niimi S: Development of methods for evaluating mechanical properties of retrieved ultrahigh molecular weight polyethylene components of artificial joints.

ISTA 2014 (2014.9)

野口智恵子*¹, 小関弘展*¹, 志田崇之*¹, 依田周*¹, 堀 内英彦*¹, 尾崎誠*¹, 森永芳智*², 柳原克紀*², 迫田秀行: 初期バイオフィルム形成に影響する生体材料の表面粗さ 以外の物理的特性.

第42回日本関節病学会(2014.11)

*1 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

*2 長崎大学病院検査部

追田秀行, 柚場俊康*, 向井智和*, 新見伸吾, 蓜島由二: 新規血液バッグ素材DOTH/DINCH配合PVCシートの力 学特性.

第36回日本バイオマテリアル学会 (2014.11)

* 川澄化学工業

追田秀行,新見伸吾:疲労き裂進展特性による人工関節 用高度架橋超高分子量ポリエチレンの耐久性評価. 第41回日本臨床バイオメカニクス学会(2014.11)

追田秀行,新見伸吾:人工関節のイノベーションに対応 した次世代医療機器評価指標作成事業での取り組み. 第27回バイオエンジニアリング講演会 (2015.1)

Sakoda H, Niimi S: Effects of absorbed lipids on fatigue

crack growth rates of ultra-high molecular weight polyethylene.

Orthopaedic Research Society, 61st Annual Meeting (2015.3)

Kono K, Niimi S, Sawada R: Analysis of Line1 expression in human mesenchymal stem cells.

12th Annual Meeting of International Society for Stem Cell Research (2014.6)

Sasaki H*1, Okada N*1, Kanie K*1, Kiyota Y*2, Honda H*1, Sawada R, Kato R*1: Image-based profiling of mesenchymal stem cells using non-label images.

TERMIS-EU 2014 (2014.6)

澤田留美,河野健,比留間瞳,加藤玲子,新見伸吾:生体親和性高分子材料によるヒト単球細胞の機能の制御について-遺伝子発現の網羅的解析による検討.

第36回日本バイオマテリアル学会大会 (2014.11)

中岡竜介, 蓜島由二, 新見伸吾:橋渡し研究及び国際標準化の行政的支援.

第53回日本生体医工学会大会(2014.6)

中岡竜介,新見伸吾:ベタイン構造模倣表面上における タンパク質吸着挙動の検討.

第36回日本バイオマテリアル学会大会(2014.11)

植松美幸, 蓜島由二, 中岡竜介, 中野達也, 瀬川勝智, 新見伸吾:分子動力学的シミュレーションによるPMEA分子に存在する水の挙動解析.

第36回日本バイオマテリアル学会 (2014.11)

植松美幸, 高橋泰浩*1, 梅津光生*1, 中岡竜介, 新見伸吾, 青見茂之*2, 飯村浩*3, 鈴木孝司*2, 村垣善浩*2, 伊関 洋*2, 岩﨑清隆*1: ユーザビリティを考慮した大血管ナ ビゲーションの設計開発.

第23回日本コンピュータ外科学会大会 (2014.11)

高橋泰浩*1, 植松美幸, 青見茂之*2, 飯村浩*3, 梅津光

^{*2} 長崎大学病院検査部

^{* 1} Nagova University

^{* &}lt;sup>2</sup> Nikon Corporation

^{*1}早稲田大学

^{*2} 東京女子医科大学

^{*3} 東京女子医科大学病院

生*1, 中岡竜介, 新見伸吾, 鈴木孝司*2, 村垣善浩*2, 伊関洋*2. 岩﨑清隆*1: 人工血管を用いた大動脈瘤治療 のためのナビゲーショシステムのユーザビリティの向

第27回バイオエンジニアリング講演会(2015.1)

- *1早稲田大学
- *2 東京女子医科大学
- *3 東京女子医科大学病院

安里権也*1,植松美幸,田中良典*1,高橋泰浩*1,東 隆*2, 山崎健二*2, 中岡竜介, 新見伸吾, 梅津光生*1. 岩﨑清隆*1:開窓型ステントグラフトの留置術評価のた めの拍動循環シミュレータの開発.

第27回バイオエンジニアリング講演会 (2015.1)

- *1早稲田大学
- *2 東京女子医科大学

河上強志, 伊佐間和郎, 五十嵐良明:皮膚に触れる可能 性のある家庭用品に使用されている防腐剤の実態 - 冷感 タオルおよび衛生製品等における事例.

第23回環境化学討論会(2014.5)

久保田領志,小林憲弘,齊藤香織*1,齋藤信裕*2,鈴木 俊也*3, 小杉有希*3, 田中美奈子*4, 塚本多矩*5, 林田 寬司*6. 平林達也*7. 山本五秋*1. 五十嵐良明:固相抽 出-LC/MS法によるフェノール類検査法の妥当性評価. 第23回環境化学討論会(2014.5)

*¹ サーモフィッシャーサイエンティフィック(株)

- *2 仙台市水道局
- *3 東京都健康安全研究センター
- * 4 千葉県水道局
- *5(株)島津製作所
- *⁶ ジーエルサイエンス(株)
- *7 大阪市水道局

山本五秋*, 齊藤香織*, 関口陽子*, 山岸陽子*, 久保 田領志:直接注入-LC-MS/MS 法による水道水中ハ ロアセトニトリル類測定法の検討.

第23回環境化学討論会(2014.5)

* サーモフィッシャーサイエンティフィック(株)

高玲華*, 臼井淳*, 林田寛司*, 宮林武司*, 高橋正和*, 久保田領志:固相抽出-LC/MS (LC/MS/MS) 法によ る水中フェノール類の分析法の検討. 第23回環境化学討論会(2014.5)

* ジーエルサイエンス (株)

内野正, 竹澤俊明*1, 山下邦彦*2, 小島肇, 押方歩*1, 石田誠一,清水久美子,秋山卓美,五十嵐良明:THP-1 細胞のビトリゲル薄膜への接着性について.

日本組織培養学会第87回大会(2014.5)

*1(独)農業生物資源研究所

*² (株)ダイセル

内野正, 宮﨑洋*, 山下邦彦*:皮膚感作性試験法の開

日本組織培養学会第87回大会サテライトシンポジウム (2014.5)

* (株)ダイセル

香川(田中) 聡子, 大河原晋*, 田原麻衣子, 川原陽子, 真弓加織, 五十嵐良明, 神野透人:家庭用品中の香料成 分によるヒト侵害受容器TRPA1の活性化.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

* 九州保健福祉大学薬学部

秋山卓美,清水久美子,藤卷日出夫,内野正,最上(西 巻) 知子, 五十嵐良明:ロドデノールの代謝とメラノサ イトに対する細胞毒性.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

小林憲弘, 田中亮太*, 竹原広*, 納屋聖人*, 久保田領志, 五十嵐良明, 広瀬明彦:マウス反復気管内投与による多 層カーボンナノチューブの催奇形性の評価.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

* (公財)食品農医薬品安全性評価センター

五十嵐良明, 小濱とも子, 清水久美子, 河上強志, 秋山 卓美、藤井まき子*:コチニール色素及びカルミンの感 作性評価のための各種試験法の適用性について.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

Jinno H, Tanaka-Kagawa T, Okamoto Y, Tahara M,

* 昭和薬科大学

Ikarashi Y: Japanese national survey of volatile organic compounds in residential air for the revision of the indoor air quality guidelines.

Indoor Air 2014 The 13th International Conference on Indoor Air Quality and Climate (2014.7)

Tanaka-Kagawa T, Ohkawara S*, Tahara M, Kawahara Y, Mayumi K, Ikarashi Y, Jinno H: Activation of nociceptive transient receptor potential channels by antimicrobial agents/ Isothiazolines in consumer products.

Indoor Air 2014 The 13th International Conference on Indoor Air Quality and Climate (2014.7)

Tahara M, Tanaka-Kagawa T, Okamoto Y, Mayumi K, Kawahara Y, Ikarashi Y, Jinno H: Random sampling survey of indoor air total volatile organic compounds in Kanto region, Japan.

Indoor Air 2014 The 13th International Conference on Indoor Air Quality and Climate (2014.7)

Uchino T, Miyazaki H*1, Yamashita K*1, Kojima H, Oshikata-Miyazaki A*2, Takezawa T*2, Shimizu K, Akiyama T, Ikarashi Y: Development of skin sensitization test method using THP-1 cells cultured on a collagen vitrigel membrane chamber for oily materials.

9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (2014.8)

五十嵐良明,小濱とも子,河上強志,伊佐間和郎:ポリ 塩化ビニル製品添加剤の皮膚感作性評価.

フォーラム2014: 衛生薬学・環境トキシコロジー (2014.9)

神野透人,香川(田中)聡子,田原麻衣子,川原陽子, 真弓加織,五十嵐良明,埴岡伸光*:計算化学による揮 発性有機化合物の経鼻吸収性予測に関する研究.

フォーラム2014:衛生薬学・環境トキシコロジー (2014.9)

香川(田中)聡子,田原麻衣子,岩田直樹*,高菅卓三*,

川原陽子, 真弓加織, 五十嵐良明, 神野透人:ハウスダストを介するPCBの曝露評価.

フォーラム2014: 衛生薬学・環境トキシコロジー (2014.9)

田原麻衣子,香川(田中)聡子,川原陽子,五十嵐良明,神野透人:可塑剤フタル酸エステル類の室内環境動態:ハウスダスト中の加水分解生成物.

フォーラム2014:衛生薬学・環境トキシコロジー (2014.9)

河上強志, 伊佐間和郎, 五十嵐良明: 家庭用スプレー製品の使用に伴う健康被害例の解析.

フォーラム2014: 衛生薬学・環境トキシコロジー (2014.9)

Isama K, Kawakami T, Miyajima A: Characteristics and cytotoxic effects of nanoparticles when coexisting with metal salts.

Eurotox 2014 (2014.9)

小林憲弘, 久保田領志, 五十嵐良明:水道水中のイミノクタジン, ジクワット, パラコートの一斉分析法開発. 日本水道協会平成26年度全国会議(2014.10)

久保田領志,小林憲弘,五十嵐良明:平成25年度水道水 質検査精度管理のための統一試料調査の結果および留意 占

日本水道協会平成26年度全国会議(2014.10)

伊佐間和郎,河上強志,新見伸吾:血液適合性材料に吸着するタンパク質の動力学的解析.

第36回日本バイオマテリアル学会(2014.11)

神野透人,香川(田中)聡子,田原麻衣子,川原陽子, 真弓加織,五十嵐良明,縣邦雄*¹,杉山寛治*²,小坂浩 司*³,八木田健司*⁴,泉山信司*⁴,倉文明*⁴:循環式温 泉浴槽水および浴室空気中のヨウ素化消毒副生成物.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

香川(田中) 聡子,田原麻衣子,川原陽子,真弓加織,神野透人,五十嵐良明:子供用ベッド・学習机から放散する揮発性有機化合物ならびにその評価法に関する研

^{*} Kyushu University of Health and Welfare

^{* &}lt;sup>1</sup> Daicel Corporation

^{* 2} National Institute of Agrobiological Sciences

^{*} 横浜薬科大学

^{* (}株)島津テクノリサーチ

^{*1} アクアス(株)

^{*2 (}株)マルマ

^{*3}国立保健医療科学院

^{* 4} 国立感染症研究所

究.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

田原麻衣子,香川(田中)聡子,川原陽子,真弓加織,神野透人,五十嵐良明:首都圏を対象とした室内空気中の揮発性有機化合物に関する無作為調査.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

秋山卓美,大津有紀子,河上強志,清水久美子,内野正,五十嵐良明:化粧品中のメチルイソチアゾリノンおよびメチルクロロイソチアゾリノンのLC/MSによる定量法. 第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

久保田領志,小林憲弘,齊藤香織*1,齋藤信裕*2,鈴木俊也*3,小杉有希*3,田中美奈子*4,塚本多矩*5,林田寛司*6,平林達也*7,山本五秋*1,五十嵐良明:固相抽出-LC/MS法による水道水中フェノール類検査法の妥当性評価

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

*1 サーモフィッシャーサイエンティフィック(株)

- *2仙台市水道局
- *3 東京都健康安全研究センター
- * 4 千葉県水道局
- *5(株)島津製作所
- * 6 ジーエルサイエンス(株)
- *7 大阪市水道局

久保田領志,小林憲弘,五十嵐良明:水道水質検査精度 管理のための統一試料調査:平成25年度の結果および留 意点について.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

小林憲弘, 古川浩司*, 久保田領志, 五十嵐良明: 水道 水中のジチオカルバメート系農薬の分析法開発 – HS-GC/MS法 – .

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

* (一財)三重県環境保全事業団

小林憲弘, 久保田領志, 五十嵐良明:水道水中のピラクロニル・フェリムゾンの分析法開発.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

小林憲弘, 久保田領志, 佐々木俊哉*, 五十嵐良明: 水 道水中のパラコートの分析法開発.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

* 日本ウォーターズ(株)

小林憲弘, 古川浩司*1, 阿部晃文*2, 久保田領志, 五十嵐良明: 水道水中のダゾメット・メタム (カーバム) の分析法開発.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

*1(一財)三重県環境保全事業団

*2 川崎市上下水道局

河上強志,伊佐間和郎,五十嵐良明:HPLC/PDAによる繊維および革製品に使用されたアゾ染料に由来する特定芳香族アミン類分析法の検討.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

河上強志、宮島敦子、小森谷薫、加藤玲子、伊佐間和郎: 二次粒子径の異なるNiOナノ粒子懸濁液の調製とそれら の細胞毒性試験.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

伊佐間和郎,河上強志,小濱とも子,五十嵐良明:亜リン酸エステル系酸化防止剤の細胞毒性と皮膚感作性.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

伊佐間和郎,河上強志,宮島敦子:金属塩化物の共存に伴うSiO₂及びTiO₂ナノ粒子の物性変化.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

小濱とも子,五十嵐良明,田原麻衣子,林正人*1,安田 純子*²,武知めぐみ*³,久世哲也*⁴,高野勝弘*⁵,宮澤 法政*⁶,小島尚*⁷,坂口洋*⁸,藤井まき子*⁹:1,4-ジオ キサン試験法の多施設共同試験と各種界面活性剤中の分 析.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

- *1(株)資生堂
- *2(株)コーセー
- *3ポーラ化成工業(株)
- *4 (株)カネボウ化粧品
- *5日本化粧品工業連合会
- *6 埼玉県衛生研究所
- *7 帝京科学大学
- *8 北里大学
- *9昭和薬科大学

小林憲弘:水道水質検査方法の改定に関する最新情報.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

伊佐間和郎:家庭用品規制法に関する動向について. 第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

神野透人:室内濃度指針値の改定に向けて. 第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

神野透人,香川(田中)聡子,田原麻衣子,川原陽子, 真弓加織,五十嵐良明:無作為抽出による首都圏一般家 庭を対象にした室内空気中アルデヒド類および総揮発性 有機化合物の調査.

平成26年度室内環境学会学術大会(2014.12)

香川(田中) 聡子,田原麻衣子,川原陽子,上村仁*¹, 斎藤育江*²,武内伸治*³,五十嵐良明,神野透人:室内 外空気中の粒子状およびガス状準揮発性有機化合物に関 する研究.

平成26年度室内環境学会学術大会(2014.12)

*1神奈川県衛生研究所

*2東京都健康安全研究センター

*3 北海道立衛生研究所

田原麻衣子,香川(田中)聡子,川原陽子,五十嵐良明,神野透人:ガスクロマトグラフ/タンデム質量分析計による空気中の準揮発性有機化合物一斉分析法の開発. 平成26年度室内環境学会学術大会(2014.12)

秋山卓美, 五十嵐良明, 小濱とも子, 清水久美子, 河上 強志, 藤井まき子*, 杉本直樹, 穐山浩: コチニール色 素及びカルミンの各種試験法によるアレルゲン性の評 価

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

* 昭和薬科大学

内野正, 宮﨑洋*¹, 山下邦彦*¹, 小島肇, 竹澤俊明*², 山口典子*³, 中村牧*⁴, 高石雅之*⁵, 秋山卓美, 五十嵐良明: ビトリゲルチャンバーを用いた皮膚感作性試験代替法 (Vitrigel-SST法) の改良.

日本動物実験代替法学会第27回大会(2014.12)

*5(株)マンダム

宮﨑洋*¹, 山下邦彦*¹, 内野正, 小島肇, 竹澤俊明*²: ビトリゲルチャンバーを用いた皮膚感作性試験代替法 (Vitrigel-SST法) による感作性物質の評価.

日本動物実験代替法学会第27回大会(2014.12)

五十嵐良明: 総論・環境化学物質 環境化学物質のレギュラトリーサイエンス: 空気, 水, 家庭用品等に含まれる化学物質の安全性評価.

薬学教育におけるレギュラトリーサイエンスに係る教材 や教育方法に関するシンポジウム (2015.2)

五十嵐良明:事例・化学物質 水道水質事故への対応. 薬学教育におけるレギュラトリーサイエンスに係る教材 や教育方法に関するシンポジウム (2015.2)

五十嵐良明,小濱とも子,田原麻衣子:洗浄製品及び界 面活性剤中の1,4-ジオキサンの分析.

日本薬学会第135回大会 (2015.3)

香川(田中) 聡子,田原麻衣子,真弓加織,川原陽子, 上村仁*¹,斎藤育江*²,武内伸治*³,五十嵐良明,神野 透人:準揮発性有機化合物の室内及び屋外空気中濃度と 存在形態に関する研究.

日本薬学会第135年会(2015.3)

田原麻衣子,香川(田中)聡子,川原陽子,五十嵐良明,神野透人:室内空気に由来する可塑剤および難燃剤の初期曝露評価.

日本薬学会第135年会(2015.3)

河上強志,伊佐間和郎,五十嵐良明:フッ素系またはシリコーン系化合物を含む家庭用スプレー製品の噴霧粒子 径等の実態調査.

日本薬学会第135年会(2015.3)

伊佐間和郎,河上強志,小濱とも子,五十嵐良明:亜リン酸トリエステル系酸化防止剤の細胞毒性及び皮膚感作性.

^{*1(}株)ダイセル

^{*2(}独)農業生物資源研究所

^{*3(}株)ボゾリサーチセンター

^{*4} 小林製薬(株)

^{*1 (}株)ダイセル

^{*2 (}独)農業生物資源研究所

^{*1}神奈川県衛生研究所

^{*2} 東京都健康安全研究センター

^{*3} 北海道立衛生研究所

日本薬学会第135年会(2015.3)

武内伸治*1, 神和夫*1, 佐藤正幸*1, 小林智*1, 小島弘 幸*1, 斎藤育江*2, 上村仁*3, 香川(田中) 聡子, 神野 透人:居住住宅における室内空気中の可塑剤及び有機リ ン系難燃剤の分別定量 (第2報).

日本薬学会第135年会(2015.3)

- *1 北海道立衛生研究所
- *2 東京都健康安全研究センター
- *3神奈川県衛生研究所

宗田杏樹*,柏崎麻理恵*,弘田尊裕*,中森俊輔*,白 畑辰弥*,香川(田中)聡子,神野透人,小林義典*: Evodiamine両鏡像体の合成とそのTRPV1活性化能の比 較.

日本薬学会第135年会(2015.3)

* 北里大学薬学部

星純也*1, 杉田和俊*2, 泉川碩雄*3, 梅沢夏実*4, 蜂須 賀曉子,岸本武士*5, 山田崇裕*6, 香川(田中)聡子, 小川俊次郎*7, 渡辺徹志*7, 遠藤治*2:環境試験法・空 気試験法 放射性物質 (新規).

日本薬学会第135年会(2015.3)

- *1 東京都環境科学研究所
- *2 麻布大学
- *3元東京都環境科学研究所
- *4 埼玉県環境科学国際センター
- *5日本分析センター
- *6日本アイソトープ協会
- *7 京都薬科大学

Akiyama T, Shimizu K, Fujimaki H*, Uchino T, Nishimaki-Mogami T, Ikarashi Y: Metabolic oxidation of rhododendrol and enhanced cytotoxicity in melanocytes.

54th Annual Meeting of the Society of Toxicology (2015.3)

* Public Welfare Institute of Scientific Research

Kobayashi N, Kubota R, Tanaka R*, Takehara H*, Naya M*, Ikarashi Y, Hirose A: Evaluation of teratogenicity of multi-wall carbon nanotubes in pregnant mice after repeated intratracheal instillation.

54th Annual Meeting of the Society of Toxicology (2015.3)

* Biosafety Research Center

植草義徳, 鍋師裕美, 中村里香, 堤智昭, 蜂須賀暁子, 松田りえ子, 手島玲子: 市販流通食品中の放射性セシウ ム検査~平成25年度流通食品検査のまとめ~.

第23回環境化学討論会(2014.5)

片岡洋平, 渡邉敬浩, 林智子, 松田りえ子, 蜂須賀暁子, 手島玲子: 東日本大震災・津波被害地域で市販された食 品の有害元素類含有量実態調査.

第23回環境化学討論会(2014.5)

堤智昭, 高附巧, 渡邉敬浩, 松田りえ子, 手島玲子: 国 内で市販されている健康食品中のダイオキシン類含有実 態調査 (2007-2012年度).

第23回環境化学討論会(2014.5)

渡邉敬浩, 植草義徳, 高附巧, 片平洋平, 堤智昭, 松田 りえ子, 蜂須賀暁子, 手島玲子: 東日本大震災・津波被 害地域で市販された魚類製品のPCBs濃度の実態調査. 第23回環境化学討論会(2014.5)

坂井隆敏, 根本了, 手島玲子: 畜水産物中のプロゲステ ロン分析法の開発および実態調査.

第107回日本食品衛生学会学術講演会(2014.5)

鍋師裕美, 堤智昭, 蜂須賀暁子, 八戸真弓*, 濱松潮香*, 等々力節子*, 松田りえ子, 手島玲子:米・麦・大豆中 の放射性ストロンチウムと放射性セシウムの濃度比につ いて、

第107回日本食品衛生学会学術講演会(2014.5)

* (独)農研機構食品総合研究所

鍋師裕美:食品中の放射性セシウムに関する研究. 第107回日本食品衛生学会学術講演会(2014.5)

志田 (齊藤) 静夏. 根本了. 手島玲子: GC-MS/MSを 用いた茶中の残留農薬一斉分析法の検討. 第20回日本食品化学学会学術大会(2014.5)

手島玲子:食品の安全と評価科学. 第20回日本食品化学学会学術大会(2014.5)

菊地博之, 渡邉敬浩, 林智子, 赤木浩一*, 松田りえ子, 手島玲子:暫定的規制値への適合判定を目的としたメチ ル水銀分析法の開発.

第20回日本食品化学学会学術大会(2014.5)

* 福岡市保健環境研究所

片岡洋平,五十嵐敦子,平間祐志*1, 吉崎麻友子*2, 石 井敬子*3, 寺田久屋*4, 小林博美*5, 中村雅子*6, 石川 順子*7, 山本雄三*8, 古謝あゆ子*9, 松田りえ子, 渡邉 敬浩, 手島玲子: 2013年度有害物質の摂取量推定とこれ までの年次推移.

第20回日本食品化学学会学術大会(2014.5)

- *1 北海道立衛生研究所
- *2新潟県保健環境科学研究所
- *3 横浜市衛生研究所
- * 4 名古屋市衛生研究所
- *5 滋賀県衛生科学センター
- *6福井県衛生環境研究センター
- * 7 香川県環境保健研究センター
- * 8 宮崎県衛生環境研究所
- *9沖縄県衛生環境研究所

渡邉敬浩, 片岡洋平, 荒川史博*, 森松文毅*, 手島玲子: 摂取量推定を目的とした元素分析法の性能評価手法の開

第20回日本食品化学学会学術大会(2014.5)

* 日本ハム(株)中央研究所

堤智昭, 高附巧, 足立利華, 渡邉敬浩, 松田りえ子, 手 島玲子: 魚介類や肉類を使用した弁当からのダイオキシ ン類摂取量.

第20回日本食品化学学会学術大会(2014.5)

佐藤里絵*, 亀山真由美*, 手島玲子:ソバ種子の発芽 過程におけるアレルゲンの発現.

第20回日本食品化学学会学術大会(2014.5)

* (独)農研機構食品総合研究所

山口大樹*1, 片山茂*1, 佐藤里絵*2, 手島玲子, 中村宗 一郎*1:ドライヒーティング法による蕎麦主要アレルゲ ンFage2のリン酸化によるアレルギー改善効果. 第20回日本食品化学学会学術大会(2014.5)

- *1 信州大学農学部
- *2 (独)農研機構食品総合研究所

梅村修平*1,福富友馬*2,手島玲子,松田知成*1,伊東 祐二*1:小麦アレルギー発症機構の解明を目指したアレ ルゲン特異的IgEの同定.

平成26年度日本生化学会九州支部例会(2014.5)

- *1 鹿児島大学大学院理工学研究科
- *2国立病院機構相模原病院

鍋師裕美, 堤智昭, 蜂須賀暁子, 松田りえ子, 手島玲子: 野生動物の肉および骨中の放射性セシウム及び放射性ス トロンチウムの分析.

第51回アイソトープ・放射線研究発表会(2014.7)

Nabeshi H, Tsutsumi T, Hachisuka A, Matsuda R, Teshima R: Concentrations of radioactive cesium and strontium in wild animal meat and bone.

Health Physics Society 59th Annual Meeting (2014.7)

Uekusa Y, Takatsuki S, Watanabe T, Kataoka Y, Tsutsumi T, Matsuda R, Hachisuka A, Teshima R: Concentrations of polychlorinated biphenyls in commercially available fish obtained from tsunamistricken areas of Japan.

34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2014) (2014.9)

Kataoka Y, Watanabe T, Hayashi T, Matsuda R, Hachisuka A, Teshima R: Surveillance of concentrations of harmful elements in foods purchased in areas affected by the great east Japan earthquake. 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2014) (2014.9)

Hori T*1, Miyawaki T*1, Takahashi K*1, Yasutake D*1, Yamamoto T*2, Kajiwara J*1, Watanabe T: Concentrations of Dechlorane plus in fish samples collected in Kyushu district, western Japan.

34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2014) (2014.9)

^{* 1} Fukuoka Institute of Health and Environmental Sciences

^{* &}lt;sup>2</sup> Kitakyushu life science center

Tsutsumi T, Watanabe T, Matsuda R, Teshima R: Dietary intake of dioxins in Japan, fiscal year 1998-2013. 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2014) (2014.9)

Brennan J C*, He G*, Tsutsumi T, Zhao J*, Denison M S*: Development of an enhanced Ah receptor-responsive third generation rat hepatoma CALUX cell line for detection of dioxin-like compounds.

34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2014) (2014.9)

梅村修平 *1 , 福富友馬 *2 , 手島玲子, 松田知成 *1 , 伊東祐二 *1 : 次世代シークエンサーを用いた小麦アレルゲン特異的IgEの同定法.

第38回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム (2014.9)

松田りえ子, 堤智昭, 鍋師裕美, 植草義徳, 蜂須賀暁子, 手島玲子: 都道府県等が実施した食品中の放射性物質検 査結果の解析.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

坂井隆敏, 根本了, 手島玲子: HPLCによる動物用医薬品等の一斉試験法 I (畜水産物) の改良法検討. 第51回全国衛生化学技術協議会年会 (2014.11)

今井浩一*,石井里枝*,高野真理子*,根本了,手島玲子: LC-MS/MSによる農産物及び畜水産物中のイプフェン カルバゾン分析法の開発.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

赤木浩一*, 脇山ひとみ*, 片岡洋平, 沖田智樹*, 川﨑恵*, 中山恵利*, 手島玲子, 渡邉敬浩: LC-MS/MSによるヒ素の形態別分析.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

渡邉敬浩, 林智子, 片岡洋平, 手島玲子: ミネラルウォー

ター中のクロロ酢酸類分析法の検討. 第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

片岡洋平,渡邉敬浩,林智子,手島玲子:ミネラルウォーター中のシアンおよび臭素酸濃度の実態調査. 第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

林智子, 渡邉敬浩, 林恭子, 赤木浩一*, 手島玲子: 妥

当性確認した分析法を用いた魚中メチル水銀濃度の実態 調査.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

渡邉敬浩: 妥当ということと, その確認が求められる理由.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

堤智昭, 高附巧, 植草義徳, 渡邉敬浩, 松田りえ子, 手 島玲子: 東日本大震災が魚介類を介したPCBs摂取量に 与えた影響.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

高附巧, 植草義徳, 堤智昭, 渡邉敬浩, 手島玲子: 平飼い卵中の塩素化ダイオキシン類実態調査.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

鍋師裕美,高附巧,堤智昭,手島玲子:加工食品中のアクリルアミド分析法の検討と実態調査.

第51回全国衛生化学技術協議会年会. (2014.11)

植草義徳、鍋師裕美、片岡洋平、渡邉敬浩、堤智昭、蜂 須賀暁子、松田りえ子、手島玲子:原子力発電所事故の 影響を受けた食品中のウラン濃度の調査.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

梅村修平*1,福冨友馬*2,手島玲子,松田知成*1,伊東祐二*1:次世代シークエンサーを用いた網羅的配列解析による小麦アレルゲン特異的IgEの同定法.

第37回日本分子生物学会年会(2014.11)

鍋師裕美, 植草義徳, 堤智昭, 蜂須賀暁子, 松田りえ子, 手島玲子:マーケットバスケット方式によるストロンチ ウム90の預託実効線量の推定.

^{*} University of California, Davis

^{*1} 鹿児島大学大学院理工学研究科

^{*2}国立病院機構相模原病院

^{*} 埼玉県衛生研究所

^{*} 福岡市保健環境研究所

^{*} 福岡市保健環境研究所

^{*1} 鹿児島大学大学院理工学研究科

^{*2}国立病院機構相模原病院

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

渡邉敬浩, 片岡洋平, 松田りえ子, 五十嵐敦子, 手島玲子: 幼児における鉛, カドミウム, ヒ素等元素類摂取量の推定.

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

植草義徳, 鍋師裕美, 堤智昭, 蜂須賀暁子, 松田りえ子, 手島玲子: 市販流通食品中の放射性セシウム濃度の調査 (平成24~25年度).

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

堤智昭, 植草義徳, 松田りえ子, 五十嵐敦子, 渡邉敬浩, 手島玲子: ダイオキシン類摂取量の経年変化(平成10~ 25年度).

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

片岡洋平,渡邉敬浩,五十嵐敦子,手島玲子:無機ヒ素の国民平均摂取量の推定.

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

松田りえ子, 堤智昭, 植草義徳, 五十嵐敦子, 渡邉敬浩, 手島玲子: 幼児におけるダイオキシン類摂取量の推定. 第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

渡邉敬浩:食品安全行政におけるヒ素分析の必要性 - 摂取量推定を中心に - .

第20回ヒ素シンポジウム (2014.12)

渡邉敬浩: サンプリングの原理原則とその実行. 2014 AOACI日本セクション勉強会(2014.12)

渡邉敬浩:食品分析における結果の品質保証. 定量NMRクラブ第3回会合(2014.12)

手島玲子:食物アレルギー管理「管理に結びつく基礎的 情報」

日本アレルギー学会第一回総合アレルギー講習会 (2014.12)

永山敏廣*1, 吉村健一*2, 小木曽基樹*2, 岡尚男*3, 高取聡*4, 寺田久屋*5, 根本了, 松木宏晃*6, 村上りつ 子*7, 望月直樹*8: 衛生試験法・注解 – 食品汚染物試験 法 – マイクロウェーブ分解法.

日本薬学会第135年会(2015.3)

- *2日本食品分析センター
- *3 金城学院大学
- * 4 大阪府公衆衛生研究所
- *5元名古屋市衛生研究所
- *6 サントリービジネスエキスパート
- *7 茨城キリスト教大学
- *8 アサヒグループホールディングス

Teshima R, Adachi R, Shindo T^{*1}, Yamada A^{*2}, Ohsawa M^{*1}, Ozeki Y^{*2}: Differential analysis of protein expression in RNA binding protein-transgenic and parental rice seeds cultivated under salt stress and allergenicity test of rice extracts.

54th Society of Toxicology Annual meeting and ToxExpo (2015.3)

穐山浩:リスク管理における食品添加物の分析法につい て

第27回バイオメディカル分析科学シンポジウム(2014.8)

Akiyama H, Sato K, Suzuki I, Furusho N, Inoue T*, Yasukouchi Y*: Estimation of daily aluminum intake in Japan based on food consumption inspection results.

AOAC Annual Meeting & Exposition (2014.9)

穐山浩:学術論文の読み方・書き方(主に英文). 日本食品衛生学会 第2回食品衛生研究者育成基礎セミナー(2014.11)

穐山浩:学術論文の読み方・書き方(主に英文). 日本食品化学学会 第1回食品化学分野研究者育成研修 セミナー(2015.2)

大月典子, 杉本理恵*, 佐藤恭子, 杉本直樹, 秋山卓美, 豊田正武*, 穐山浩: 化粧品・医薬部外品中の乳アレル ゲンタンパク質の分析について.

日本食品化学学会第20回総会・学術大会(2014.5)

相沢亮介 *1 , 箕川剛 *1 , 今田隆文 *1 , 中島光 *1 , 伊藤 澄夫 *1 , 山川有子 *2 , 穐山浩: ELISA法によるコチニー

^{*1}明治薬科大学

^{*1} 食品薬品安全センター秦野研究所

^{*2} 東京農工大学大学院工学研究院

^{* (}財)日本食品分析センター

^{*} 実践女子大学

ル色素中の夾雑アレルゲンタンパクの定量. 日本食品化学学会第20回総会・学術大会(2014.5)

*1 三栄源エフ・エフ・アイ(株)

小俣洋奈*, 片山茂*, 大野史晃*, 真壁秀文*, 穐山浩, 中村宗一郎*: 抗原提示能を有するTHP-1由来樹状細胞 系の確立とその応用.

第68回日本栄養・食糧学会大会 (2014.5)

山内良子*1, 小浜友紀子*1, 加治屋明子*1, 島村智子*2, 柏木丈弘*1, 受田浩之*2, 穐山浩, 松井利郎*3, 石川洋 哉*1: 抗酸化能評価における一電子転移反応と水素原子 転移反応の比較.

日本食品科学工学会第61回大会(2014.8)

久保田浩樹, 鈴木一平, 高橋文人*, 鹿島賢二*, 小田 琢磨, 大槻崇, 建部千絵, 佐藤恭子, 穐山浩: 食品中の 過酢酸製剤成分の分析(1)~食品中の1-ヒドロキシエ チリデン1.1-ジホスホン酸 (HEDP) の実態調査~.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

久保田浩樹、佐藤恭子、穐山浩:希釈過酸化ベンゾイル 添加小麦粉を用いて製造されたパン中の副生成物の分

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

建部千絵, 長谷川晴子*1, 細川晶*1, 原貴彦*2, 安河内 義和*3. 佐藤恭子. 穐山浩:食用タール色素純度試験法 の検証(2).

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

Ohtsuki T, Sato K, Abe Y, Sugimoto N, Akiyama H: Quantification of acesulfame potassium in processed foods by quantitative 1H NMR.

12th International Conference on the Applications of Magnetic Resonance in Food Science (2014.5)

大槻崇, 小田琢磨, 阿部裕, 吉田美佳*, 佐々木祐子*, 鈴木一平, 久保田浩樹, 建部千絵, 佐藤恭子, 穐山浩: 食品中の過酢酸製剤成分の分析(2)~食品中のオクタ ン酸分析法の確立と実態調査~.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

Ohtsuki T, Sato K, Sugimoto N, Tada A, Akiyama H: Absolute quantification of analytical standard for food additive by ¹H quantitative NMR.

3rd annual practical applications of NMR in industry conference (2015.2)

大槻崇, 小田琢磨, 石附京子, 佐藤恭子, 穐山浩:ヘッ ドスペースGCを用いた食品中のイソプロパノール分析 法(2).

日本薬学会第135年会(2015.3)

鈴木一平, 久保田浩樹, 大槻崇, 小田琢磨, 建部千絵, 佐藤恭子, 穐山浩:過酢酸製剤成分1-ヒドロキシエチリ デン1, 1-ジホスホン酸 (HEDP) の食品中の分析法につ いて.

第107回日本食品衛生学会学術講演会(2014.5)

鈴木一平, 久保田浩樹, 大槻崇, 小田琢磨, 建部千絵, 佐藤恭子、穐山浩:IC-MS/MSを用いた過酢酸製剤成分 1-ヒドロキシエチリデン1.1-ジホスホン酸 (HEDP) の食 品中の分析法の開発.

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

熊井康人, 滝川香織*1, 関根百合子*2, 安喰夏美*3, 林 千恵子*4, 橋本博之*4, 氏家あけみ*5, 安永恵*5, 酒井 國嘉*6, 川原るみ子*6, 古謝あゆ子*7, 仲間幸俊*7, 寺 見祥子, 久保田浩樹, 佐藤恭子, 穐山浩:平成25年度マー ケットバスケット方式による食品添加物の一日摂取量調 杳.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

^{*2} 山川皮ふ科

^{*} 信州大学

^{*1}福岡女子大学

^{*2}高知大学

^{*3} 九州大学

^{* (}一財)日本食品分析センター

^{*1 (}一財)日本食品分析センター

^{*2(}一財)食品環境検査協会

^{*3(}一財)日本冷凍食品検査協会

^{* (}一財)日本食品分析センター

^{*1} 札幌市衛生研究所

^{*2}仙台市衛生研究所

^{*3} 仙台市衛生研究所 (現:仙台市水道局)

^{* 4} 千葉県衛生研究所

- *5 香川県環境保健研究センター
- *6 長崎市保健環境試験所
- *7沖縄県衛生環境研究所

杉本直樹,石附京子,田原麻衣子,細江潤子,多田敦子, 大槻崇,河崎裕美,佐藤恭子,合田幸広,穐山浩:食品 添加物等のNMRスペクトル検索システムの検討. 第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

多田敦子, 杉本直樹, 秋山卓美, 伊藤裕才*1, 五十君靜信, 佐藤恭子, 河村葉子, 山﨑壮*2, 穐山浩: 食品添加物酵素の公定書微生物限度試験法の検討.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

- *1 共立女子大学
- *2 実践女子大学

西崎雄三、多田敦子、伊藤裕才*、大槻崇、杉本直樹、 穐山浩:qNMRとHPLCを利用した天然苦味料ジャマイ カッシア抽出物中のクアシン及びネオクアシンの新規定 量法の開発.

日本薬学会第135年会(2015.3)

* 共立女子大学

石附京子, 多田敦子, 河﨑裕美, 松田諭, 佐藤恭子, 杉本直樹, 穐山浩: 食品添加物の各種理化学データライブラリの作成.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

河﨑裕美, 関口若菜, 多田敦子, 秋山卓美, 杉本直樹, 穐山浩: HILICカラムを用いたLC/MSによるカラメルIII中の2-アセチル-4-テトラヒドロキシブチルイミダゾール (THI) の直接定量.

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

松田諭,多田敦子,大槻崇,石附京子,河崎裕美,田原麻衣子,杉本直樹,穐山浩:既存添加物クエルセチンの定量法確立のためのqNMRを用いた基礎的検討.

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

天倉吉章*¹, 好村守生*¹, 森本沙羅*¹, 吉田隆志*¹, 多田敦子, 伊藤裕才*², 杉本直樹, 山﨑壮*³, 穐山浩: 既存添加物ゲンチアナ抽出物の成分研究.

日本食品化学学会第20回総会・学術大会(2014.5)

- *2 共立女子大学
- *3 実践女子大学

西川弘晃*, 井之上浩一*, 棚田千尋*, 杉本直樹, 閔俊哲*, 轟木堅一郎*, 穐山浩, 豊岡利正*:高速向流クロマトグラフィーによる加水分解クチナシ黄色素クロセチンの単離精製.

日本食品化学学会第20回総会学術大会(2014.5)

*静岡県立大学

三浦亨*¹, 杉本直樹, 末松孝子*², 中尾慎治*¹, 高岡真也*¹, 朝倉克夫*², 山田裕子*¹: qNMRを用いた添加物及び香粧品原料に関する絶対定量の検討.

第58回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(2014.9)

- *1和光純薬工業(株)
- *2日本電子(株)

谷口賢 *1 , 中島正博 *1 , 寺田久屋 *2 , 多田敦子, 杉本直樹, 山﨑壮 *3 , 穐山浩: 既存添加物カカオ色素中のマイコトキシンについて.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

- *1 名古屋市衛生研究所
- *2(元)名古屋市衛生研究所
- *3 実践女子大学

Miura T^{*1}, Suematsu T^{*2}, Sugimoto N, Nakao S^{*1}, Takaoka S^{*1}, Yamada Y^{*1}: Development of quantity analytical standard by using qNMR.

3nd Annual Practical Applications of NMR in Industry Conference (PANIC) (2015.2)

張替直輝*¹,深町梓*¹,八木諒子*²,伊藤裕才*²,杉本 直樹,穐山浩,四宮一総*¹:コチニール色素中夾雑色素 の経時的構造変化に関する速度論的検討.

日本薬学会第135年会(2015.3)

六鹿元雄, 河﨑裕美, 山口未来, 阿部裕, 穐山浩: 溶出

^{*1} 松山大学

^{* 1} Wako Pure Chemical Industries, Ltd.

^{* &}lt;sup>2</sup> JEOL Ltd.

^{*1}日本大学

^{*2} 共立女子大学

試験における試験溶液調製時の温度管理に関する検討. 第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

阿部裕,山口未来,穐山浩,六鹿元雄:GC/MSを用いたフタル酸エステル測定における共存可塑剤の影響. 第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

阿部裕,山口未来,六鹿元雄,穐山浩:LC/MS/MSを用いたポリ塩化ビニル中のフタル酸エステル分析法. 第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

Kawamura Y: Food contact regulations in Japan. Workshop on Standards Harmonization Process on Food Contact Materials in ASEAN (2015.2)

河村葉子,馬場二夫*1,渡辺悠二*2,六鹿元雄,穐山浩:アルミニウム製器具・容器包装に由来するアルミニウム 摂取量の推定.

日本薬学会第135年会(2015.3)

- *1 (前)大阪市立環境科学研究所
- *2 (前)東京都健康安全研究センター

山口未来,阿部裕,六鹿元雄,穐山浩:GC/MS/MSを 用いた食品中の器具・容器包装に由来する添加剤の分析. 第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

村上亮*1, 六鹿元雄, 阿部孝*2, 阿部智之*1, 阿部裕, 大坂郁恵*3, 大野春香*4, 大野浩之*5, 大野雄一郎*6, 尾崎麻子*7, 柿原芳輝*8, 河﨑裕美, 小林尚*9, 柴田 博*10, 城野克広*11, 関戸晴子*12, 薗部博則*13, 高坂典 子*14, 但馬吉保*15, 田中葵*16, 田中秀幸*11, 野村千 枝*17, 羽石奈穂子*18, 疋田晃典*19, 三浦俊彦*20, 渡辺 一成*21, 穐山浩:ポリエチレンテレフタレート製器具・ 容器包装におけるアンチモンおよびゲルマニウム溶出試 験の試験室間共同試験.

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

- *1(公社)日本食品衛生協会
- *2 (一財)日本食品分析センター
- *3 埼玉県衛生研究所
- * 4 愛知県衛生研究所
- *5 名古屋市衛生研究所
- *6 (一財) 千葉県薬剤師会検査センター
- *7 大阪市立環境科学研究所
- *8(一財)日本穀物検定協会
- * ⁹ (一財) 食品分析開発センター SUNATEC

- *10 (一財)東京顕微鏡院
- *11 (独)產業技術総合研究所
- *12 神奈川県衛生研究所
- *13 (一財)日本文化用品安全試験所
- *14 (一財)食品薬品安全センター
- *15 (一財)食品環境検査協会
- *16 (一社)日本海事検定協会
- *17 大阪府立公衆衛生研究所
- *18 東京都健康安全研究センター
- *19 長野県環境保全研究所
- *20 (一財)日本冷凍食品検査協会
- *21 (一財)化学研究評価機構

柴田博*1, 六鹿元雄, 阿部裕, 中西徹*2, 大坂郁恵*3, 大野春香*4, 大野浩之*5, 大野雄一郎*6, 尾崎麻子*7, 柿原芳輝*8, 小林尚*9, 城野克広*10, 関戸晴子*11, 薗部 博則*12, 高坂典子*13, 但馬吉保*14, 田中葵*15, 田中秀 幸*10, 野村千枝*16, 羽石奈穂子*17, 疋田晃典*18, 三浦 俊彦*19, 山口未来, 伊藤禎啓*20, 渡辺一成*21, 穐山浩: ゴム製器具・容器包装における亜鉛溶出試験の試験室間 共同試験.

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

- *1(一財)東京顕微鏡院
- *2 (一財)日本食品分析センター
- *3埼玉県衛生研究所
- * 4 愛知県衛生研究所
- *5 名古屋市衛生研究所
- *6 (一財)千葉県薬剤師会検査センター
- *7 大阪市立環境科学研究所
- *8(一財)日本穀物検定協会
- *9 (一財)食品分析開発センター SUNATEC
- *10 (独)産業技術総合研究所
- *11 神奈川県衛生研究所
- *12 (一財)日本文化用品安全試験所
- *13 (一財)食品薬品安全センター
- *14 (一財)食品環境検査協会
- *15 (一社)日本海事検定協会
- *16 大阪府立公衆衛生研究所
- *17 東京都健康安全研究センター
- *18 長野県環境保全研究所
- *19 (一財)日本冷凍食品検査協会
- *20 (公社)日本食品衛生協会
- *21 (一財)化学研究評価機構

中西徹*,河村葉子,城市香*,川口寿之*,杉本敏明*, 阿部裕,六鹿元雄:植物油総溶出量試験法の改良 その

1 植物油定量法.

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

* (一財)日本食品分析センター

城市香*,河村葉子,中西徹*,川口寿之*,杉本敏明*, 阿部裕, 六鹿元雄:植物油総溶出量試験法の改良 その 2 試料の恒量化.

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

* (一財)日本食品分析センター

Masuda K, Igimi S: Establishment of in vitro M-cell model and evaluation of the genetically modified bacteria.

GTCbio Conferences 12th Vaccines Research and Development: All Things Considered. (2014.7)

Saito M*1, Yoshida T*1, Takatani N*1, Ogawa H*2, Igimi S, Matsuoka H*1: Application of made-to-order standard material of viable microbial cells (SMVM) to the evaluation of agar media.

128th AOAC Annual Meeting and Exposition. (2014.9)

* 1 Tokyo University of Agriculture and Technology

* ² Microbio Corporation

Igimi S, Momose Y, Okada Y, Ekawa T, Asakura H, Masuda K, Matsuoka H*: Evaluation of the NIHSJ-02 alternative to ISO 10272-1:2006 for the detection of Campylobacter in chicken.

128th AOAC Annual Meeting and Exposition. (2014.9)

* Tokyo University of Agriculture and Technology

Masuda K, Igimi S: Establishment of in vitro M - cell model and evaluation of M - cell targeted genetically modified bacteria.

7th International Conference on the Food Factory for the Future (2014.11)

五十君靜信, 朝倉宏: なかなか減らないカンピロバクター 食中毒.

第88回日本細菌学会学術総会(2015.3)

朝倉宏:鶏肉におけるカンピロバクター汚染の現状とそ の対策等について.

第35回日本食品微生物学会学術総会(2014.9)

高鳥浩介*,朝倉宏:農産物の生食のリスクとその制御. 日本防菌防黴学会第41回年次大会(2014.9)

* NPO法人カビ相談センター

Asakura H: Recent trends for the control of bacterial threats in raw meats in Japan.

Korean Society of Food Science and Technology 2014 Annual meeting (2014.8)

田口真澄*1,神吉政吉*1,中村寛海*2,朝倉宏:浅漬か らのListeria monocytogenes検出.

第108回日本食品衛生学会(2014.12)

*1大阪府立公衆衛生研究所

*2 大阪市立環境科学研究所

朝倉宏, 橘理人, 廣井豊子*, 川本恵子*, 倉園久夫*, 五十君靜信:農場におけるカンピロバクター・ジェジュ ニの地理・時系列別汚染分布の変動.

第88回日本細菌学会(2015.3)

* 带広畜産大学

鈴木穂高, 岡田由美子: フグ毒テトロドトキシンに対す る感受性のマウス系統差.

第157回日本獣医学会学術集会(2014.9)

鈴木穂高:マウスの系統によるフグ毒テトロドトキシン (TTX) に対する感受性の違い.

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

福永八千代*, 鈴木穂高, 岡田由美子, 野口真紀*, 春 木美那都*, 鶴本和子*, 伊倉佐織*, 小川竜也*, 久世 博*, 花見正幸*: 眼球腫大が認められたスナネズミの 眼組織及び視覚中枢の病理学的変化.

第31回日本毒性病理学会総会及び学術集会(2015.1)

* ボゾリサーチセンター

Suzuki H, Okada Y: Enterohemorrhagic Escherichia coli (EHEC) infection and beef consumption in Japan. The 2nd Asian Food Safety and Security Association Conferences on Food Safety and Food Security (2014.8)

Suzuki H, Okada Y: Hematological and biochemical changes after inoculation of okadaic acid, a diarrhetic shellfish poisoning toxin.

The Asian Federation of Laboratory Animal Science Associations Congress 2014 (2014.11)

Suzuki H, Okada Y: Enterohemorrhagic *Escherichia* coli (EHEC) infection and the amount of beef consumption in Japan.

The 18th Federation of Asian Veterinary Associations Congress (2014.11)

Suzuki H: Mouse strain differences in the susceptibility to tetrodotoxin.

The 18th Federation of Asian Veterinary Associations Congress (2014.11)

Oshiro N, Yogi K*1, Sakugawa S*1, Toda M, Yasumoto T*2: Occurrence of ciguatera fish poisonings and development of ciguatoxins analysis methods in Japan. Ninth WESTPAC International Scientific Symposium (2014.4)

* 1 Okinawa Prefectural Institute of Health and Environment

與儀健太郎 *1 , 佐久川さつき *1 , 大城直雅, 安元健 *2 : 沖縄産シガテラ魚におけるシガトキシン類組成.

日本動物学会九州支部(第67回),九州沖縄植物学会(第64回),日本生態学会九州地区会(第59回),沖縄生物学会(第51回)合同沖縄大会(2014.5)

大城直雅:日本の魚貝毒規制と検査法開発:抗体および ファンクショナルアッセイ.

生物化学的測定研究会第19回学術集会(2014.6)

林田宜之*,大城直雅,立原一憲*:シガテラ毒魚バラフエダイの年齢と成長,成熟.

平成26年度公益社団法人日本水産学会秋季大会(2014.9)

Oshiro N: Aspects in detection of ciguatera food

poisoning toxins.

Joint Workshop between Agri-Food Veterinary Authority of Singapore and Japan Food Research Laboratories for Analysis of Ciguatera Food Poisoning Toxins (2014.11)

風間美保 *1 , 村田龍, 林田宜之 *2 , 佐久川さつき *3 , 久高潤 *3 , 立原一憲 *2 , 小島尚 *1 , 安元健 *4 , 大城直雅: 沖縄産バラフエダイおよびゴマフエダイのLC-MS/MS 法によるシガトキシン類分析.

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

渡辺美遥 *1 、村田龍、西村美桜 *2 、佐久川さつき *3 、久高潤 *3 、立原一憲 *2 、石崎直人 *1 、小西良子 *1 、安元健 *4 、大城直雅:沖縄産バラハタおよびオジロバラハタのLC-MS/MS法によるシガトキシン類分析.

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

白石一陽 *1 , 斉藤真里佳 *2 , 村田龍, 照屋菜津子 *3 , 佐久川さつき *3 , 小島尚 *1 , 大城直雅: 沖縄産フグのLC-MS/MSによる毒性分析.

第108回日本食品衛生学会学術講演会 (2014.12)

村田龍,大城直雅,小根澤遥:下痢性貝毒(OA・DTX群)のLC/MS/MS分析法の検討.

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

別當博志*¹, 池原強*¹, 大城直雅, 安元健*²: バラハタ (*Variola louti*) 肝臓中のシガトキシン (CTX) 酸化酵素の検出.

日本農芸化学会中四国支部第41回講演会(2015.1)

^{* 2} Japan Food Research Laboratories

^{*1}沖縄県衛生環境研究所

^{*2 (}一財)日本食品分析センター

^{*} 琉球大学

^{*1} 帝京科学大学

^{*2} 琉球大学

^{*3}沖縄県衛生環境研究所

^{*4 (}一財) 日本食品分析センター

^{*1} 麻布大学

^{*2} 琉球大学

^{*3}沖縄県衛生環境研究所

^{*4(}一財)日本食品分析センター

^{*1} 帝京科学大学

^{*2} 明治薬科大学

^{*3}沖縄県衛生環境研究所

^{*1} 水産大学校

*2 (一財)日本食品分析センター

村田龍, 小根澤遥, 大城直雅:下痢性貝毒(OA群)の LC/MS/MS分析法の検討.

平成27年度日本水産学会春季大会(2015.03)

百瀬愛佳, 岡田由美子, 朝倉宏, 江川智哉, 桝田和彌, 松岡英明*, 五十君靜信:日本におけるカンピロバクター 標準試験法(NIHSJ-02) - 国際整合性の観点から見たそ の妥当性 -.

2014年度AOAC International日本セクション年次大会 (2014.6)

Momose Y, Okada Y, Asakura H, Ekawa T, Masuda K, Matsuoka H*1, Yokoyama K*2, Kai A*2, Saito S*3, Hiramatsu R*4, Taguchi M*5, Ishimura K*6, Tominaga K*7, Yahiro S*8, Fujita M*9, Igimi S: Evaluation of the culture method NIHSJ-02 alternative to ISO 10272-1:2006 for the detection of Campylobacter jejuni and Campylobacter coli in chicken: Collaborative study. 48th Annual Meeting of the UJNR Joint Panel on Toxic Microorganisms (2014.1)

* 1 Tokyo University of Agriculture and Technology

Okada Y, Monden S, Suzuki H, Nakama A*, Ida M*, Igimi S: Antimicrobial susceptibilities of Listeria monocytogenes isolated from the imported and the domestic foods in Japan.

2nd Congress of Asia Food Safety and Security Association (2014.8)

岡田由美子, 鈴木穂高, 百瀬愛佳, 五十君静信:スナネ ズミを用いた血清型4bに属するListeria monocytogenes 菌株の病原性評価.

第157回日本獣医学会(2014.9)

Okada Y, Suzuki H, Ogihara H*, Yoshida M, Momose Y, Igimi S: Bacterial translocation of Cronobacter spp. in gerbils.

第88回日本細菌学会(2015.3)

* 日本大学

斎藤博之*1, 秋野和華子*1, 田中智之*2, 野田衛:食中 毒事例における食品のサポウイルス検査にパンソルビ ン・トラップ法を用いる際のRNA検出系の最適化. 日本食品衛生学会 第108回学術講演会 (2014.12)

秋野和華子*1, 斎藤博之*1, 田中智之*2, 野田衛:食品 検体からのパンソルビン・トラップ法によりノロウイル スRNAを抽出する際のα-Amylase処理に関する検討. 第35回日本食品微生物学会学術総会(2014.9)

斎藤博之*1, 秋野和華子*1, 田中智之*2, 野田衛:食品 検体のノロウイルス検査にパンソルビン・トラップ法を 用いる際の捕捉抗体供給源に関する検討. 第35回日本食 品微生物学会学術総会(2014.9)

上間匡,野田衛,春名美香*1,佐々木貴正*2:カキおよ びムラサキイガイから検出されたノロウイルス遺伝子の 次世代シーケンサーによる比較解析.

第35回日本食品微生物学会学術総会(2014.9)

三元昌美, 上間匡, 野田衛: 市販洗剤添加エタノールの ネコカリシウイルスに対する不活化効果. 第35回日本食品微生物学会学術総会(2014.9)

^{*} 東京農工大学

^{* &}lt;sup>2</sup> Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

^{* 3} Akita Prefectural Research Center for Public Health and Environment

^{* &}lt;sup>4</sup> Aichi Prefectural Institute of Public Health

^{* 5} Osaka Prefectural Institute of Public Health

^{* 6} Hiroshima City Institute of Public Health

^{* 7} Yamaguchi Prefectural Institute of Public Health and Environment

^{*8} Kumamoto Prefectural Institute of Public Health and Environmental Science

^{* 9} Gunma Meat Inspection Center

^{*} Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

^{*1}秋田県健康環境センター

^{*2} 堺市衛生研究所

^{*1} 秋田県健康環境センター

^{*2} 堺市衛生研究所

^{*1}秋田県健康環境センター

^{*2} 堺市衛生研究所

^{*1}農林水産省消費安全局

^{*2}動物医薬品検査所

野田衛,上間匡,三元昌美,山下育孝*1,青木里美*1,小林慎一*2,斎藤博之*3:パンソルビンを用いた抗体被覆/非被覆ウイルス粒子鑑別法の開発と応用.

第35回日本食品微生物学会学術総会(2014.9)

- *1 愛媛県立衛生環境研究所
- *2 愛媛県衛生研究所
- *3 秋田県健康環境センター

Saito H*1, Tanaka T*2, Toho M*3, Noda M, Oka T, Katayama K: Noroviruses RNA detection in contaminated foods by a PANtrap method, The 2nd. AFSA Conference on Food Safety and Security (2014.8)

- * ¹ Akita Prefectural Research Center for Public Health and Environment
- * ² Sakai City Institute of Public Health
- * ³ Fukui Prefectural Institute of Public Health and Environment Science

上間匡, 三元昌美, 青沼えり *1 , 桒原慶隆 *1 , 照山晏菜 *1 , 堀内百恵 *1 , 溝口嘉範 *2 , 高橋肇 *3 , 木村凡 *3 , 野田衛: ノロウイルスの代替ウイルスとしてのネコカリシウイルスの評価.

日本食品衛生学会 第108回学術講演会 (2014.12)

*1 明治薬科大学

*2 岡山市

*3 東京海洋大学

照山晏菜*,三元昌美,上間匡,野田衛:感染性推定遺伝子検査法を用いたノロウイルスの加熱不活化における 生存性の推定.

日本食品衛生学会 第108回学術講演会 (2014.12)

* 明治薬科大学

三元昌美,上間匡,堀内百恵*,野田衛:感染性推定遺伝子検査法を用いたノロウイルスの加熱不活化における 生存性の推定.

日本食品衛生学会 第108回学術講演会 (2014.12)

* 明治薬科大学

佐藤裕徳*¹, 横山勝*¹, 本村和嗣*², 中村浩美*¹, 田村務*³, 吉澄志磨*⁴, 岡智一郎*¹, 片山和彦*¹, 武田直和*².

野田衛,田中智之*⁵, Norovirus Surveillance Group of Japan:ヒト集団におけるノロウイルス流行株の多様性と進化.

第62回日本ウイルス学会学術集会 (2014.11)

- *1 国立感染症研究所
- *2 大阪大学微生物病研究所
- *3新潟県保健環境科学研究所
- * 4 北海道立衛生研究所
- *5 堺市衛生研究所

山本美和子*, 伊藤文明*, 野田衛: 広島市で検出されたA型肝炎ウイルスの分子疫学的解析.

第62回日本ウイルス学会学術集会 (2014.11)

* 広島市衛生研究所

三好龍也*1, 内野清子*1, 岡山文香*1, 芝田有理*1, 左近直美*2, 田中智之*3, 野田衛, 小林和夫*1: 堺市内における下水サンプルを用いたA型肝炎ウイルスの流行解析.

第62回日本ウイルス学会学術集会 (2014.11)

- *1 堺市衛生研究所
- *2 大阪府立公衆衛生研究所
- *3国保日高総合病院

斎藤博之*¹, 秋野和華子*¹, 田中智之*², 野田衛:パンソルビン・トラップ法における捕捉抗体としての工業用ガンマグロブリンの有用性の検証.

第62回日本ウイルス学会学術集会(2014.11)

- *1 秋田県健康環境センター
- *2 堺市衛生研究所

上間匡,野田衛,春名美香*1,佐々木貴正*2:二枚貝から検出されたノロウイルス遺伝子産物の網羅的解析. 第62回日本ウイルス学会学術集会(2014.11)

- *1農林水産省消費安全局
- *2動物医薬品検査所

入谷展弘*, 山元誠司*, 改田厚*, 阿部仁一郎*, 久保 英幸*, 野田衛: 2013~14シーズンに大阪市において集 団胃腸炎事例から検出されたノロウイルスGII.6株の分 子疫学的解析.

第62回日本ウイルス学会学術集会 (2014.11)

* 大阪市立環境科学研究所

寺嶋淳,石原朋子*,伊像田淳*,泉谷秀昌*,大西真*: 腸管出血性大腸菌感染症の世界の状況と国内の現状. 第18回腸管出血性大腸菌感染症研究会(2015.7)

* 国立感染症研究所

Terajima J, Otsuka K*1, Konishi N*2, Kai A*2, Mori T*3, Nakagawa H*4, Ueda Y*5, Hara-Kudo Y: The detection method of top 6 Serogroups STEC in food in Japan. 49th Toxic Microorganisms Joint Panel Meeting (2015.1)

* 1 Saitama Institute of Public Health

- * 2 Tokyo Metropolitan Institute of Public Health
- * 3 Tokyo Kenbikyo-in Fundation
- * 4 BML Food Science Solutions, Inc.
- * 5 Kobe Quarantine Station

窪崎敦隆, 山﨑朗子, 宮原美知子, 菊池裕, 工藤由起子, 寺嶋淳, 渡辺麻衣子: 医薬品汚染真菌のモデルとしての 真菌性髄膜炎原因菌*Exserohilum rostratum*のDNA解 析.

日本薬学会第135年会 (2015.3)

Hara-Kudo Y, Furukawa I*1, Isobe J*2, Nagao S, Sasaki M, Saito S*3:Characteristics morphologies of Shiga toxin-producing Escherichia coli O26, O103, O111, O121, O145 and O157 on chromogenic agars for efficient isolation from food.

Food Micro 2014 (2014.9)

* 1 Kanagawa Prefectural Institute of Public Health

- * ² Toyama Institute of Health
- * ³ Akita Prefectural Research Center for Public Health and Environment

山﨑朗子, 泉山信司*1, 八木田健司*1, 岸田直裕*2, 窪 崎敦隆, 工藤由起子, 寺嶋淳: 野生動物における水系感 染症病原微生物の疫学研究.

第157回日本獣医学会学術集会(2014.9)

*1 国立感染症研究所

磯部順子*1, 齊藤志保子*2, 古川一郎*3, 権平文夫*4, 佐々木美智子, 長尾清香, 工藤由起子: 腸管出血性大腸菌 O26, O103, O111, O121, O145およびO157検出のための培養法の検討.

第35回日本食品微生物学会学術総会(2014.9)

*1富山県衛生研究所

- *2 秋田県健康環境センター
- *3神奈川県衛生研究所
- *4 デンカ生研(株)

小西典子*1, 大塚佳代子*2, 森哲也*3, 上田泰史*4, 清水大輔*5, 原田誠*4, 中川弘*5, 甲斐明美*1, 長尾清香, 寺嶋淳, 工藤由起子: 食品における志賀毒素遺伝子の検出感度の検討.

第35回日本食品微生物学会学術総会(2014.9)

- *1 東京都健康安全研究センター
- *2 埼玉県衛生研究所
- *3(一財)東京顕微鏡院
- *4神戸検疫所
- * ⁵ (株)BMLフード・サイエンス

長尾清香,森哲也*1,清水大輔*2,上田泰史*3,小西典子*4,大塚佳代子*5,中川弘*2,原田誠*3,甲斐明美*4,寺嶋淳,工藤由起子:食品におけるO抗原遺伝子検出法の検出感度の検討.

第35回日本食品微生物学会学術総会(2014.9)

- *1 (一財)東京顕微鏡院
- *2 (株)BMLフード・サイエンス
- *3神戸検疫所
- *4 東京都健康安全研究センター
- *5 埼玉県衛生研究所

清水大輔*1, 岩渕香織*2, 菊地理慧*3, 大塚佳代子*4, 小西典子*5, 山崎匠子*6, 鈴木史恵*7, 磯部順子*8, 永井佑樹*9, 山田裕子*10, 坂本綾*11, 上田泰史*12, 森哲也*13, 工藤由起子: 腸管出血性大腸菌O26, O103, O111, O121, O145およびO157の食品での試験法のコラボレイティブスタディによる評価(1).

第35回日本食品微生物学会学術総会(2014.9)

- *1 (株)BMLフード・サイエンス
- *2 岩手県環境保健研究センター
- *3福島県衛生研究所
- * 4 埼玉県衛生研究所

^{*2}国立保健医療科学院

- *5 東京都健康安全研究センター
- *6 杉並区衛生試験所
- * 7 静岡市環境保健研究所
- * 8 富山県衛生研究所
- *9三重県保健環境研究所
- *10 広島県立総合技術研究所保健環境センター
- *11 広島市衛生研究所
- *12 神戸検疫所
- *13 (一財)東京顕微鏡院

上田泰史*1, 永井佑樹*2, 磯部順子*3, 鈴木史恵*4, 山崎匠子*5, 小西典子*6, 大塚佳代子*7, 菊地理慧*8, 岩渕香織*9, 山田裕子*10, 田内敦子*11, 森哲也*12, 中川弘*13, 工藤由起子: 腸管出血性大腸菌O26, O103, O111, O121, O145およびO157の食品での試験法のコラボレイティブスタディによる評価(2).

第35回日本食品微生物学会学術総会(2014.9)

- *1 神戸検疫所
- *2 三重県保健環境研究所
- *3富山県衛生研究所
- * 4 静岡市環境保健研究所
- *5 杉並区衛生試験所
- *6 東京都健康安全研究センター
- *7 埼玉県衛生研究所
- * 8 福島県衛生研究所
- *9 岩手県環境保健研究センター
- *10 広島県立総合技術研究所保健環境センター
- *11 広島市衛生研究所
- *12 (一財)東京顕微鏡院
- *¹³ (株)BMLフード・サイエンス

張少博*¹, 王麗麗*¹, 鄭冬明*¹, 藤原佐美*², 若林明世*³, 中村寛海*⁴, 前原智史*⁵, 工藤由起子, 西川禎一*¹: 網 羅的検出手法による下痢原性大腸菌の汚染源調査.

第35回日本食品微生物学会学術総会(2014.9)

- *1大阪市立大学大学院
- *2(独)国立病院機構
- *3 兵庫県食肉衛生検査センター
- * 4 大阪市立環境科学研究所
- *5大阪市食肉衛生検査所

山﨑朗子,泉山信司*1,八木田健司*1,岸田直裕*2,窪 崎敦隆,工藤由起子,寺嶋淳:野生ジカのクリプトスポ リジウム保有状況と食中毒関連種の検索.

第35回日本食品微生物学会学術総会(2014.9)

- *1 国立感染症研究所
- *2国立保健医療科学院

市川希美*¹,森哲也*¹,難波豊彦*¹,齋藤明美*²,吉田信一郎*²,工藤由起子:粉末清涼飲料の細菌試験法の問題とその改善法の検討.

第35回日本食品微生物学会学術総会(2014.9)

- *1 (一財)東京顕微鏡院
- *2 (一財) 日本食品分析センター

大塚佳代子*1, 鈴木史恵*2, 山崎匠子*3, 小西典子*4, 菊地理慧*5, 岩渕香織*6, 永井佑樹*7, 磯部順子*8, 山田裕子*9, 坂本綾*10, 上田泰史*11, 森哲也*12, 中川弘*13, 工藤由起子:食品における腸管出血性大腸菌O26, 0103, O111, O121, O145およびO157試験法のコラボレイティブスタディ.

第108回日本食品衛生学会(2014.12)

- *1 埼玉県衛生研究所
- *2 静岡市環境保健研究所
- *3杉並区衛生試験所
- *4 東京都健康安全研究センター
- *5福島県衛生研究所
- *6 岩手県環境保健研究センター
- *7 三重県保健環境研究所
- * 8 富山県衛生研究所
- *9 広島県立総合技術研究所保健環境センター
- *10 広島市衛生研究所
- *11 神戸検疫所
- *12 (一財)東京顕微鏡院
- *¹³ (株)BMLフード・サイエンス

齋藤明美*1,石川暢子*1,吉田信一郎*1,市川希美*2,森哲也*2,難波豊彦*2,工藤由起子:ゼリー状飲料及び粉末清涼飲料の細菌試験法の問題とその改善法の検討. 第108回日本食品衛生学会(2014.12)

Leonard SR*, Lacher DW*, Mammel MK*, Kotewicz ML*, Gangirenda J*, Patel I*, Hara-Kudo Y, Elkins CA*: Molecular risk assessment of Shiga Toxin-Producing Escherichia coli (STEC) Isolates from Japan.

49th Session of the Joint UJNR Panel on Toxic

^{*1 (}一財)日本食品分析センター

^{*2 (}一財)東京顕微鏡院

Microorganisms (2015.1)

* Center for Food Safety and Applied Nutrition, US FDA

松谷佐知子:RNAポリメラーゼIII転写装置の進化. 第37回日本分子生物学会年会(2014.11)

押方智也子*1, 釣木澤尚実*1, 齋藤明美*2, 渡辺麻衣子, 長純一*3, 石田雅嗣*4, 小林誠一*4, 矢内勝*4, 鎌田洋 一*5, 寺島淳, 安枝浩*2, 秋山一男*1: 東日本大震災後 に仮設住宅に居住することによって発症したアレルギー 性気管支肺アスペルギルス症の一症例.

第45回日本職業・環境アレルギー学会総会・学術大会 (2014.6)

- *1 国立病院機構相模原病院アレルギー・呼吸器科
- *2国立病院機構相模原病院臨床研究センター
- *3 石巻市立病院開成仮診療所
- * 4 石巻赤十字病院呼吸器内科
- *5 岩手大学農学部共同獣医学科獣医公衆衛生学教室

大波純一*¹, 渡辺麻衣子, 山田修*², 水谷治*², 高橋 徹*³, 川上裕司*⁴, 橋本一浩*⁵, 清水公徳*⁵, 髙橋治男*⁵, 横山耕治*⁵, 鎌田洋一*⁶: カビアレルゲンデータベース の構築とその活用.

日本防菌防黴学会第41回年次大会(2014.9)

- *1 JST・バイオサイエンスデータベースセンター
- *2 酒類研·醸技応研
- *3(株)岐阜セラツク製造所
- *4(株)エフシージー総合研究所
- *5 千葉大学真菌医学研究センター
- *6 岩手大学

山﨑朗子,小沼ルミ*1,長谷川兼一*2,石山智*2,木村悟隆*3,瓦田研介*1,工藤由起子,鎌田洋一*4,寺嶋淳,渡辺麻衣子:仮設住宅室内天井パネルにおけるカビ発育性の検討.

日本防菌防黴学会第41回年次大会(2014.9)

- *1東京都立産業技術研究センター
- *2 秋田県立大学
- *3 長岡科学技術大学
- * 4 岩手大学

渡辺麻衣子, 釣木澤尚実*1, 押方智也子*1, 齋藤明美*1,

小沼ルミ*²,石田雅嗣*³,小林誠一*³,矢内勝*³,鎌田洋一*⁴,寺嶋淳,高鳥浩介*⁵,秋山一男*¹,長純一*6:東日本大震災被災地の応急仮設住宅に居住するアレルギー性気管支肺真菌症患者宅の真菌叢の推移.

日本防菌防黴学会第41回年次大会(2014.9)

- *1 国立相模原病院
- *2 東京都立産業技術研究センター
- *3 石巻赤十字病院
- * 4 岩手大学
- *5 NPO法人カビ相談センター
- *6 石巻市立病院

長谷川兼一*¹,渡辺麻衣子,石山智*¹,木村悟隆*²:仮設住宅建材におけるカビ発育性の検討-建材の含水状況の数値解析による分析.

日本防菌防黴学会第41回年次大会(2014.9)

- *1 秋田県立大学
- *2 長岡科学技術大学

渡辺麻衣子:カビのIPM ~東日本大震災被災地仮設住宅におけるカビ発生被害とその対策について~.

都市有害生物管理学会第26回IPM基礎講座(2014.9)

渡辺麻衣子,中村和真*1,吉成知也,髙橋治男*2,石崎直人*1,小西良子*1,寺嶋淳:国内流通小豆および大豆におけるFusarium属菌の分布状況.

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

- *1 麻布大学
- *2 千葉大学真菌医学研究センター

Watanabe M: Natural occurrence of fumonisin B1 in wine and fungal species causing the contamination in Japan (国内で発生したワインのフモニシンB1汚染における原因菌究明).

49th Session of the Joint UJNR Panel on Toxic Microorganisms (2014.1)

橋本一浩*1, 橋本ルイコ*2, 渡辺麻衣子, 川上裕司*1, 小田尚幸*1, 北岡洋平*3, 陰地義樹*3, 髙橋治男*4, 中川博之*5, 横山耕治*5: 本邦のワイナリーにおける fumonisins産生*Fusarium*属菌の分布調査.

日本マイコトキシン学会第76回学術講演会 (2015.2)

^{*1} エフシージー総合研究所

- *2 千葉県衛生研究所
- *3 奈良県保健環境センター
- *4 千葉大学真菌医学研究センター
- *5(独)農研機構食総研

Ohnishi T, Akuzawa S^{*1}, Furusawa H, Yoshinari T, Kamata Y^{*2}, Sugita-Konishi Y^{*3}: Application of liquid freezing method to inctivation of *Kudoa septempuncata* in olive flounder meat.

IAFP European Symposium (Hungary · Budapest) (2014.5)

- * 2 Iwate University
- * 3 Azabu University

大西貴弘, 阿久澤さゆり *1 , 古沢博子, 吉成知也, 鎌田洋 $-^{*2}$, 小西良子 *3 : リキッドフリーザーを用いたヒラメ筋肉中のKudoa septempunctata π 活化の試み. 第35回日本食品微生物学会学術総会(2014.9)

吉成知也,成川絢子,大西貴弘,寺嶋淳:乳幼児用食品におけるカビ毒汚染のリスク評価に関する研究. 第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

Yoshinari T, Sugita-Konishi Y*: Occurrence of deoxynivalenol, T-2 toxin, HT-2 toxin and zearalenone in retail foods in Japan.

International Mycotoxin Conference 2014 (2014.5)

菊池裕,遊佐精一*,窪崎敦隆,寺嶋淳,豊田淑江,山口照英:低酸素低酸素条件下で発現するGPIアンカー欠損型プリオン蛋白質に関与する転写因子BHLHE40の研究.

第87回日本生化学会大会(2014.10)

菊池裕:日本薬局方生物試験法の現状と今後の展開. 日本防菌防黴学会第30回記念大会:GMPとバリデーションをめぐる諸問題に関するシンポジウム (2015.3) 榊原紀和 *1 , 馬場昌範 *2 , 岡本実佳 *2 , 外山政明 *2 , 出水庸介, 栗原正明, 入江晃司 *1 , 加藤善久 *1 , 丸山徳見 *1 : 抗HIV-1剤を指向した1-置換型3-(3,5-ジメチルベンジル) ウラシルの創製研究.

ケミカルバイオロジー第9回年会 (2014.6)

出水庸介,三澤隆史,山崎徳和,山下博子,佐藤由紀子,大庭誠*,田中正一*,栗原正明:ヘリカル構造制御に基づく細胞膜高透過性ペプチドの創製.

ケミカルバイオロジー第9回年会(2014.6)

川村愛、出水庸介、三澤隆史、栗原正明: VDR-コアクチベータ結語阻害作用を有するステープルペプチドの創製

ケミカルバイオロジー第9回年会(2014.6)

出水庸介,三澤隆史,山崎徳和,佐藤由紀子,大庭誠*,田中正一*,栗原正明:細胞膜高透過性Tatペプチドミミックの開発.

第30回日本DDS学会学術集会(2014.7)

* 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

山下博子, 出水庸介, 三澤隆史, 大庭誠*, 田中正一*, 栗原正明: オリゴアルギニンをベースとした細胞膜透過性ヘリカルペプチドの開発.

第30回日本DDS学会学術集会(2014.7)

出水庸介,三澤隆史,内山奈穂子,花尻瑠理,袴塚高志, 栗原正明:合成カンナビノイドのCB1受容体に対する結 合様式解析に関する研究.

第58回日本薬学会関東支部大会(2014.10)

長久保貴哉, 出水庸介, 三澤隆史, 佐藤由紀子, 諫田泰成, 奥平桂一郎, 関野祐子, 内藤幹彦, 栗原正明: エストロゲン受容体転写阻害能を有するペプチドの創製. 第58回日本薬学会関東支部大会 (2014.10)

沖津航陽, 出水庸介, 三澤隆史, 正田卓司, 服部隆行, 内藤幹彦, 栗原正明: 細胞内Hisタグタンパク質応答性

^{* 1} Tokyo University of Agriculture

^{*1} 東京農業大学

^{*2} 岩手大学

^{*3}麻布大学

^{*} Azabu University

^{*} 中国国立常熟理工大学

^{*1} 徳島文理大学香川薬学部

^{*2} 鹿児島大学医学部

^{*} 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

^{*} 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

蛍光プローブの開発.

第58回日本薬学会関東支部大会(2014.10)

加藤雅士*,正田卓司,奥平桂一郎,井上英史*,内藤 幹彦,栗原正明:タモキシフェン骨格を有するエストロ ゲン受容体分解誘導剤の構造活性最適化研究.

第58回日本薬学会関東支部大会(2014.10)

* 東京薬科大学

出水庸介:短鎖ペプチドのヘリカル構造制御と機能化. 第51回ペプチド討論会 (2014.10)

山下博子, 出水庸介, 三澤隆史, 大庭誠*, 田中正一*, 栗原正明: Development of stabilized short helical peptides with cell-membrane penetrating ability. 第51回ペプチド討論会(2014.10)

* 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

長久保貴哉, 出水庸介, 三澤隆史, 佐藤由紀子, 諫田泰成, 奥平桂一郎, 関野祐子, 内藤幹彦, 栗原正明: Development of cell-permeable peptide for transcriptional inhibitor of estrogen receptor.

第51回ペプチド討論会 (2014.10)

江藤諒*1, 大庭誠*1, 上田篤志*1, 石川奈保子*2, 栗原正明, 出水庸介, 末宗洋*2, 土井光暢*3, 田中正一*1: Synthesis and conformational analysis of helical oligomers with a changeable chiral acetal moiety. 第51回ペプチド討論会(2014.10)

*1 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

- *2 九州大学大学院薬学研究科
- *3大阪薬科大学

杉山亨^{*1}, 桑田啓子^{*2}, 今村保忠^{*3}, 出水庸介, 栗原正明, 高野真史^{*4}, 橘高敦史^{*4}: Modified Deazaguanies for the synthesis of PNA.

第51回ペプチド討論会 (2014.10)

- *1 東京大学大学院総合文化研究科
- *2 名古屋大学ITbM
- *3 工学院大学
- * 4 帝京大学薬学部

三澤隆史, 長久保貴哉, 出水庸介, 佐藤由紀子, 諫田泰

成, 奥平桂一郎, 関野祐子, 内藤幹彦, 栗原正明: ヘリカルペプチドを用いたエストロゲン受容体転写阻害剤の 創製.

第32回メディシナルケミストリーシンポジウム(2014.11)

加藤雅士*,正田卓司,奥平桂一郎,井上英史*,内藤 幹彦,栗原正明:アルキル基の長さに着目したエストロ ゲン受容体分解誘導剤の構造最適化研究.

第32回メディシナルケミストリーシンポジウム(2014.11)

* 東京薬科大学

杖本望*, 出水庸介, 百合野翔太郎*, 小川舞*, 土井麻緒*, 中村陽菜*, 栗原正明, 須原義智*:生体材料への応用を指向した新規コラーゲン様ペプチドの創製. 第32回メディシナルケミストリーシンポジウム (2014.11)

* 芝浦工業大学大学院理工学研究科

岡崎優祐*, 出水庸介, 細谷翼*, 川口潤一郎*, 栗原正明, 須原義智*: 抗ウィルス薬を目指した新規*O*-硫酸化多糖類の合成.

第32回メディシナルケミストリーシンポジウム (2014.11)

* 芝浦工業大学大学院理工学研究科

出水庸介,長久保貴哉,三澤隆史,佐藤由紀子,諫田泰成,奥平桂一郎,関野祐子,内藤幹彦,栗原正明:エストロゲン受容体転写阻害ペプチドの開発.

第40回反応と合成の進歩シンポジウム (2014.11)

山下博子, 出水庸介, 三澤隆史, 大庭誠*, 田中正一*, 栗原正明: 二次構造制御に基づく膜透過性ヘリカルペプチドの創製.

第40回反応と合成の進歩シンポジウム (2014.11)

* 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

小野京 *1 , 島袋充史 *1 , 上田篤志 *1 , 大庭誠 *1 , 土井光 暢 *2 , 出水庸介, 栗原正明, 田中正 $-^{*1}$: 環状メチオニンの合成とそのペプチドの二次構造解析.

第40回反応と合成の進歩シンポジウム (2014.11)

- *1 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
- *2大阪薬科大学

榊原紀和*1, 馬場昌範*2, 岡本実佳*2, 外山政明*2, 出

水庸介,三澤隆史,栗原正明,入江晃司*1,加藤善久*1, 丸山徳見*1:抗HIV-1剤を指向した1-置換型ウラシル誘 導体および尿素誘導体の創製研究.

第52回薬学会中国四国支部学術大会(2014.11)

- *1 徳島文理大学香川薬学部
- *2 鹿児島大学医学部

出水庸介,長久保貴哉,三澤隆史,諫田泰成,奥平桂一郎,関野祐子,内藤幹彦,栗原正明:エストロゲン受容体転写活性化阻害ペプチドの創製.

日本薬学会第135回年会(2015.3)

三澤隆史, 出水庸介, 船田正彦*, 栗原正明: カンナビノイド受容体調整薬の設計と合成.

日本薬学会第135回年会(2015.3)

* 国立精神・神経センター

山下博子, 出水庸介, 三澤隆史, 服部隆行, 大庭誠*, 田中正一*, 内藤幹彦, 栗原正明: 二次構造制御に基づ くカチオン性膜透過ペプチドの開発.

日本薬学会第135回年会(2015.3)

* 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

沖津航陽, 出水庸介, 三澤隆史, 正田卓司, 服部隆行,

内藤幹彦, 栗原正明:細胞内タンパク質に対する蛍光スイッチング機能を持つ小分子プローブの開発.

日本薬学会第135回年会(2015.3)

田中克哉, 依岡桃子, 三澤隆史, 諫田泰成, 関野祐子, 出水庸介, 栗原正明: 非対称ジフェニルメタンを基本骨 格とするエストロゲン受容体アンタゴニストの設計と合 成.

日本薬学会第135回年会(2015.3)

岡崎優祐*,出水庸介,細谷翼*,栗原正明,須原義智*:糖アミノ酸を用いた新規糖質類縁体の合成と抗ウィルス薬への応用.

日本薬学会第135回年会(2015.3)

* 芝浦工業大学大学院理工学研究科

杖本望*, 出水庸介, 百合野翔太郎*, 中村陽菜*, 土井 麻緒*, 栗原正明, 須原義智*:三重螺旋構造の安定化 を指向したβ-ペプチド導入型コラーゲン模倣物の創製. 日本薬学会第135回年会(2015.3)

* 芝浦工業大学大学院理工学研究科

古場百合恵*1,上田篤志*1,大庭誠*1,土井光暢*2,出水庸介,栗原正明,田中正一*1:アセタールを有するキラル環状ジ置換アミノ酸によるヘリカル二次構造の制御

日本薬学会第135回年会(2015.3)

- *1 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
- *2大阪薬科大学

江藤諒 *1 , 大庭誠 *1 , 上田篤志 *1 , 栗原正明, 出水庸介 *1 , 末宗洋 *2 , 田中正一 *1 : D-トレイトール由来のアセタールを有する六員環状ジ置換アミノ酸よりなるペプチドのコンフォメーション解析.

日本薬学会第135回年会(2015.3)

*1 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

*2 九州大学大学院薬学研究科

清水貴士*, 山本耕介*, メイビョウ*, 出水庸介, 栗原正明, 末宗洋*, 臼井一晃*: リパーゼ触媒を用いた [5] ヘリセン類の速度論的光学分割.

日本薬学会第135回年会(2015.3)

* 九州大学大学院薬学研究科

榊原紀和*1, 馬場昌範*2, 岡本実佳*2, 外山政明*2, 出水庸介, 三澤隆史, 栗原正明, 入江晃司*1, 加藤善久*1, 丸山徳見*1:3,5-ジメチルベンジル基を有するウラシル誘導体および尿素誘導体の合成とそれらの抗HIV-1活性評価.

日本薬学会第135回年会(2015.3)

- *1 徳島文理大学香川薬学部
- *2 鹿児島大学医学部

杉山亨 *1 , 桑田啓子 *2 , 今村保忠 *3 , 出水庸介, 栗原正明, 高野真史 *4 , 橘高敦史 *4 : デアザグアニン誘導体を持つ PNAモノマーの合成.

日本薬学会第135回年会(2015.3)

^{*1} 東京大学大学院総合文化研究科

^{*2} 名古屋大学ITbM

^{*3} 工学院大学

* 4 帝京大学薬学部

正田卓司, 加藤雅士*, 藤里卓磨*, 原田麟太郎, 奥平 桂一郎, 井上英史*, 内藤幹彦, 栗原正明:タモキシフェ ン骨格を有する分解誘導剤のアルキル鎖長および末端構 造の最適化.

日本薬学会第135年会(2015.3)

* 東京薬科大学

加藤雅士*, 正田卓司, 井上英史*, 内藤幹彦, 栗原正明: 4,4,5,5,5ペンタフルオロペンチル基を有するタモキシ フェン誘導体のエストロゲン受容体分解誘導活性の評 価.

日本薬学会第135年会(2015.3)

* 東京薬科大学

西山郵子*1, 中村政彦*1, 三澤隆史, 青山洋史*1, 杉田 和幸*1, 石川稔*1, 橋本祐一*1, 中込まどか*2, 槇島誠*3, 馬場昌範*4:フェナンスリジノン誘導体の多重薬理学的 プロファイリング.

第32回メディシナルケミストリーシンポジウム(2014.11)

*1 東京大学分子細胞生物学研究所

- *2乙卯研
- *3日本大学医学部
- * 4 鹿児島大学医学部

小針孝夫*,細田信之助*,貝沼雅彦*,三澤隆史,藤井 晋也*, 橋本祐一*:ステロイド代替骨格としてのジフェ ニルメタン骨格-胆汁酸鬱滞性疾患治療薬への展開. 日本薬学会第135回年会(2015.3)

* 東京大学分子細胞生物学研究所

Demizu Y, Misawa T, Yamashita H, Doi M*1, Sato Y, Tanaka M*2, Kurihara M: Conformations of LDpeptides containing equal amounts of L-amino acids, D-amino acids, and achiral α,α -disubstitued amino acids. 33rd European Peptide Symposium (2014.9)

*1大阪薬科大学

Kurihara M, Kawamura M, Misawa T, Sato Y, Demizu Y: Stapled short helical peptides for vitamin D receptor-coactivator interaction inhibitor. 33rd European Peptide Symposium (2014.9)

Tanaka M*1, Takazaki H*2, Kawabe N*2, Doi M*3, Demizu Y, Kurihara M, Suemune H*2, Oba M*1: Helical secondary structures of peptides having chiral cyclic amino acid with two azido functional groups. 33rd European Peptide Symposium (2014.9)

*1 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

- *2 九州大学大学院薬学学研究科
- *3大阪薬科大学

蜂須賀暁子, 植草義徳, 鍋師裕美, 堤智昭, 手島玲子, 松田りえ子: トータルダイエット試料による食品からの 放射性セシウム及びカリウムの摂取量推定. 平成26年度放射線安全取扱部会年次大会(2014.10)

蜂須賀暁子, 植草義徳, 鍋師裕美, 堤智昭, 松田りえ子, 最上知子:放射能測定における不確かさ-試料形状. 第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

中島治,近藤一成,最上(西巻)知子:食用遺伝子組換 え動物の最近の開発状況についての調査.

日本薬学会第135年会(2015.3)

曽我慶介, 山本一夫*:糖鎖認識のための分子基盤:スキャ フォールド解析から見えたこと.

第33回日本糖質学会年会(2014.8)

* 東大・新領域

山本一夫*, 曽我慶介, 京藤拓也*, 田中敦洋*:マメ科 レクチンのスキャフォールド解析.

第87回日本生化学会大会(2014.10)

* 東大・新領域

近藤一成:植物性自然毒の検査法及びデータベースの整 備, 活用について.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

伊東篤志*1, 田口朋之*1, 田名網健雄*1, 羽田聖治*1, 中村公亮, 近藤一成, 穐山浩, 手島玲子, 何思厳*2, 宮 原平*2, 山田晃世*2, 小関良宏*2: DNAマイクロアレイ による未承認遺伝子組換えパパイヤのスクリーニング検 査法.

^{*2} 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

日本食品化学学会第20回総会・学術大会(2014.5)

*1 横河電機(株)

中村公亮:未承認遺伝子組換え食品の検知法の開発に関する研究.

日本食品化学学会第20回総会・学術大会(2014.5)

中村公亮,小林友子,近藤一成,最上(西巻)知子:次世代ゲノム編集技術を用いた人工プロモーター挿入によるグロビン遺伝子クラスターループ内の遺伝子発現量の調節.

日本食品化学学会第20回総会・学術大会(2014.5)

Nakamura K, Kondo K, Akiyama H, Kobayashi T, Noguchi A, Nagoya H*1, Takabatake R*2, Kitta K*2, Plouffe D*3, Buchanan J*4, Nishimaki-Mogami T: A novel transgenic construct-specific real-time PCR detection method for genetically modified salmon in foods

128th AOAC Annual Meeting & Exposition (2014.9)

中村公亮,近藤一成,小林友子,坂田こずえ,野口秋雄,名古屋博之*1,真野潤一*2,橘田和美*2,最上(西巻)知子:成長ホルモン遺伝子を組換えた遺伝子組換えサケ検知法の試験室間共同試験による妥当性確認.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

中村公亮、小林友子、近藤一成、最上(西巻)知子:標的DNAのメチル化の頻度およびパターン解析による新規GM検知法確立の試み、

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

中村公亮,近藤一成,小林友子,野口秋雄,高畠令王奈*, 橘田和美*,最上(西巻)知子:CaNCED配列を標的と したヒヨコマメ内在性遺伝子検知法.

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

* (独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

中西希代子*,中村公亮,近藤一成,穐山浩,最上(西巻) 知子,池田惠*:加工食品中の食品添加物CMCによる DNA精製効率に与える影響について.

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

* 千葉県衛生研究所

高畠令王奈*¹,大西真理*²,布籐聡*²,峯岸恭孝*³,野口秋雄,中村公亮,近藤一成,手島玲子,真野潤一*¹,橘田和美*¹:遺伝子組換えイネ検出のためのイネ種共通内在性配列の検討.

2014年度AOAC International日本セクション年次大会 (2014.6)

*1 (独)農業·食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

野口秋雄, 坂田こずえ, 真野潤一*1, 中村公亮, 高畠令王奈*1, 峯岸恭孝*2, 橘田和美*1, 穐山浩, 手島玲子, 近藤一成, 最上(西巻)知子:2010年度米国産不分別トウモロコシ試料における遺伝子組換えトウモロコシの混入率と系統分析.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

*1 (独)農業·食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

野口秋雄:遺伝子組換えトウモロコシの新規スクリーニング検査法.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

野口秋雄,中村公亮,真野潤一*1,高畠令王奈*1,峯岸 恭孝*2,橘田和美*1,手島玲子,近藤一成,最上(西巻) 知子:遺伝子組換えトウモロコシの新規スクリーニング 検査法の開発.

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

真野潤一*1, 西辻泰之*2, 菊池洋介*2, 福留真一*2, 林田拓也*3, 川上裕之*3, 栗本洋一*3, 野口秋雄, 近藤一成, 最上(西巻) 知子, 高畠令王奈*1, 橘田和美*1: 加工食

^{*2} 東京農工大学

^{*1(}独)水産総合研究センター

^{*&}lt;sup>2</sup>(独)農業·食品産業技術総合研究機構食品総合研究 所

^{* &}lt;sup>3</sup> The Center for Aquaculture Technologies Canada

^{* &}lt;sup>4</sup> The Center for Aquaculture Technologies

^{*1} 水産総合研究センター

^{*&}lt;sup>2</sup>(独)農業·食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

^{*2(}株)ファスマック

^{*3(}株)ニッポンジーン

^{*2 (}株)ニッポンジーン

^{*1 (}独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所
*2 (株)ニッポンジーン

品中の遺伝子組換え農産物混入率評価手法の検討. 第108回日本食品衛生学会学術講演会 (2014.12)

*1 (独)農業·食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

- *2(株)日清製粉グループ本社
- *3日本製粉(株)

坂田こずえ,近藤一成,中村公亮,野口秋雄,小林友子,福田のぞみ,最上(西巻)知子:RFLPおよびReal-time PCR法を用いたクサウラベニタケ複合種の分析法. 第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

坂田こずえ,近藤一成,中村公亮,野口秋雄,小林友子,福田のぞみ,最上(西巻)知子:Multiplex real-time PCRを用いたクサウラベニタケとその近縁種の同定. 第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

Adachi R, Sakai S, Nishimaki-Mogami T: Food allergen labeling regulation in Japan and recent topics.

8th Workshop on Food Allergen Methodologies & APEC Introduction to Food Allergies and Allergen Detection Methods (2014.5)

安達玲子, 酒井信夫, 手島玲子: 食物アレルゲンの経皮 感作による即時型アレルギーモデル.

第21回日本免疫毒性学会学術大会(2014.9)

安達玲子, 酒井信夫, 有馬優美*¹, 山本智之*¹, 佐久間 恵*², 最上(西巻)知子:新規抽出液を用いて調製した 特定原材料定量検査法標準品に関する検討.

第108回日本食品衛生学会学術講演会(2014.12)

Adachi R: Food allergen labelling and new analytical method in Japan.

International food allergy seminar to celebrate 72th Kasetsart University anniversary (2014.11)

宮崎明子*,渡辺聡*,平尾宜司*,酒井信夫,安達玲子,最上(西巻)知子:陽性/陰性判定プラスミドを用いた特定原材料のリアルタイムPCR定性検査法の開発. 第107回日本食品衛生学会学術講演会(2014.5) 柴原裕亮*1,柳田梨紗*1,猪井俊敬*1,汪俊*2,山田彰一*2,酒井信夫,穐山浩,安達玲子:医薬用外毒物を含まない抽出液を用いた新規甲殻類ELISAキットの開発. 第107回日本食品衛生学会学術講演会(2014.5)

酒井信夫, 安達玲子, 木村美恵, 菊地博之, 渡邉敬浩, 佐々木和実*¹, 西嶋桂子*¹, 安宅花子*¹, 福冨友馬*², 最上(西巻)知子, 手島玲子: 抗原性を呈する加水分解コムギの分子プロファイリング.

第26回日本アレルギー学会春季臨床大会 (2014.5)

酒井信夫,安達玲子,最上(西巻)知子,手島玲子:経 皮感作性を有する加水分解コムギのスクリーニング用抗 体について.

日本食品化学学会第20回総会・学術大会(2014.5)

宮﨑明子*,渡辺聡*,平尾宜司*,酒井信夫,安達玲子, 最上(西巻)知子:特定の機種に依存しない特定原材料 リアルタイムPCR定性検査法の開発.

2014年度AOAC International日本セクション年次大会 (2014.6)

加藤重城*,加藤綾子*,秋元政信*,安達玲子,酒井信夫, 穐山浩,手島玲子:キウイフルーツタンパク質検出用 ELISAキットの多機関バリデーション.

2014年度AOAC International日本セクション年次大会 (2014.6)

Sakai S, Nakamura R, Adachi R, Fukutomi Y*, Saito Y, Nishimaki-Mogami T, Teshima R: Experimental assessments of the cross-reactivity of IgE from patients sensitized with acid-hydrolysed wheat protein in a cosmetic soap.

3rd Food Allergy and Anaphylaxis Meeting (2014.10)

^{*1(}株)ニッポンジーン

^{*2}オリエンタル酵母工業(株)

^{*} ハウス食品グループ本社(株)

^{*1}日水製薬(株)

^{*2}日本水産(株)

^{*1(}独)製品評価技術基盤機構

^{*2}国立病院機構相模原病院臨床研究センター

^{*} ハウス食品グループ本社(株)

^{*} プリマハム(株)

^{*} 国立病院機構相模原病院臨床研究センター

酒井信夫、安達玲子、穐山浩、最上(西巻)知子:「アレルギー物質を含む食品の検査方法の改良法の評価に関するガイドライン」に基づく新・旧特定原材料ELISAキットの同等性評価.

第51回全国衛生化学技術協議会年会(2014.11)

小原拓*13, 佐藤倫広*1, 山口浩明*45, 髙田紀子*12, 鈴木理紗子*12, 飯田優太郎*12, 青木良子, 天沼喜美子, 松浦正樹*12, 佐藤真由美*12, 井関健*45, 眞野成康*12: 薬剤師における「医薬品・医療機器等安全性情報報告制度」に関する理解と実践.

日本病院薬剤師会東北ブロック第4回学術大会 (2014.5)

- *3 東北大学東北メディカル・メガバンク機構予防医学・ 疫学部門
- * 4 北海道大学病院薬剤部
- *5 北海道病院薬剤師会

太田有子,青木良子,天沼喜美子,春日文子:妊娠中の薬剤使用の安全性-欧米における大規模なデータベースを用いた最近の研究.

第4回レギュラトリーサイエンス学会学術大会 (2014.9)

青木良子,前田初代,丸野有利子,太田有子,天沼喜美子,春日文子:海外でのベンゾジアゼピン系抗不安薬/催眠薬の使われ方と有害事象に関する最近のトピック. 日本薬学会第135年会(2015.3)

Toda M, Uneyama C, Kasuga F: Trends of tetrodotoxin poisonings caused by puffer fish in Japan. 2014 Eurotox (2014.9)

Morita T, Hamada S*: The Rat Liver Micronucleus Test: Summary of the 2013 IWGT Working Group on the Liver Micronucleus Test.

2014 Genetic Toxicology Association (2014.5)

森田健: Ames陽性知見は、発がん性や遺伝毒性リスクを全て同じレベルで示唆するか?

JEMS·BMS研究会 第51回定例会 (2014.6)

森田健, 古田光子*, 春日文子: 有害性物質の毒物劇物への該当性評価.

第36回日本中毒学会総会(2014.7)

* 厚生労働省

Morita T, Kasuga F: Comparison of GHS classification of CMR substances in EU and Japan.

2014 EuroTox (2014.9)

Hamada S*1, Ohyama W*2, Takashima R*1, Shimada K*3, Matsumoto K*4, Kawakami S*5, Uno F*6, Sui H*7, Shimada Y*8, Imamura T*9, Matsumura S*10, Sanada H*11, Inoue K*12, Muto S*13, Ogawa I*14, Hayashi A*15, Takayanagi T*16, Ogiwara Y*17, Maeda A*18, Okada E*2, Terashima Y*19, Takasawa H*1, Narumi K*2, Wako Y*1, Kawasako K*1, Morita T, Kojima H, Honma M, Hayashi M*6: Evaluation of repeated dose liver and gastrointestinal tract micronucleus assay using young adult rats (IV): Summary of collaborative study by CSGMT/JEMS. MMS.

Environmental Mutagenesis and Genomics Society 45th Annual Meeting (2014.9)

森田健, 小宮佐知子: EU, ドイツおよび日本における 生殖細胞変異原の分類比較.

日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

Morita T, Komiya S: Classification of germ cell

^{*1} 東北大学病院薬剤部

^{*2} 宮城県病院薬剤師会

^{*} LSI Medience Corporation

^{* &}lt;sup>1</sup> LSI Medience Corporation

^{* 2} Yakult Honsha

^{* &}lt;sup>3</sup> Astellas Pharma

^{* &}lt;sup>4</sup> Astellas Research Technologies

^{* &}lt;sup>5</sup> Asahi Kasei Pharma

^{* &}lt;sup>6</sup> Biosafety Research Center

^{* 7} Food and Drug Safety Center

^{* 8} Hokko Chemical Industry

^{* 9} Ina Research

^{*10} Kao Corporation

^{*11} Kaken Pharmaceutical

^{*12} Maruho

^{*13} Mitsubishi Tanabe Pharma

^{*14} Nissan Chemical Industries

^{*15} Shin Nippon Biomedical Laboratories

^{*16} Suntory Business Expert

^{*17} Taisho Pharmaceutical

^{*18} Toray Industries

^{*19} Kissei Pharmaceutical

mutagens in EU, Germany or Japan.

4th Asian Conference on Environmental Mutagens (2014.12)

窪田邦宏, 天沼宏, 荻原恵美子, 酒井真由美, 春日文子: 欧米における非動物性食品の病原微生物による汚染の状況.

第35回日本食品微生物学会学術総会(2014.9)

Kubota K, Amanuma H, Yanagisawa H^{*1}, Shimojima M^{*2}, Yamashita T^{*3}, Sakurai Y^{*4}, Komatsu M^{*4}, Kasuga F: Estimating the burden of foodborne illness in Japan using clinical laboratory data for whole of Japan, 2006-201.

International Association for Food Protection, 2014 Annual Meeting (2014.7)

* 1 MIROKU Medical Laboratory Co.,Ltd.

* ² Bio Medical Laboratories (BML) Inc.

* 3 Mitsubishi Chemical Medience Corporation

* 4 Miyagi Medical Association

Nakamura R, Kaniwa N, Ueta M*1, Sotozono C*1, Sugiyama E, Maekawa K, Yagami A*2, Matsukura S*3, Ikezawa Z*3, Matsunaga K*2, Tokunaga K*4, Aihara M*3, Kinoshita S*1, Saito Y: HLA association with antipyretic analgesics-induced Stevens-Johnson syndrome / toxic epidermal necrolysis with severe ocular surface complications in Japanese patients.

European Academy of Allergy and Clinical Immunology, Drug Hypersensitivity Meeting 2014 (2014.4)

Saito Y, Ueta M*1, Nakamura R, Sugiyama E, Maekawa K, Takahashi Y*2, Furuya H*3, Yagami A*4, Matsukura S*5, Ikezawa Z*5, Matsunaga K*4, Sotozono C*1, Aihara M*4, Kinoshita S*1, Kaniwa N: Medication tendencies for inducing severe ocular surface symptoms in Japanese Stevens-Johnson syndrome/toxic epidermal necrolysis patients.

European Academy of Allergy and Clinical Immunology, Drug Hypersensitivity Meeting 2014 (2014.4)

- * 1 Kvoto Prefectural University of Medicine
- * ² Shizuoka Institute of Epilepsy and Neurological Disorders
- * 3 Kochi university
- * 4 Fujita Health University
- * 5 Yokohama City University

Nakamura R: Biomarkers for risk of SJS/TEN in Japanese compared to other populations.

Drug Information Association: Drug-Induced Injury of Liver, Heart, Kidney, and Skin (2014.5)

斎藤嘉朗,花谷忠昭:医薬品安全対策への医療情報データを用いた薬剤疫学的手法の導入と確立に向けた課題. 第12回レギュラトリーサイエンス学会シンポジウム (2014.5)

木戸博 *1 , 亀村典生 *1 , 川本典生 *2 , 中村亮介, 手島玲子, 深尾敏幸 *2 : 臍帯血の抗原特異的低親和性IgE検出と, 生後6, 14ヶ月の高親和性IgEへの変化.

第26回日本アレルギー春季臨床学会 (2014.5)

安達基泰*,前川京子,松澤由美子,斎藤嘉朗,黒木良太*: X線結晶回折法によるヒト由来薬物代謝酵素 CYP2C9および一塩基置換体(*30)と抗高血圧薬ロサルタンの相互作用解析.

第14回日本蛋白質科学会年会(2014.6)

中村亮介:培養細胞を用いるアレルギー試験「EXiLE法」 の開発と応用.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

斎藤嘉朗:我が国における新薬物相互作用ガイドライン の作成について.

第16回臨床薬理試験研究会(2014.7)

中村亮介, 鹿庭なほ子, 上田真由美*1, 外園千恵*1, 杉山永見子, 前川京子, 内田好海, 矢上晶子*2, 松倉節子*3, 池澤善郎*3, 松永佳世子*2, 徳永勝士*4, 相原道子*3, 木下茂*1, 斎藤嘉朗:「風邪薬」による重症眼粘膜障害を伴うスティーブンス・ジョンソン症候群及び中

^{* 1} Kyoto Prefectural University of Medicine

^{* &}lt;sup>2</sup> Fujita Health University

^{* &}lt;sup>3</sup> Yokohama City University

^{* 4} University of Tokyo

^{*1} 徳島大学

^{*2} 岐阜大学

^{*} 日本原子力研究開発機構

毒性表皮壊死症発症に関連するHLAについて. 第21回日本免疫毒性学会学術年会(2014.9)

- *1 京都府立医科大学
- *2藤田保健衛生大学
- *3横浜市立大学
- * 4 東京大学

内田好海, 鹿庭なほ子, 上田真由美*¹, 中村亮介, 杉山永見子, 高橋幸利*², 古谷博和*³, 矢上晶子*⁴, 松倉節子*⁵, 池澤善郎*⁵, 松永佳世子*⁴, 外園千恵*¹, 相原道子*⁵, 木下茂*¹, 斎藤嘉朗:日本人のスティーブンス・ジョンソン症候群及び中毒性表皮壊死症患者における重症眼粘膜障害発症に関連する医薬品の傾向.

第21回日本免疫毒性学会学術年会(2014.9)

- *1 京都府立医科大学
- *2 静岡てんかん・神経医療センター
- *3高知大学
- * 4 藤田保健衛生大学
- *5 横浜市立大学

佐井君江,瀬川勝智,頭金正博*1,齋藤充生*2,斎藤嘉朗: 日米の副作用自発報告データベースの利用可能性の検討 - 重症薬疹への適用 - .

第3回レギュラトリーサイエンス学会学術大会(2014.9)

Hanatani T, Sai K, Tohkin M^{*1}, Segawa K, Kimura M^{*2}, Hori K^{*2}, Kawakami J^{*2}, Saito Y: Identification of druginduced liver injury in medical information databases using the Japanese diagnostic scale.

30th International Conference on Pharmacoepidemiology and Therapeutic Risk Management (2014.10)

Maekawa K, Saito K, Pappan K^{*1}, Ishikawa M, Urata M, Tajima Y, Murayama M, Kumagai Y^{*2}, Saito Y: Impact of gender, age, fed/fasted state of rats on their serum hydrophilic metabolites.

19th North American ISSX and 29th JSSX Joint Meeting (2014.10)

- * 1 Metabolon, Inc., USA
- * ² Kitasato University School of Medicine

Ishikawa M, Saito K, Uebanso T*1, Maekawa K, Senoo Y, Murayama M, Tajima Y, Nishimaki-Mogami T, Nakanishi H*2, Ikeda K*3, Arita M*3, Taguchi R*4, Fujii M*5, Shibazaki Y*5, Yoneyama H*5, Nammo T*1, Saito Y, Yasuda K*1: Characterization of hepatic lipid profiles of insulin-dependent NASH and following cirrhosis using mouse model.

19th North American ISSX and 29th JSSX Joint Meeting (2014.10)

- * 3 RIKEN
- * 4 Chubu University
- * ⁵ Stelic Institute & Co., Inc.

Saito Y, Maekawa K, Saito K, Ishikawa M, Hirayama A*, Soga T*: Metabolomics-based analyses on dilated cardiomyopathy and Alzheimer's disease.

19th North American ISSX and 29th JSSX Joint Meeting (2014.10)

Saito Y, Hisaka A*1, Kume T*1, Maeda K*1, Suzuki H*1, Ito K*1, Inui K*1, Kato Y*1, Ozawa S*1, Watanabe H*2, Miura S*3, Mitsuoka T*4, Maekawa K, Sato M*5, Ishiguro A*5, Sato R*5, Nagai N*5, Ohno Y: Drug interaction guideline for drug development and labeling recommendations: Final draft of Japanese new guideline.

19th North American ISSX and 29th JSSX Joint Meeting (2014.10)

Saito K, Urata M, Toyoshima K, Ishikawa M, Murayama M, Tajima Y, Senoo Y, Takemoto K, Kumagai Y*, Maekawa K, Saito Y: Comparison of plasma lipidomic profile of humans with preclinical

^{*1} 名古屋市立大学

^{*2} 帝京平成大学

^{* 1} Nagova City University

^{* &}lt;sup>2</sup> Hamamatsu University School of Medicine

^{* 1} National Center for Global Health and Medicine

^{* &}lt;sup>2</sup> Akita University

^{*} Keio University

^{* 1} JSSX

^{* 2} JSCPT

^{* 3} JPMA

^{* 4} MHLW

^{* 5} PMDA

anilals.

19th North American ISSX Meeting/29th JSSX Meeting 2014 (2014.10)

* Kitasato University School of Medicine

Sai K, Segawa K, Tohkin M^{*1}, Saito M^{*2}, Saito Y: International comparison of suspect drugs for severe cutaneous adverse reactions using adverse event reporting system databases.

2014 AAPS Annual Meeting and Exposition (2014.11)

Saito Y, Saito K, Ishikawa M, Urata M, Tajima Y, Inoue M, Kumagai Y^{*1}, Pappan KL^{*2}, Maekawa K: Metabolomic profiles in rat blood vary between genders, ages and fasting conditions, and their qualitative comparisons with human samples.

2014 AAPS Annual Meeting and Exposition (2014.11)

Maekawa K, Saito K, Ishikawa M, Minamino M^{*1}, Kumagai Y^{*2}, Saito Y: Metabolomic biomarker exploration highlights issues of species specificity. KSCPT-JSCPT Joint symposium (2014.11)

* 1 National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute

平山明由*1, 菅原尚子*1, 阿部弘*1, 前川京子, 南茂隆生*²³, 平本正樹*², 冨田勝*1, 関洋介*⁴, 笠間和典*⁴, 斎藤嘉朗, 安田和基*², 曽我朋義*¹: キャピラリー電気泳動 – 質量分析法を用いた肥満症のメタボローム解析. 第37回分子生物学会年会(2014.11)

亀村典生*¹, 川本典生*², 中村亮介, 手島玲子, 下条直樹*³, 深尾敏幸*², 木戸博*¹: 新規蛋白チップによる臍

帯血特異的IgEの検出と、離乳完了期までに見られる IgE抗体の低親和性から高親和性への変化. 第51回日本小児アレルギー学会(2014.11)

秋山晴代*¹, 河又小夏*², 中村亮介, 福富友馬*³, 甲斐茂美*¹, 松藤寛*², 宮澤眞紀*¹: EXiLE法を用いた口腔アレルギー症候群の新たなin vitro検査法の検討. 第37回日本分子生物学会年会(2014.11)

佐井君江, 杉山永見子, 松澤由美子, 斎藤嘉朗:日本人と東及び東南アジア諸民族における薬物代謝酵素・トランスポーター遺伝子多型の民族差.

第35回日本臨床薬理学会学術総会(2014.12)

斎藤嘉朗,齊藤公亮,児玉進,熊谷雄治,前川京子:ヒト試料を用いたバイオマーカー開発のためのレギュラトリーサイエンス.

第35回日本臨床薬理学会学術総会(2014.12)

前川京子, 樋坂章博*1, 久米俊行*1, 前田和哉*1, 鈴木洋史*1, 三浦慎一*2, 佐藤正延*3, 佐藤玲子*3, 永井尚美*3, 斎藤嘉朗, 渡邉裕司*4, 大野泰雄*5:「医薬品開発と適正な情報提供のための薬物相互作用ガイドライン」の最終案について.

第35回日本臨床薬理学会学術総会(2014.12)

佐井君江, 今任拓也, 松澤由美子, 杉山永見子, 前川京子, 赤尾浩慶*, 梶波康二*, 日本PGxデータサイエンスコンソーシアム, 斎藤 嘉朗:日本人症例におけるスタチン関連筋障害の発症に特徴的な遺伝子多型.

日本薬学会第135年会(2015.3)

^{* 1} Nagova City University

^{* &}lt;sup>2</sup> Teikvo Heisei University

^{* 1} Kitasato University School of Medicine

^{* &}lt;sup>2</sup> Metabolon Inc.

^{* 2} Kitasato University School of Medicine

^{*1} 慶応大学

^{*2}国立国際医療研究センター

^{*3} 東京医科大学

^{*4} 四谷メディカルキューブ

^{*1} 徳島大学

^{*2} 岐阜大学

^{*3} 千葉大学

^{*1}神奈川衛研

^{*2}日本大学

^{*3} 国立病院機構相模原病院

^{*1}日本薬物動態学会

^{*2}日本製薬工業協会

^{*3(}独)医薬品医療機器総合機構

^{* 4} 日本臨床薬理学会

^{*5} 木原記念横浜生命科学振興財団

^{*} 金沢医科大学

杉山永見子,佐井君江,今任拓也,斎藤嘉朗:東及び東南アジア諸民族における薬物代謝酵素遺伝子多型の民族

日本薬学会第135年会(2015.3)

前川京子,水澤精穂*1,北本綾*1,北本卓也*1,中村亮介,杉山永見子,上田真由美*2,外園千恵*2,池田浩子*2,矢上晶子*2,松倉節子*2,木下茂*2,村松正明*2,古谷博和*2,高橋幸利*2,松永佳世子*2,相原道子*2,関根章博*1,日本PGxデータサイエンスコンソーシアム*3,斎藤嘉朗:日本人におけるカルバマゼピン誘因性薬疹発症の危険因子HLA-A*31:01のサロゲートマーカー多型を対象としたタイピング系の構築.

日本薬学会第135年会(2015.3)

秋山晴代 *1 , 河又小夏 *2 , 政岡智佳 *1 , 中村亮介, 福富友馬 *3 , 甲斐茂美 *1 , 松藤寛 *2 , 宮澤眞紀 *1 : 口腔アレルギー症候群における新たなin vitro試験法の検討. 日本薬学会第135年会(2015.3)

岡本(内田)好海,中村亮介,相馬愛実*,石井明子, 最上知子,川崎ナナ,川上浩*,手島玲子,斎藤嘉朗: 架橋誘導活性の異なるモノクローナルIgEの抗原認識様 式の違いについて.

日本薬学会第135年会(2015.3)

斎藤嘉朗, 松澤由美子, 嶽本和久, 石川将己, 齊藤公亮, 細井寛子*, 近藤俊輔*, 上野秀樹*, 奥坂拓志*, 前川京子: リピドミクス解析による手足症候群関連代謝物候補のin vitro 探索.

日本薬学会第135年会(2015.3)

Kanno J, Yuhji Taquahashi Y, Takagi A, Tsuji M, Morita K, Ogawa Y, Mesotheliomagenesis of micrometer-sized MWCNT: findings from intraperitoneal injection and whole body inhalation studies of highly dispersed "Taquann" treated MWCNT.

7th International Nanotoxicology Congress (2014.4)

菅野純:評価と管理の分界に関する考察. 平成26年度日本環境変異原学会公開シンポジウム(2014.5)

Kitajima S, Kanno J: Progress of Percellome Toxicogenomics Project.

2014 Spring International Symposium of Korean Society of Toxicology (KSOT) (2014.5)

Okubo Y, Igarashi K, Saga Y* Kanno J: Analysis of the Delta signaling as the reverse signaling of Notch in mouse development.

第47回日本発生生物学会(2014.5)

Hirabayashi Y, Yoon BI*1, Tsuboi I*2, Kanno J, Trosko JE*3, Inoue T*2: Connexin 32 Maintains Stemness of Hematopoiesis: Maintaining the bone-marrow reconstitution capability in secondary recipients.

The 12th Annual meeting for the International Society for Stem Cell Research (ISSCR) (2014.6)

菅野純,相崎健一,北嶋聡: Percellome Projectの進捗 - 新型反復暴露による慢性毒性の予測に向けての分子背景の解析 - .

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

菅野純, 髙橋祐次, 高木篤也, 広瀬明彦, 今井田克己*¹, 津田洋幸*²: ナノマテリアルの吸入毒性評価の迅速化と 効率化に向けて.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

平林容子, 壷井功*1, 五十嵐勝秀, 菅野純, 楠洋一郎*2, 井上達*1: 放射線障害の未分化造血幹・前駆細胞に限局 した遷延性変化とその加齢影響: 遺伝子発現プロファイ

^{*1} 京都大学

^{*2} SJS/TEN遺伝子多型研究班

^{* 3} JPDSC

^{*1} 神奈川衛研

^{*2}日本大学

^{*3}国立病院機構相模原病院

^{*} 共立女子大学

^{*} 国立がん研究センター

^{*} National Institute of Genetics

^{* 1} Kangwon National University, Republic of Korea

^{* 2} Nihon University School of Medicine

^{* 3} Michigan State University, USA

^{*1} 名古屋市立大学

^{*2}香川大学

ル.

第41回日本毒性学会(2014.7)

- *1日本大学医学部
- *2(公財)放射線影響研究所

高橋祐次,小川幸男,高木篤也,辻昌貴,森田紘一,岸宗佑*,今井田克己*,菅野純:多層カーボンナノチューブのp53+/-マウス全身暴露吸入による肺及び胸膜病変. 第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

* 香川大学

北嶋聡,小川幸男,大西誠*,相磯成敏*,相﨑健一,五十嵐勝秀,高橋祐次,菅野純:シックハウス症候群レベルの極低濃度吸入暴露時の海馬Percellomeトキシコゲノミクス-化学構造が異なる3物質の比較-.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

* 中央労働災害防止協会・日本バイオアッセイ研究センター

北嶋聡,種村健太郎*,菅野純:毒性の網羅的把握のための遺伝子発現ネットワーク描出と動的バイオマーカー抽出.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

* 東北大学大学院・動物生殖科学分野

相﨑健一, 北嶋聡, 菅野純:遺伝子発現から見た毒性学 - Percellomeトキシコゲノミクスの進捗 - . 第36回日本中毒学会総会・学術集会 (2014.7)

平林容子:シンポジウム「老化と酸化ストレス, そして, 再生へ:体性・組織幹細胞と再生」放射線障害の造血に対する遷延性効果とその加齢影響:遺伝子発現プロファイルに見られる特徴.

第29回老化促進モデルマウス (SAM) 研究協議会 (2014.7)

Taquahashi Y, Takagi A, Tsuji M, Morita K, Ogawa Y, Kanno J, Nanotoxicology - its chronic aspects: Taquann-Direct Injection whole body inhalation system.

国際材料研究学会連合-アジア国際会議2014 (IUMRS-ICA2014) (2014.8)

Kanno J, Aisaki K, Kitajima S: Percellome toxicogenomics project as the 3R-toxicology and the foundation of in

vitro- and in silico-toxicology.

the 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (WC9) (2014.8)

Kanno J, Aisaki K, Kitajima S: Percellome Toxicogenomics. 50th Congress of the European Societies of Toxicology (EUROTOX2014) (2014.9)

菅野純, 髙橋祐次, 高木篤也, 広瀬明彦: Toxicological considerations for particulate matter as foreignbody carcinogen.

第73回日本癌学会学術総会(2014.9)

平林容子, 秉一尹*1, 壷井功*2, 藤井義明*3, 菅野純: アリールハイドロカーボン受容体を介した造血幹・前駆 細胞の維持機構第73回日本癌学会学術総会 (2014.9)

- *1韓国江原原大学
- *2日本大学医学部
- *3 東京大学

平林容子, 童井功*¹, 菅野純, 楠洋一郎*², 井上達*¹: Long-lasting residual damage of murine hematopoietic stem/progenitor cells after 2Gy irradiation.

第76回日本血液学会総会(2014.10)

- *1韓国江原原大学
- *2(公財)放射線影響研究所

平林容子, 壷井功*¹, 尹秉一*², 菅野純, 井上達*¹: コネクシン32の造血幹細胞維持機構:連続移植による骨髄再建能.

第37回日本分子生物学会年会(2014.11)

- *1日本大学医学部
- *2韓国江原原大学

Taquahashi Y, Yasuhiko Y, Kitajima S, Saga Y* Kanno J: マウス胚の脊椎骨発生における椎間板原基の初期 マーカー Foxflの発現解析 Expression analysis of Foxfl, an earliest marker for intervertebral disc primordium in development of vertebral column in the mouse embryo.

第37回日本分子生物学会(2014.11)

^{*} 国立遺伝学研究所

菅野純:イントロダクション 現場から研究へ - ネオニコチノイドをめぐって.

第17回環境ホルモン学会研究発表会 (2014.12)

古川佑介,種村健太郎*,相﨑健一,北嶋聡,菅野純: アセチルコリンエステラーゼ阻害作用をもつ殺虫剤の暴 露による遅発性の中枢神経影響の比較.

第17回環境ホルモン学会研究発表会(2014.12)

* 東北大学大学院・動物生殖科学分野

Hirabayashi Y, Tsuboi I*1, Kanno J, Kusunoki Y*2, Inoue T*1: Radiation and Senescence: 2-Gy Whole-Body Irradiation Causes Prolonged Acceleration of Cell-Cycle in Hemopoietic Progenitors (CFU-GM) after Its Numerical Recovery.

Society of Toxicology 54th Annual Meeting & ToxExpo (2015.3)

Kanno J, Taquahashi Y: "Taquann" Dispersion Method with Direct Injection Whole-Body Inhalation System for Engineered Nano Materials Toxicity Studies. the 54th Annual Meeting of the Society of Toxicology (2015.3)

関野祐子:ヒトiPS細胞由来細胞を用いた安全性薬理学の新たな展望.

第21回HAB研究機構学術年会(2014.5)

関野祐子:h-iPS由来神経細胞を利用した薬理試験法開発の現状と課題.

第7回上肢の神経機能回復セミナー (2014.5-6)

笛田由紀子*¹, 関野祐子, 吉田祥子*², 上野晋*¹: 胎生 期バルプロ酸単回投与による授乳期ラット海馬の局所回 路機能変化.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

中村治子*1, 山下直也*1, 金丸悠理*2, 関野祐子, 後藤 敏行*2, 田中章景*1, 五嶋良郎*1: コンピューター解析 によるヒトiPS細胞から分化させた神経細胞の神経内輸 送に対する抗がん剤の影響についての検討. 第37回日本神経科学大会 Neuroscience2014 (2014.9)

勝股大樹*1, 村本英樹*1, 穂積直裕*1, 笛田由紀子*2, 上野晋*2, 関野祐子, 吉田祥子*1: ヒストン脱アセチル 化酵素阻害剤による小脳神経回路発達の変化.

第37回日本神経科学大会 Neuroscience2014 (2014.9)

阿部巧*¹, 村本英樹*¹, 笛田由紀子*², 関野祐子, 吉田祥子*¹: 発達期小脳皮質におけるATP情報伝達の分子機序と, バルプロ酸投与による変化.

第37回日本神経科学大会Neuroscience2014 (2014.9)

Sekino Y: Requirement for surrogate markers of neuronal maturation.

ISN satellite symposium on "Key molecules for neuronal maturation" Application for validating the maturation of humaniPSC-derived neurons (2014.9)

関野祐子:ヒトiPS細胞由来心筋細胞を用いた新規安全 性薬理試験法の開発と評価.

第58回日本薬学会関東支部大会(2014.10)

Shirao T*, Ishizuka Y*, Shimizu H*, Sekino Y: Search for the anti-amyloid beta drugs using primary neuronal cultures with drebrin cluster density as a marker of synaptic function.

Safety Pharmacology Society 14th Annual Meeting (2014.10)

関野祐子:ヒトiPS細胞由来組織細胞を用いた化学物質の安全性評価法の開発.

第4回CSJ化学フェスタ2014 -日本化学会秋季事業-(2014.10)

Yoshida S*1, Hozumi N*1, Katsumata D*1, Abe T*1,

^{* 1} Nihon University School of Medicine

^{* 2} Radiation Effect Research Foundation

^{*1} 産業医科大学

^{*2} 豊橋技術科学大学

^{*1}横浜市立大学

^{*2}横浜国立大学

^{*1} 豊橋技術科学大学

^{*2} 産業医科大学

^{*1} 豊橋技術科学大学

^{*2} 産業医科大学

^{*} Gunma University

Fueta Y*2, Ueno S*2, Sekino Y: Alteration of GABA release dynamics in autistic-like anomalous developing cerebellum.

GABAergic Signaling in Health and Disease: 24th Neuropharmacology Conference (2014.11)

上野晋*, 笛田由紀子*, 関野祐子: バルプロ酸の胎生 期曝露がもたらす授乳期ラットの海馬局所神経回路機能 への影響.

第67回日本薬理学会西南部会(2014.11)

中嶋さりい*1, 勝股大樹*1, 笛田由紀子*2, 上野晋*2, 関野祐子, 吉田祥子*1: 胎生期HDAC阻害剤曝露による発達期小脳皮質での伝達物質放出変化と行動観察. 第61回中部日本生理学会(2014.11)

冨田達朗*¹, 山田ひかり*¹, 笛田由紀子*², 上野晋*², 関野祐子, 吉田祥子*¹: 胎生期バルプロ酸投与動物由来の培養グリア細胞の発達変化.

第61回中部日本生理学会(2014.11)

Yoshida S*1, Hozumi N*2, Katsumata D*1, Abe T*1, Fueta Y*2, Ueno S*2, Sekino Y: Fetal application of HDAC inhibitors facilitates the elongation of Purkinje cell dendrites and the network formation in rat cerebellar cortex.

SfN2014 44th Neuroscience meeting (2014.11)

Shirao T*, Mizui T*, Koganezawa N*, Shimizu H*, Yasuda H*, Sekino Y: Myosin II ATPase activity mediates the biphasic movement of stable F-actin bound by drebrin A between dendritic spines and the parent dendrite in long-term potentiation.

Society for Neuroscience 41th Annual Meeting (2014.11)

関野祐子: in vitro 試験法でどのような中枢神経毒性を 評価できるのか?

安全性評価研究会2014年冬のセミナー (2014.12)

Sekino Y: JiCSA Study Data Review.

CIPA Update Workshop CSRC-HESI-SPS-FDA Meeting (2014.12)

笛田由紀子*¹, 関野祐子,吉田祥子*²,上野晋*¹:発達神経毒性評価のex vivo評価系をめざして-女性研究者ネットワークで紡ぐ共同研究体制.

第10回日本女性科学者の会学術大会(2015.1)

関野祐子:ヒトiPS細胞由来心筋細胞を用いた心臓安全 性次世代評価法について.

第2回心臓安全性に関するシンクタンクミーティング (2015.2)

Shirao T*, Koganezawa N*, Puspitasari A*, Sekino Y: Acute radiotoxicity on fear memory and synaptic proteins. 54th Annual Meeting of Society for Toxicology (2015.3)

Fueta Y*1, Sekino Y, Yoshida S*2, Ueno S*1: GABAergic involvement in the hippocampal development of the basic excitability and feedback inhibition in juvenile rats prenatally exposed to valproic acid.

54th Annual Meeting of Society for Toxicology (2015.3)

佐藤薫:ヒトiPS細胞由来神経細胞は神経特異的有害反応を予測できるか.

第41回日本毒性学会学術年会シンポジウム (2014.7)

^{* 1} Toyohashi University of Technology

^{* 2} University of Occupation and Environmental Health

^{*} 産業医科大学

^{*1} 豊橋技術科学大学

^{*2} 産業医科大学

^{*1} 豊橋技術科学大学

^{*2} 産業医科大学

^{* 1} Toyohashi University of Technology

^{* 2} University of Occupation and Environmental Health

^{*} Gunma University

^{*1} 産業医科大学

^{*2} 豊橋技術科学大学

^{*} Gunma University

^{* 1} University of Occupation and Environmental Health

^{* 2} Toyohashi University of Technology

Sato K, Shigemoto-Mogami Y, Hoshikawa K, Goldman JE*, Sekino Y: The Discovery of a Population of Microglia Which Enhance Neurogenesis and Oligodendrogenesis in the Early Postnatal SVZ. 9th FENS forum of neuroscicence (2014.7)

* Columbia University

Sato K: Sequential expression of various receptors along with the differentiation of human iPSC-derived neurons.

ISN satellite symposium (2014.9)

Otsu M*, Yamazaki H*, Roppongi RI*, Koganezawa N*, Ohara Y*, Sato K, Sekino Y, Shirao T*: Application of human iPSC-derived neurons at early developmental stages for drug discovery.

第36回日本生物学的精神医学会·第57回日本神経化学会 大会合同大会(2014.9)

* 群馬大学

Sato K, Takahashi K, Shigemoto-Mogami Y, Ohtsu K, Kanemura Y^{*1}, Shofuda T^{*1}, Fukusumi H^{*1}, Okada Y^{*2}, Okano H^{*3}, Sekino Y: An attempt to apply human induced pluripotent stem cell-derived neurons to the excitotoxicity evaluation system.

第36回日本生物学的精神医学会·第57回日本神経化学会 大会合同大会(2014.9)

- *1大阪医療センター
- *2 愛知医科大学
- *3 慶應大学

Takahashi K, Shigemoto-Mogami Y, Ohtsu K, Okada Y*1, Okano H*2, Sekino Y, Sato K: Application of human induced pluripotent stem cell-derived neurons to the neurotoxicity evaluation system.

Neuroscience2014 (2014.9)

Shigemoto-Mogami Y, Hoshikawa K, Sekino Y, Sato K: Development of in vitro blood-brain barrier model including microglia.

Neuroscience2014 (2014.9)

Kasahara Y*, Fujimori K*, Miura M*, Mogami Y, Sekino Y, Sato K, Suzuki T*: Comparison of the effects of antidepressants on the microglial activation in LPS-inflammation model.

Neuroscience2014 (2014.9)

* 慶応大学

Roppongi RT*, Ohara Y*, Koganezawa N*, Yamazaki H*, Ootsu M*, Sato K, Sekino Y, Shirao T*: Slow axonal growth in human iPSCs-derived neurons.

Neuroscience2014 (2014.9)

* 群馬大学

Sato K, Shigemoto-Mogami Y, Hoshikawa K, Goldman JE*, Sekino Y: Discovery of the population of activated microglia which enhance neurogenesis and oligodendrogenesis in the early postnatal subventricuar zone.

Neuroscience2014 (2014.9)

* Columbia University

佐藤薫: hiPSC由来神経細胞に期待すること – 医薬品開発における実用のために.

CBI学会2014年大会 (2014.10)

Takahashi K, Shigemoto-Mogami Y, Ohtsu K, Okada Y*1, Okano H*2, Sekino Y, Sato K: Establishment of neuron-specific toxicity evaluation system using human induced pluripotent stem cell-derived neurons. CBI学会2014年大会(2014.10)

*1 愛知医科大学

*2 慶応大学

Sekino Y, Ootsu M*, Ohara Y*, Yamazaki H*, Sato K, Roppongi R*, Koganezawa N*, Shirao T*: Effects of valproic acid and astemizole on the neurite growth of human iPSCs-derived neurons.

SPS 14th annual meeting (2014.10)

Sato K, Takahashi K, Shigemoto-Mogami Y, Ohtsu K, Kanemura Y^{*1}, Shofuda T^{*1}, Fukusumi H^{*1}, Okada Y^{*2},

^{*1} 愛知医科大学

^{*2} 慶応大学

^{*} Gunma University

Okano H*3, Shirao T*4, Sekino Y: Search for the human induced pluripotent stem cell-derived neurons capable of detecting the CNS-specific toxicity.

SPS 14th annual meeting (2014.10)

- * 1 Osaka National Hospital
- * ² Aichi Medical University
- * 3 Keio University
- * 4 Gunma University

Koganezawa K*, Ohara Y*, Yamazaki H*, Roppongi RI*, Sato K, Sekino Y, Shirao T*: Axonal polarity formation in human iPSCs-derived neurons.

SfN2014 (2014.11)

Sato K, Shigemoto-Mogami Y, Hoshikawa K, Sekino Y: Microglia accelerate the maturation of barrier function of blood brain barrier.

SfN2014 (2014.11)

佐藤薫:安全性薬理試験へのヒトiPS細胞由来神経細胞の応用 - 神経特異的影響評価の可能性と課題.

第11回医薬品レギュラトリーサイエンスフォーラム (2014.12)

Sato K, Takahashi K, Shigemoto-Mogami Y, Kanemura Y*1, Shofuda T*1, Fukusumi Y*1, Okada Y*2, Okano H*3, Shirao T*4, Sekino Y: An attempt to establish nonclinical experiments for nervous system using human iPSC-derived neurons.

The 18th Takeda science foundation symposium on bioscience 'iPS Cells for regenerative medicine' (2015.1)

- * 1 Osaka National Hospital
- * ² Aichi Medical University
- * 3 Keio University
- * 4 Gunma University

Sato K, Takahashi K, Shigemoto-Mogami Y, Kanemura Y^{*1}, Shofuda T^{*1}, Fukusumi H^{*1}, Okada Y^{*2}, Okano H^{*3}, Shirao T^{*4}, Sekino Y: An attempt to establish neuron-specific toxicity evaluation systems using human iPSC-derived neurons.

日本安全性薬理研究会第6回学術年会(2015.2)

- *1大阪医療センター
- *2 愛知医科大学
- *3 慶應大学
- * 4 群馬大学

高橋華奈子,最上(重本)由香里,中條かおり,干川和枝,金村米博*¹,正札智子*¹,福角勇人*¹,岡田洋平*²,岡野栄之*³,白尾智明*⁴,関野祐子,佐藤薫:ヒト人工多能性幹細胞由来神経細胞の非臨床試験への応用の試み.

第14回日本再生医療学会総会(2015.3)

- *1大阪医療センター
- *2 愛知医科大学
- *3 慶應大学
- * 4 群馬大学

Sato K: Microglia enhance oligodendrogenesis in the early postnatal subventricular zone.

第120回日本解剖学会総会・全国学術集会・第92回日本 生理学会大会合同大会シンポジウム (2015.3)

Roppongi RT*, Ohara Y*, Yamazaki H*, Koganezawa N*, Ootsu M*, Sato K, Sekino Y, Shirao T*: Comparison of early neuronal developmental stages between human iPSCs-derived neurons and rat primary cultured neurons.

第120回日本解剖学会総会・全国学術集会・第92回日本 生理学会大会合同大会(2015.3)

Sato K: Accumulation of neurogenic microglia in the early postnatal SVZ clarified by a simple stereological imaging method.

第88回日本薬理学会年会(2015.3)

佐藤薫, 高橋華奈子, 最上(重本) 由香里, 金村米博*¹, 正札智子*¹, 福角勇人*¹, 岡田洋平*², 岡野栄之*³, 白尾智明*⁴, 関野祐子: 興奮毒性評価が可能なヒトiPS細胞由来神経細胞を用いた薬理試験系確立の試み.

第88回日本薬理学会年会(2015.3)

^{*} Gunma University

^{*} 群馬大学

^{*1}大阪医療センター

^{*2} 愛知医科大学

^{*3} 慶應大学

* 4 群馬大学

最上(重本)由香里,干川和枝,関野祐子,佐藤薫:ミクログリアの活性状態に依存した血液脳関門のバリア機能への影響.

日本薬学会第135年会 (2015.3)

佐藤薫, 高橋華奈子, 最上(重本)由香里, 金村米博*¹, 正札智子*¹, 福角勇人*¹, 岡田洋平*², 岡野栄之*³, 白尾智明*⁴, 関野祐子: 興奮毒性評価が可能なヒトiPS細胞由来神経細胞の探索.

日本薬学会第135年会(2015.3)

- *1大阪医療センター
- *2 愛知医科大学
- *3 慶應大学
- * 4 群馬大学

諫田泰成:ヒトiPS細胞由来心筋細胞を用いた安全性薬理試験の現状と課題.

PMDA研修(2014.4)

平田尚也, 山田茂, 関野祐子, 諫田泰成: Sphingosine-1-phosphate induced cancer stem cell proliferation via a ligand-independent Notch activation.

第12回幹細胞シンポジウム (2014.5)

Yamada S, Kotake Y*, Sekino Y, Kanda Y: Identification of IDH3 as a novel target of tributyltin cytotoxicity by a metabolomic approach.

10th International conference of the Metabolomics Society (2014.6)

李敏*, 林英里奈*, 諫田泰成, 関野祐子, 古川哲史*, 黒川洵子*:ペーシング可能なヒトiPS細胞由来心筋標本 の開発.

第130回日本薬理学会関東部会(2014.7)

* 東京医科歯科大学

麻薙美紀*,山田茂,板垣宏*,関野祐子,諫田泰成: 有機スズ化合物によるNT2/D1細胞のG2/M期停止メカ ニズムの解析.

第130回日本薬理学会関東部会(2014.7)

* 横浜国立大学

山田茂, 麻薙美紀*1, 古武弥一郎*2, 関野祐子, 諫田泰成: ヒト胎児性癌細胞の細胞周期に対するトリブチルスズの 影響.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

- *1 横浜国立大学
- *2 広島大学

黒川洵子*, 古川哲史*, 関野祐子, 諫田泰成:ヒトiPS 細胞由来心筋細胞を用いた新規心毒性評価系.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

* 東京医科歯科大学

諫田泰成:ヒトiPS細胞由来心筋細胞を用いた安全性評価法の現状と将来の展望.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

石田慶士*, 古武弥一郎*, 青木香織*, 瀧下智子*, 諫田泰成, 太田茂*: トリブチルスズによる核呼吸因子-1 (NRF-1) 阻害を介したGluR2発現減少.

第36回日本生物学的精神医学会·第57回日本神経化学会 大会合同年会(2014.9)

* 広島大学

平田尚也, 諫田泰成:グリオーマ幹細胞の増殖に対する スフィンゴシン1リン酸の影響.

第73回日本癌学会学術総会(2014.9)

麻薙美紀*¹, 山田茂, 古武弥一郎*², 板垣宏*¹, 関野祐子, 諫田泰成: 有機スズ化合物によるIDH3を介したG2/M期停止のメカニズム.

フォーラム2014:衛生薬学・環境トキシコロジー (2014.9)

- *1横浜国立大学
- *2 広島大学

黒川洵子*¹, 李敏*¹, 諫田泰成, 芦原貴司*², 関野祐子, 古川哲史*¹: ヒトiPS由来心筋を用いた新規心毒性評価法の開発.

生理研研究会 (2014.9)

^{*} Hiroshima University

^{*1} 東京医科歯科大学

^{*2}滋賀医科大学

藤塚美紀*¹, 中井雄治*², 諫田泰成, 永森收志*³, 金井好克*³, 古川哲史*¹, 黒川洵子*¹: Effects of substrate elasticity on gene expression profiles of human iPS-derived cardiomyocytes.

CBI学会2014年大会(2014.10)

*1 東京医科歯科大学

- *2 弘前大学
- *3 大阪大学

平田尚也,山田茂,正田卓司,栗原正明,関野祐子,諫田泰成:A novel role of sphingosine-l-phosphate receptor in proliferation of breast cancer stem cells.

CBI学会2014年大会 (2014.10)

諫田泰成,関野祐子: in vitro cardiac safety testing using iPS cells.

第5回DIA cardiac safety workshop(2014.10)

諫田泰成,関野祐子,古川哲史*,黒川洵子*: Role of substrate rigidity on function in human iPS cell-derived cardiomyocytes.

第87回日本生化学会大会(2014.10)

* 東京医科歯科大学

黒川洵子*1, 芦原貴司*2, 諫田泰成: Evaluation of drug-induced QT-prolongation in human iPS-derived cardiomyocytes.

第87回日本生化学会大会(2014.10)

*1 東京医科歯科大学

*2 滋賀医科大学

平田尚也,山田茂,正田卓司,栗原正明,関野裕子,諫田泰成:スフィンゴシン1リン酸とNotchのクロストークによる乳癌幹細胞の増殖機構.

第131回日本薬理学会関東部会(2014.10)

山田茂, 麻薙美紀*, 関野祐子, 諫田泰成:トリブチルスズによる非ゲノム作用を介した増殖抑制メカニズム. 第37回日本分子生物学会年会(2014.11)

* 横浜国立大学

平田尚也, 関野祐子, 諫田泰成:前立腺癌幹細胞の増殖 に対するスフィンゴシン1リン酸の影響. 第37回日本分子生物学会年会(2014.11)

石田慶士*1, 古武弥一郎*1, 青木香織*1, 瀧下智子*1, 木村朋紀*2, 諫田泰成, 太田茂*1: トリブチルスズによる NRF-1 転写活性低下を介した神経細胞脆弱化. 第4回メタロミクス研究フォーラム (2014.11)

*1 広島大学

*2 摂南大学

山田茂, 古武弥一郎*, 関野祐子, 諫田泰成: 細胞内代謝を介したトリブチルスズの新規毒性メカニズム. 第4回メタロミクス研究フォーラム (2014.11)

* 広島大学

諫田泰成:安全性薬理試験へのヒト iPS 細胞由来神経細胞の応用 – 催不整脈性予測は可能か?

第11回医薬品レギュラトリーサイエンスフォーラムヒト iPS 細胞を利用した安全性薬理試験法の実現にむけて (2014.12)

諫田泰成:ヒトiPS細胞を用いた新たな安全性薬理試験の開発.

日本実験動物代替法学会第27回大会(2014.12)

麻薙美紀*,山田茂,板垣宏*,関野祐子,諫田泰成: ヒト細胞のエネルギー代謝機能に基づくin vitro発達神 経毒性評価法の試み.

日本実験動物代替法学会第27回大会(2014.12)

* 横浜国立大学

諫田泰成:ヒトiPS細胞を用いた安全性薬理試験の開発. 東京理科大学トランスレーショナルリサーチセンター第 1回公開セミナー(2015.1)

Kurokawa J*1, Okada J*2, Hayashi E*1, Ashihara T*3, Yoshinaga T*4, Sugiura S*2, Min L*1, Kanda Y, Sekino Y, Sawada K*4, Hisada T*2, Furukawa T*1: A novel approach for evaluation of drug-induced QT prolongation using human induced pluripotent stem cell-derived cardiomyocytes.

59th Biophysical Society Annual Meeting (2015.2)

^{* 1} Tokyo Medical and Dental university

^{* 2} Tokyo University

- * 3 Shiga University of Medical Science
- * 4 Eisai Co., Ltd.

諫田泰成:ヒト未分化細胞の代謝における有機スズの新 たな毒性メカニズム.

日本薬学会第135年会(2015.3)

田中早紀*1, 古武弥一郎*1, 佐能正剛*1, 奥田勝博*12, 諫田泰成,太田茂*1:環境汚染化学物質トリブチルスズ によるゲノムワイドな低メチル化.

日本薬学会第135年会(2015.3)

- *1 広島大学
- *2 旭川医科大学

田中克哉, 依岡桃子, 三澤隆史, 諫田泰成, 関野祐子, 出水庸介, 栗原正明: 非対称ジフェニルメタンを基本骨 格とするエストロゲン受容体アンタゴニストの設計と合 成.

日本薬学会第135年会(2015.3)

黒川洵子*1, 林英里奈*1, 芦原貴司*2, 諫田泰成, 関野 祐子, 古川哲史*1:ヒトiPS細胞由来心筋細胞を用いた QT延長薬剤の頻度依存性の解析.

第92回日本生理学会大会(2015.3)

*1 東京医科歯科大学

*2 滋賀医科大学

ヤリクン ヤシャイラ*、諫田泰成、森島圭祐*:微小 旋回水流を用いた細胞の3次元回転操作方法に関する研 究.

第14回日本再生医療学会総会(2015.3)

* 大阪大学

平田尚也, 関野祐子, 諫田泰成:スフィンゴシン1リン 酸受容体S1PR3を介したグリオーマ幹細胞の増殖. 第14回日本再生医療学会総会(2015.3)

諫田泰成:スフィンゴシン1リン酸による癌幹細胞の新 たな増殖制御機構.

第88回日本薬理学会年会(2015.3)

山田茂, 古武弥一郎*, 中野瑞穂, 関野祐子, 諫田泰成: ヒト未分化細胞において有機スズはIDH3を介してミト コンドリアの機能異常を引き起こす.

第88回日本薬理学会年会(2015.3)

* 広島大学

松尾純子*1, 宮本憲優*2, 小島敦子*2, 諫田泰成, 澤田 光平*2, 有村由貴子*1, 鈴木晶子*1, 吉福智子*1, 関野 祐子:薬物の心筋再分極過程に対する作用:ヒトiPS細 胞由来心筋細胞シートでの評価.

第88回日本薬理学会年会(2015.3)

*1(株)新日本科学

*2 エーザイ(株)

平田尚也, 関野祐子, 諫田泰成:S1P刺激によって前立 腺癌幹細胞の増殖が誘導される.

第88回日本薬理学会年会(2015.3)

麻薙美紀*, 山田茂, 板垣宏*, 関野祐子, 諫田泰成: 有機スズ化合物によるIDH3を介したG2/M期停止.

第88回日本薬理学会年会(2015.3)

* 横浜国立大学

黒川洵子*1, 芦原貴司*2, 諫田泰成, 古川哲史*1: 膜輸 送体を標的としたiPS細胞由来心筋の創薬応用. 第88回日本薬理学会年会(2015.3)

*1 東京医科歯科大学

*2 滋賀医科大学

山崎大樹、竹島浩*:小胞体カウンターイオンチャネル による細胞内カルシウム制御.

第88回日本薬理学会年会(2015.3)

* 京都大学

石田誠一:iPS細胞由来肝細胞を用いた薬剤毒性評価技 術の最前線.

CPhI Japan 2015 (国際医薬品原料・中間体展) (2014.4)

押方歩*, 石田誠一, 竹澤俊明*: 肝代謝試験法および 肝毒性試験法の開発状況.

日本組織培養学会第87回大会(2014.5)

石田誠一: iPS細胞由来肝細胞の創薬応用の現状とその

* (独)農業生物資源研究所

有効活用のための周辺技術. 日本組織培養学会第87回大会(2014.5)

押方歩*,石田誠一,黒田幸恵,須藤理恵*,水野加奈*, 竹澤俊明*:ヒト肝がん細胞の肝機能を賦活化する新しい培養法.

日本組織培養学会第87回大会(2014.5)

* (独)農業生物資源研究所

松下琢*,石井貴晃*,市川雄大*,金秀良,石田誠一,宮島敦子,関野祐子:胎児及び成人肝細胞のメタボロームと化学物質毒性発現の比較解析.

日本組織培養学会第87回大会(2014.5)

* 崇城大学

石田誠一, 久保崇, 北條麻紀, 黒田幸恵, 金秀良, 関野祐子: VECELL培養器を用いた肝星細胞培養の検討. 日本組織培養学会第87回大会 (2014.5)

押方歩*,石田誠一,竹澤俊明*:HepG2細胞(ヒト肝がん細胞株)の肝機能を賦活化する新しい培養法. 第21回肝細胞研究会(2014.6)

* (独)農業生物資源研究所

石田誠一,金秀良,久保崇,黒田幸恵,北條麻紀,宮島 敦子,松下琢*,関野祐子:ヒト胎児および成人肝細胞 のメタボローム解析による基礎代謝能の比較と化学物質 による毒性発現の比較解析.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

* 崇城大学

石田誠一:iPS細胞由来肝細胞を用いた医薬品安全性評価

動物用ワクチン-バイオ医薬品研究会 (2014.9)

Ishida S, Kubo T, Kuroda Y, Kim S, Sekino Y: Evaluation of Human iPS cell-derived Hepatocytes for the Application to ADME/Tox Tests in Drug Development.

CBI学会2014年大会 (2014.10)

石田誠一:ヒト iPS 細胞由来肝細胞の技術的課題. CBI学会2014年大会 (2014.10) Ishida S, Kim S, Kubo T, Kuroda Y, Ishii T*, Hojyo M, Miyajima A, Matsushita T*, Sekino Y: Comparative analysis of human fetal and adult hepatocytes by metabolomics and genomics.

第29回日本薬物動態学会・第19回国際薬物動態学会合同 年会(2014.10)

* 崇城大学

石田誠一, 久保崇, 北條麻紀, 黒田幸恵, 金秀良, 関野祐子: 新規培養基材で培養した星細胞培養細胞LI90の機能変化の解析.

第28回肝類洞壁細胞研究会学術集会(2014.12)

石田誠一:肝臓の代謝酵素誘導評価法の確立. 第11回医薬品レギュラトリーサイエンスフォーラム (2014.12)

石田誠一,シュナイダー ヘレナ*,久保崇,堀環,堀内新一郎,黒田幸恵,金秀良,コロル アンヌ*,モレル ファブリス*,関野祐子:ヒト肝前駆細胞HepaRGの分化過程のゲノミクス/エピジェネティクス解析.

日本動物実験代替法学会第27回大会(2014.12)

* INSERM

Ishida S, Kim S, Kubo T, Kuroda Y, Ishii T*, Miyajima-Tabata A, Matsushita T*, Sekino Y: Differences of metabolic functions and sensitivity to chemical compounds between human fetal and adult hepatocytes.

Society of Toxicology 54th Annual Meeting 2015 (2015.3)

* 崇城大学

字佐見誠, 髙松美奈*1, 風間崇吾*1, 満長克祥*2, 入江智彦, 宮島敦子, 土井守*3, 滝沢達也*1:培養ラット胚におけるバルプロ酸による発生毒性のプロテオミクス解析.

第54回日本先天異常学会学術集会(2014.7)

入江智彦, 花尻(木倉) 瑠理, 宇佐見誠, 内山奈穂子,

^{*1} 麻布大学

^{*2} 東邦大学

^{*3} 岐阜大学

合田幸広, 関野祐子:新規違法ドラッグMAM-2201は神経伝達を強力に抑制し, 複雑スパイク誘発性の細胞内 Ca²⁺上昇を減弱させる.

第37回日本神経科学大会(2014.9)

小島肇:シンポジウムⅢ「化粧品および製薬開発における動物実験の世界的動向」EUにおける化粧品開発の現状と今後の動勢.

日本実験動物科学技術さっぽろ2014 (第61回日本実験動物学会総会,第48回日本実験動物技術者協会総会) (2014.5)

小島肇:海外レギュレーションの最近の動向. 平成26年度日本環境変異原学会公開シンポジウム「レギュラトリーサイエンス」(2014.5)

小島肇:シンポジウム2「創薬を支援する先端培養技術: PKPD予測に有用なヒト細胞の培養モデル」新しい評価 体系構築に関する欧州の動向と日本の寄与.

日本組織培養学会第87回大会(2014.5)

Kojima H, Kleinstreuer N^{*1}, Lim C.H.^{*2}, Sozu T^{*3}, Watanabe M^{*4}, Niitsuma T^{*4}, Yamashita K^{*5}, Fukuda T^{*6}, Yamaguchi N^{*6}, Fujiwara S^{*6}, Yamaguchi H^{*7,8}, Takezawa T^{*8}: Pre-validation study of Vitrigel-EIT (Eye Irritancy Test) method.

日本組織培養学会第87回大会(2014.5)

- * 1 ILS/NICEATM/ICCVAM
- * 2 KoCVAM/MFDS
- * 3 Kyoto University
- * 4 Food and Drug Safety Center
- * ⁵ Daicel Corp.
- * ⁶ BoZo Research Center Inc.
- * 7 Kanto Chemical Co..Inc.
- * 8 National Institute of Agrobiological Sciences

小島肇: Vitrigel-modelを活用したADME/Tox試験法の 実用化構想.

日本組織培養学会第87回大会NIASシンポジウム「再生 医療, 創薬および動物実験代替法の分野における実用化 を指向したコラーゲンビトリゲルビトリゲルの開発状況 (2014.5)

小島肇:OECDテストガイドラインナショナルコーディネーター会合報告.

日本環境変異原学会/哺乳動物試験研究会第64回定例会

(2014.6)

小島肇:シンポジウム"in vitro毒性試験としてのiPS細胞利用の有用性と留意点"序論.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

岩瀬裕美子*¹, 細井一弘*², 尾上誠良*³, 若栗忍*⁴, 山本敏誠*¹, 川上哲*⁵, 松本康浩*⁶, 戸田嗣人*⁷, 大崎尚人*⁸, 高木広憲*⁸, 中村和市*⁷, 小島肇: Reactive Oxygen Species (ROS) アッセイ他施設バリデーション:総括と推奨プロトコール.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

- *1田辺三菱製薬(株)
- *2参天製薬(株)
- *3静岡県立大学
- *4 (一財)食品薬品安全センター
- *5 旭化成ファーマ(株)
- *6 あすか製薬(株)
- *7 塩野義製薬(株)
- *8大正製薬(株)

伊藤浩太*¹, 榊原隆史*¹, 六川潤美*¹, 古川正敏*¹, 佐々木啓*¹, 平賀武夫*², 小島肇, 松浦正男*¹: 牛角膜を用いた混濁度および透過性試験法(BCOP法) による化粧品・医薬部外品の眼刺激性の検討.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

- *1(株)化合物安全性研究所
- *2 酪農学園大学

山口宏之*¹²、小島肇、竹澤俊明*¹: Vitrigel-EIT法:経 上皮電気抵抗値を指標とした高感度な*in vitro*眼刺激性 試験法.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

- *1(独)農業生物資源研究所
- *2関東化学(株)

山口宏之*12, 小島肇, 竹澤俊明*1:新しい眼刺激性試験法:Vitrigel-Eye Irritancy Test (EIT) method. 日本動物実験代替法学会 ワークショップ「日本発の動物実験代替法の現状」(2014.8)

^{*1(}独)農業生物資源研究所

^{*2}関東化学(株)

Kojima H: Activities of JSAAE.

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (2014.8)

Kojima H, Nishikawa A: The Japanese Center for the Validation of Alternative Methods (JaCVAM) Update. The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (2014.8)

Kojima H, Oshimura M*1, Imatanaka N*2: Japanese project "ARCH-Tox" for the future chemicals management policy: research and development of in vitro and in vivo assays for internationally leading hazard assessment and test methods.

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (2014.8)

Kojima H, Spielmann H*1, Onoue S*2: The ROS in vitro phototoxicity assay for ICH.

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (2014.8)

Kojima H: Reguratory science panel discussion Humanon-a-chip - Advancing regulatory science through inovation and world wide networking for alternative testing.

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (2014.8)

Maruya A^{*1} , Aiba S^{*2} , Kimura Y^{*2} , Watanabe M^{*3} , Suzuki N^{*4} , Saito K^{*4} , Nakajima Y^{*5} , Ohmiya Y^{*5} , Kojima H, Tanaka N^{*3} : Comparison of 3 criteria incorporating variation of index for toxicity of the interleukin 8 luciferase Luc assay (IL-8 Luc assay) .

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (2014.8)

* 5 National Institute of Advanced Industrial Science and Technology

303

Ikeda H^{*1}, Katoh M^{*2}, Omori T^{*3}, Yamashita A^{*3}, Endo M^{*3}, Shinoda S^{*4}, Hagiwara S^{*4}, Kasahara T^{*5}, Tahara H^{*5}, Nakahara S^{*6}, Akiyama S^{*6}, Yoshitake Y^{*7}, Kojima H: Additional joint research on eye irritation alternative method with human corneal model; LabCyte CORNEA-MODEL24.

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (2014.8)

Yamaguchi H*12, Kojima H, Takezawa T*1: Advantage of "Vitrigel-EIT (eye irritancy test) method": A brief eye irritation test utilizing changes of barrier function after exposing chemicals to a human corneal epithelium model as an indicator.

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (2014.8)

Kimura Y^{*1}, Watanabe M^{*2}, Suzuki N^{*3}, Saito K^{*3}, Nakajima Y^{*4}, Ohmiya Y^{*4}, Omori T^{*5}, Kojima H, Tanaka N^{*6}, Aiba S^{*1}: An inter-laboratory validation study of IL-8 Luc assay using a stable THP-1-derived IL-8 reporter cell line, THP-G8.

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (2014.8)

^{* 1} Tottori University

^{* 2} Chemical Evaluation and Research Institute

^{* 1} Free University of Berlin

^{* 2} University of Shizuoka

^{* 1} Doshisha University

^{* &}lt;sup>2</sup> Tohoku University

^{* 3} Food and Drug Safety Center

^{* 4} Sumitomo Chemical Co., Ltd.

^{* 1} Nihon Kolmar Co., Ltd.

^{* &}lt;sup>2</sup> Japan Tissue Engineering Co., Ltd.

^{* &}lt;sup>3</sup> Doshisha University

^{* 4} Drug Safety Testing Center Co., Ltd.

^{* &}lt;sup>5</sup> Fujifilm Corp.

^{* 6} Mandom Corp.

^{* &}lt;sup>7</sup> Oppen Cosmetics Co., Ltd.

^{* 1} National Institute of Agrobiological Sciences

^{* &}lt;sup>2</sup> Kanto Chemical Co., Inc.

^{* 1} Tohoku University

^{* 2} Food and Drug Safety Center

^{* 3} Sumitomo Chemical Co., Ltd.

^{* 4} National Institute of Advanced Industrial Science and Technology

^{* 5} Doshisha University

^{* &}lt;sup>6</sup> Organization for Tottori Industrial Promotion

Narita K*, Kojima H, Itagaki H*: Investigation of the use of THP-1 cells and IL-8 release to assess water-insoluble chemicals with the short time exposure test method.

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (2014.8)

Watanabe M^{*1}, Sozu T^{*2}, Niitsuma T^{*1}, Yamashita K^{*3}, Fukuda T^{*4}, Yamaguchi N^{*4}, Fujiwara S^{*4}, Yamaguchi H^{*56}, Takezawa T^{*5}, Kojima H: Pre-validation study of Vitrigel-EIT (Eye Irritancy Test) method.

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (2014.8)

Coecke S^{*1}, Bernasconi C^{*1}, Cole T^{*1}, Liska R^{*1}, Andersson T.B^{*2}, Beken S^{*2}, Casey W^{*2}, Cunningham M^{*2}, De Smet K^{*2}, Ingelman-Sundberg M^{*2}, Kern A^{*2}, Paris M^{*2}, Pelkonen O^{*2}, Roggen E^{*2}, Strickland J^{*2}, Sunouchi M, Vanhaecke T^{*2}, Mueller-Viera U^{*3}, Van Houdt J^{*3}, Morath S^{*3}, Mendoza E^{*3}, Wilk-Zasadna I^{*3}, Richert L^{*3}, Desbans C^{*3}, Ungell A.-L^{*3}: Gaining insight into xenobiotic biotransformation: the CYP induction in vitro method.

The 9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (2014.8)

Kojima H: The International collaboration on developing alternative to animal testing in Japan. 2014 International Symposium on Cosmetic regulations, Taiwan (2014.10)

Kojima H: Cases of OECD Guideline development by JaCVAM.

11th Annual meeting of KSAAE (2014.11)

Kojima H: Safety evaluation using alternative methods for qusai drug & cosmetic products in Japan.

Progress on replacement of animals for cosmetic resting and other issues, CAAT Symposium (2014.11) 小島肇:シンポジウム1「医薬部外品申請において動物 実験代替法を活用するために-ガイダンス検討会活動の紹介-」ガイダンス検討会発足の趣旨.

日本動物実験代替法学会第27回大会(2014.12)

山影康次*1, 鈴木紀之*2, 斎藤幸一*2, 渡部美香*1, 池田直弘*3, 柳和則*4, 大森崇*5, 小島肇, 田中憲穂*1:シンポジウム2「化学物質の「安全の保証」に向けて-安心・安全に向けた化学業界の取り組み-」産業利用促進を目指した新規*in vitro*発生毒性試験の応用研究.

日本動物実験代替法学会第27回大会(2014.12)

加藤義直*1, 山本直樹*2, 五十嵐敏夫*1, 佐藤淳*1, 中田悟*1, 小島肇: 不死化ヒト角膜細胞株 (iHCE-NY) を用いた三次元角膜再構築モデルにおける眼刺激性評価方法の検討~画像解析による判定法の開発~.

日本動物実験代替法学会第27回大会(2014.12)

山口宏之*¹², 小島肇, 竹澤俊明*¹: Vitrigel-EIT法(経上皮電気抵抗値を指標とした高感度な*in vitro*眼刺激性試験法)による予測性の特徴.

日本動物実験代替法学会第27回大会(2014.12)

遠藤麻衣*1, 加藤雅一*2, 大森崇*1, 山下愛未*1, 小島肇, 笠原利彦*3, 田原春菜*3, 篠田伸介*4, 萩原沙織*4, 池田英史*5, 吉武裕一郎*6: LabCyte CORNEA-MODEL 眼刺激性試験法における生細胞率測定方法の比較.

日本動物実験代替法学会第27回大会(2014.12)

^{*} Yokohama National University

^{* 1} Food and Drug Safety Center

^{* 2} Kyoto University

^{* &}lt;sup>3</sup> Daicel Corp.

^{* 4} BoZo Research Center Inc.

^{* 5} National Institute of Agrobiological Sciences

^{* 6} Kanto Chemical Co., Inc.

^{* &}lt;sup>1</sup> EURI ECVAM/systems Toxicology Unit, European Commission Joint Research Centre

^{* &}lt;sup>2</sup> Validation Management Group

^{* &}lt;sup>3</sup> Participating Test Facility

^{*1(}一財)食品薬品安全センター

^{*2} 住友化学(株)

^{*3} 花王(株)

^{*4(}株)住友化学分析センター

^{*5} 同志社大学

^{*1}日本メナード化粧品(株)

^{*2}藤田保健衛生大学

^{*1(}独)農業生物資源研究所

^{*2} 関東化学(株)

- *1 同志社大学
- *2 (株)ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
- *3 富士フイルム(株)
- *4(株)薬物安全性試験センター
- *5日本コルマー(株)
- *6 オッペン化粧品(株)

渡辺美香 *1 , Kleinstreuer NC *2 , Schaeffer M *3 , Kim TS *4 , Chen W *5 , 寒水孝司 *6 , 新妻健 *1 , 山下邦彦 *7 , 宮﨑洋 *7 , 福田隆之 *8 , 山口典子 *8 , 藤原聖 *8 , 山口宏之 *9,10 , 竹澤俊明 *10 , 小島肇: Vitrigel-EIT (Eye Irritancy Test) 法のバリデーション研究 (2).

日本動物実験代替法学会第27回大会(2014.12)

- *1 (一財)食品薬品安全センター
- * ² National Institute of Environmental Health Sciences, NICEATM
- * ³ Institute of Health and Consumer Protection, EURL-ECVAM
- *4 National Institute of Food & Drug Safety Evaluation, KoCVAM
- * 5 Industrial Technology Research Institute
- *6 京都大学
- *7 (株)ダイセル
- *8(株)ボゾリサーチセンター
- *9関東化学(株)
- *10 (独)農業生物資源研究所

丸谷あおい*1, 相場節也*2, 木村裕*2, 渡辺美香*3, 鈴木紀之*4, 山影康次*3, 斎藤幸一*4, 中島芳治*5, 近江谷克裕*5, 山崎晶次郎*3, 小島肇, 田中憲穂*3, 坂口斉*6, 板垣宏*7, 小林眞弓*1, 森梓*1, 大森崇*1: IL-8 Luc assayにおけるばらつきを考慮した3つの判定基準の検討

日本動物実験代替法学会第27回大会(2014.12)

- *1 同志社大学
- *2 東北大学
- *3 (一財)食品薬品安全センター
- *4 住友化学(株)
- *5(独)産業技術総合研究所
- *6花王(株)
- *7横浜国立大学

木村裕*¹, 渡辺美香*², 鈴木紀之*³, 岩城知子*⁴, 山影 康次*², 斎藤幸一*³, 中島芳浩*⁴, 藤村千鶴*¹, 近江谷 克裕*⁴, 酒井綾子*², 丸谷あおい*⁵, 大森崇*⁵, 山崎晶 次郎 *6 , 小島肇, 田中憲穂 *6 , 相場節也 *1 : IL-8 Luc assayの施設間差試験およびデータセットの作製.

日本動物実験代替法学会第27回大会(2014.12)

- *1 東北大学
- *2 (一財)食品薬品安全センター
- *3 住友化学(株)
- *4(独)産業技術総合研究所
- *5 同志社大学
- *6(公財)鳥取県産業振興機構

成田和人*,小島肇,板垣宏*: in vitro皮膚感作性試験における難水溶性物質短時間暴露の検討.

日本動物実験代替法学会第27回大会(2014.12)

* 横浜国立大学

小島肇, 西川秋佳: JaCVAMの昨今活動とその将来. 日本動物実験代替法学会第27回大会 (2014.12)

鈴木勇, 曺永晩, 平田直, 豊田武士, 赤木純一, 西川秋 佳, 中村考志*, 小川久美子: NMBA誘発ラット食道が んに対するMTBITCの化学予防作用の検討.

がん予防学術大会2014東京 (2014.6)

* 京都府立大学

Akagi J, Hashimoto K*1, Yokoi M*2, Ohmori H*2, Iwai S*3, Moriya M*1, Ogawa K, Hanaoka F*2: Effect of sequence context on error-prone extension past 6-4 photoproducts.

Gordon Research Conference on Mutagenesis (2014.6)

- * 1 State University of New York at Stony Brook
- * ² Gakushuin University
- * 3 Osaka University

Matsushita K, Takasu S, Ishii Y, Kuroda K, Kijima A, Kitaura K*, Sato M*, Matsumoto S*, Ogawa K, Umemura T: Possible mechanisms underlying exacerbation of osmotic nephrosis caused by preexisting kidney injury.

33rd Annual Symposium of the Society of Toxicologic Pathology (2014.6)

^{*} Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd.

Moore R*1, Kolenda-Roberts H*2, Harris N*1, Cho YM, Ogawa K, Hardisty J*1, Miller R*1: Immunohistochemical characterization of ENU-induced brain tumors in F344 rats.

33rd Annual Symposium of the Society of Toxicologic Pathology (2014.6)

* 1 Experimental Pathology Laboratories, Inc.

小川久美子:医薬品・化学物質開発において毒性病理学が果たす役割 - 毒性病理学的評価の果たす役割とその事例について.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

梅村隆志:食品中の化学物質による肝肥大の発現機序と 毒性学的意義:現状・課題・展望-はじめに. 第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

井上薫:食品中の化学物質による肝肥大の発現機序と毒性学的意義:現状・課題・展望-肝肥大の毒性学的意義: CAR欠損マウスを用いた研究から考察する.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

吉田緑、梅村隆志、頭金正博*1、小澤正吾*2:食品中の化学物質による肝肥大の発現機序と毒性学的意義:現状・課題・展望 – 化学物質のHazard characterizationにおいて肝肥大を毒性ととるべきスタート地点.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

吉田緑:リプロダクティブヘルスからみた遅発影響-生殖発生毒性試験から捉えられない指標-はじめに. 第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

高橋美和:リプロダクティブヘルスからみた遅発影響 -生殖発生毒性試験から捉えられない指標 - 遅発性影響の メカニズムに迫る - 神経内分泌側面から - .

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

小川久美子:医薬品のがん原性評価に対する新たなアプローチー前がん病変と発がん.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

高須伸二:安全性研究における国立医薬品食品衛生研究

所の役割.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

市村亮平, 高橋美和, 森川朋美, プラモド ダカール, 井上薫, 前田潤, 吉田緑, 渡辺元*: Ethynyl estradiol 臨界期曝露による遅発影響に先行する視床下部キスペプ チンニューロンの異常.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

* 東京農工大学

高須伸二,石井雄二,木島綾希,横尾諭,能美健彦,西川秋佳,小川久美子,梅村隆志:ヘテロサイクリックアミンが誘発する*gpt* deltaラット肝臓の*in vivo*変異原性に対する高脂肪食摂取の影響.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

長谷川也須子*, 久保田久代*, 吉田緑, 宮川宗之*: 気管内投与における分散媒の肺への影響.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

* (独)労働安全衛生総合研究所

豊田武士, 曺永晩, 赤木純一, 水田保子, 鈴木勇, 平田直, 小川久美子: ラット膀胱上皮細胞におけるγH2AX 発現の検討.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

Ogawa K: Estimation of daily aluminum intake in Japan and the result of rat 13-week toxicity study of aluminum potassium sulfate, major aluminum-related food additives in Japan.

The 81st Annual Meeting of Korean Society of Food Science and Technology (2014.8)

梅村隆志,黒田顕,日比大介,石井雄二,高須伸二,木島綾希,松下幸平,西川秋佳,小川久美子:腎発がん物質オクラトキシンAによるDNA二重鎖切断を起点とした遺伝子突然変異誘発機序.

第29回発癌病理研究会(2014.9)

Takasu S, Ishii Y, Kijima A, Yokoo Y, Nohmi T, Nishikawa A, Ogawa K, Umemura T: Effects of a high fat diet on *in vivo* mutagenicity induced by heterocyclic amine in the livers of *gpt* delta rats.

50th Congress of the European Societies of Toxicology (2014.9)

^{* 2} SNBL USA. Ltd.

^{*1} 名古屋市立大学

^{*2} 岩手医科大学

野村幸世*¹,豊田武士,大本安一*²,石橋祐子*¹,大津 洋*¹,垣見和宏*¹,瀬戸泰之*¹:胃癌モデル動物におけ る高血漿TFF3の起源の同定とその担癌免疫状態との関 連

第73回日本癌学会学術総会(2014.9)

*1 東京大学

豊田武士, 曺永晩, 赤木純一, 小川久美子: ラット膀胱 に対する遺伝毒性発がん物質検出指標としてのγH2AX 発現.

第73回日本癌学会学術総会(2014.9)

赤木純一,豊田武士,曺永晩,水田保子,能美健彦,西川秋佳,小川久美子:一般毒性および in vivo遺伝毒性を同時に検出するgpt deltaラットを用いた反復投与毒性・遺伝毒性併合試験法の研究.

第73回日本癌学会学術総会(2014.9)

小川久美子: in vivoだから見えること. 第21回岐山毒性病理セミナー (2014.10)

塚本徹哉*1,豊田武士,桐山諭和*1,立松正衞*2: Helicobacter pylori感染と高食塩食による遺伝子発現変動:MNU誘発マウス腺胃発癌モデルによる解析.

第25回日本消化器癌発生学会総会(2014.11)

赤木純一,豊田武士,曹永晩,横井雅幸*,大森治夫*, 花岡文雄*,小川久美子:損傷乗り越え型DNAポリメラー ゼ η ・ ι ・ κ 三重欠損細胞の変異原に対する高感受性を用 いた新規遺伝毒性検出法の検討.

第37回日本分子生物学会年会(2014.11)

* 学習院大学

小川久美子: 既存添加物の安全性評価. 第12回食品安全フォーラム (2014.11)

石井雄二:病理学的視点からの遺伝毒性・発がん性機序 解明へのアプローチ.

日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

高須伸二, 石井雄二, 木島綾希, 横尾諭, 能美健彦, 西

川秋佳、小川久美子、梅村隆志:gpt deltaラット大腸におけるヘテロサイクリックアミン誘発in vivo変異原性に対する高脂肪食の影響.

日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

木島綾希,石井雄二,高須伸二,横尾諭,土屋卓磨,児 玉幸夫,梅村隆志:ニトロフラントインの*in vivo*変異原 性におけるNrf2の役割.

日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

石井雄二,高須伸二,木島綾希,横尾諭,土屋卓磨,児 玉幸夫,小川久美子,梅村隆志:肝発がん物質エストラ ゴールの突然変異誘発過程における細胞増殖活性と PP2A不活性化の関与.

日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

赤木純一,豊田武士, 曺永晩, 水田保子, 能美健彦, 西川秋佳, 小川久美子: *gpt* deltaラットを用いた短期反復投与毒性・遺伝毒性併合試験.

第31回日本毒性病理学会総会及び学術集会(2015.1)

桑田和倫, 井上薫, 高橋美和, 市村亮平, 森川朋美, 児 玉幸夫, 吉田緑: Protox阻害剤による肝肥大とCARの 関与.

第31回日本毒性病理学会総会及び学術集会(2015.1)

横尾論,石井雄二,高須伸二,木島綾希,土屋卓磨,吉田緑,梅村隆志:ピペロニルブトキシドによる肝薬物代謝酵素誘導のマウス系統間差について.

第31回日本毒性病理学会総会及び学術集会 (2015.1)

平田直, 曹永晩, 豊田武士, 赤木純一, 鈴木勇, 西川秋佳, 小川久美子: gpt deltaラットにおける1,2-dichloropropane 及びdichloromethaneの強制経口投与によるin vivo変異原性試験.

第31回日本毒性病理学会総会及び学術集会(2015.1)

石井雄二,高須伸二,横尾論,土屋卓磨,木島綾希,能 美健彦,小川久美子,梅村隆志:フェニルプロペノイド 系化合物の遺伝子突然変異誘発と細胞増殖シグナル. 第31回日本毒性病理学会総会及び学術集会(2015.1)

高須伸二,石井雄二,木島綾希,横尾諭,土屋卓磨,西川秋佳,梅村隆志: Diethylnitrosamine及びfuranの肝発がん早期過程におけるsulforaphaneの影響.

第31回日本毒性病理学会総会及び学術集会(2015.1)

^{*2(}株)大塚製薬

^{*1} 藤田保健衛生大学

^{*2}日本バイオアッセイ研究センター

田崎雅子, 黒岩有一, 井上知紀, 日比大介, 松下幸平, 木島綾希, 西川秋佳, 梅村隆志:ペンタクロロフェノー ル誘発マウス肝内胆管腫瘍進展へのNrf2の関与.

第31回日本毒性病理学会総会及び学術集会 (2015.1)

木島綾希,石井雄二,高須伸二,横尾論,土屋卓磨,梅村隆志: Nrf2欠損gpt deltaマウスを用いたニトロフラントインのin vivo変異原性機序の解析.

第31回日本毒性病理学会総会及び学術集会(2015.1)

土屋卓磨,石井雄二,高須伸二,横尾諭,木島綾希,小川久美子,梅村隆志:酸化ストレス産生系を有する腎発がん剤が誘発する酸化的DNA損傷及び遺伝子突然変異へのNrf2の役割.

第31回日本毒性病理学会総会及び学術集会 (2015.1)

鈴木勇, 曺永晩, 豊田武士, 赤木純一, 西川秋佳, 中村 考志*, 小川久美子: MTBITCのF344ラット膀胱への高 用量投与の影響.

第31回日本毒性病理学会総会及び学術集会(2015.1)

豊田武士, 曺永晩, 赤木純一, 水田保子, 小川久美子: ラット膀胱に対する遺伝毒性および発がん性評価指標としてのyH2AX.

第31回日本毒性病理学会総会及び学術集会(2015.1)

市村亮平, 高橋美和, 森川朋美, 井上薫, 臼田賢人*, 渡辺元*, 吉田緑: Ethynylestradiolの新生児期曝露によ る遅発影響の感受期の検索.

第31回日本毒性病理学会総会及び学術集会 (2015.1)

* 東京農工大学

高橋美和,立野知世*,石田雄二*,井上薫,吉田緑:ヒト肝細胞キメラマウス(PXBマウス)における卵胞発育不全.

第31回日本毒性病理学会総会及び学術集会 (2015.1)

井上薫: げっ歯類の肝臓腫瘍のヒトへの外挿性 -CARKOマウスを用いた実験結果からの考察 - . 第31回日本毒性病理学会総会及び学術集会 (2015.1)

Ichimura R, Takahashi M, Morikawa T, Inoue K,

Maeda J, Usuda K*1, Yokosuka M*2, Watanabe G*1, Yoshida M: Prior attenuation of KiSS1 mRNA expression in LH-surge center is a trigger for the delayed effect induced by neonatal exposure to estrogens in rats.

54th Annual Meeting of the Society of Toxicology (2015.3)

Yoshida M, Inoue K, Takahashi M: Predictive MOAs of uterine adenocarcinoma development induced by pesticides in rats.

54th Annual Meeting of the Society of Toxicology (2015.3)

Inoue K, Takahashi M, Yoshida M: Effect of decreased expression of CYP2E in constitutive androstane receptor (CAR) -knockout mice on hepatocarcinogenesis of diethylnitrosamine.

54th Annual Meeting of the Society of Toxicology (2015.3)

石井雄二,高須伸二,横尾諭,土屋卓磨,木島綾希,能 美健彦,小川久美子,梅村隆志:香気成分フェニルプロ ペノイド系化合物の化学構造依存的な遺伝毒性及び細胞 増殖活性.

日本薬学会第135年会(2015.3)

本間正充:医薬品中に存在する遺伝毒性不純物の評価と 管理 (ICH-M7ガイドラインの概要).

第350回CBI学会研究講演会(2014.5)

本間正充:環境変異原学会レギュラトリーサイエンス WGと最近の動き.

平成26年度日本環境変異原学会公開シンポジウム (2014.5)

杉山圭一:Ames試験が遺伝子組換え実験非該当となる 科学的根拠.

日本環境変異原学会微生物変異原性試験研究会第51回定 例会(2014.6)

堀端克良:共同研究報告 I: *Pig-a* assay 進捗状況報告. 日本環境変異原学会MMS研究会第64回定例会(2014.6)

^{*} 京都府立大学

^{* (}株)フェニックスバイオ

^{* 1} Tokyo University of Agriculture and Technology

^{* &}lt;sup>2</sup> Nippon Veterinary and Life Science University

増村健一:トランスジェニック動物を用いた遺伝子突然 変異試験の動向.

日本環境変異原学会MMS研究会第64回定例会(2014.6)

Petko P*, Honma M, Schultz T*, Patlewicz G*, Dimitrov S*, Mekenyan O*: Extrapolation Workflow for Predicting Mutagenicity of Chemicals.

16th International Workshop on Quantitative Structure-Activity Relationship in Environmental and Health Sciences (QSAR 2014) (2014.6)

Petko P*, Honma M, Schultz T*, Patlewicz G*, Dimitrov S*, Mekenyan O*: Implementation of detoxification pathways in TIMES *in vivo* genotoxicity model.

16th International Workshop on Quantitative Structure-Activity Relationship in Environmental and Health Sciences (QSAR 2014) (2014.6)

Petko P*, Honma M, Schultz T*, Patlewicz G*, Dimitrov S*, Mekenyan O*: *In vivo* mutagenicity model in TIMES.

16th International Workshop on Quantitative Structure-Activity Relationship in Environmental and Health Sciences (QSAR 2014) (2014.6)

Petko P*, Kotov S*, Todorov M*, Mekenyan O*, Honma M, Patlewicz G*, Schultz T*: Modeling mutagenicity and carcinogenicity according for metabolic activation and detoxification of chemicals. Genotoxic Impurities (2014.6)

Honma M, Yasui M, Kanemaru Y, Kamoshita N, Suzuki T, Arakawa T*: Demonstration of non-threshold of 8-oxoG inducing gene mutation by targeted mutagenesis. 43rd European Environmental Mutagen Society annual meeting (2014.7)

Yamada M, Matsui K, Nohmi T: A new Ames tester strain for specific detection of the genotoxicity of polycyclic aromatic hydrocarbons.

43rd European Environmental Mutagen Society annual meeting (2014.7)

増村健一,大杉直弘*,豊田尚美,能美健彦,本間正充: gpt deltaマウスを用いた加齢に伴い蓄積する遺伝子突然 変異の解析.

日本進化学会第16回大会(2014.8)

本間正充: Use of QSAR tools for hazard identification of genotoxic impurities in pharmaceuticals.

9th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences (2014.8)

増村健一,豊田尚美,石井雄二,梅村隆志,能美健彦,西川秋佳,本間正充:gpt deltaラットの加齢により誘発される点突然変異および欠失変異の解析.

第37回日本癌学会学術総会(2014.9)

堀端克良,本間正充:ヒトPIG-Aアッセイの開発と化学療法患者末梢血を用いた遺伝毒性評価への応用. 第37回日本癌学会学術総会(2014.9)

Masumura K, Toyoda-Hokaiwado N, Osugi N, Honma M, Ishii Y, Umemura T, Nishikawa A, Nohmi T: Accumulation of spontaneous point mutations and deletions with aging in *gpt* delta transgenic rodents. 45th annual meeting of Environmental Mutagenesis and Genomics Society (2014.9)

佐々彰, 鴨下渚, 兼丸祐紀, 本間正充, 安井学:ゲノムの特定部位に配置させたクラスター DNA損傷の数的遺伝毒性影響.

日本放射線影響学会第57回大会(2014.10)

杉山圭一,高宗万希子,古沢博子,本間正充:酵母をプラットフォームとしたDNAメチル化酵素阻害剤スクリーニング系の構築に関する研究.

第87回日本生化学会大会(2014.10)

堀端克良, 鵜飼明子, 石川恵生*1, 菅野絢子*2, 木本崇文*3, 本間正充:マウス, ラットおよびヒト由来のごく 微量末梢血を用いて解析可能なPig-a/ PIG-A in vivo突

^{*} Bourgas Univ., Univ. of Tennessee, DuPont

^{*} Health Science University of Hokkaido

^{*} 日本エスエルシー (株)

然変異試験法.

第37回日本分子生物学会年会(2014.11)

*1 公立置賜総合病院

- *2 山形大学
- *3 帝人ファーマ(株)

本間正充: Trend and progress of OECD genotoxicity test guidelines.

2014 National Workshop on Non-clinical Safety Evaluation and Quality Management (2014.11)

堀端克良:共同研究進捗報告『Pig-aアッセイ』. MMS研究会第65回定例会(2014.12)

増村健一,豊田尚美,権藤洋一*,能美健彦,本間正充:マウス全エクソンシークエンス解析による経世代突然変 塁の測定

日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

* 理化学研究所バイオリソースセンター

本間正充:遺伝毒性インテリジェントテストシステム. 日本環境変異原学会第43回大会 (2014.12)

佐々彰, 鴨下渚,兼丸祐紀,本間正充,安井学:ゲノムに導入させた酸化的クラスター DNA損傷の数的遺伝毒性影響.

日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

グルーズ ピーター,清水雅富*,杉山圭一,本間正充:ω-3系多価不飽和脂肪酸の過酸化反応から生成されるアルデヒド類の変異原性に関する研究.

日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

* 東京医療保健大学

萩尾宗一郎 *12 , 小川いづみ *1 , 阿部正義 *1 , 林清吾 *1 , 辻菜穂 *1 , 黒田雄介 *1 , 古川賢 *1 , 八木孝司 *2 , 本間正充, 増村健一:gpt deltaマウスを用いたアクリルアミドの生殖細胞に対する遺伝毒性評価.

日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

山田雅巳, 堀端克良, 鵜飼明子, 木本崇文*1, 千藏さつ

き*1, 伊東悟*2, 武藤重治*3, 字野芳文*3, 真田尚和*4, 高島理恵*5, 志賀野美幸*5, 高沢博修*5, 濵田修一*5, 山本美佳*6, 堀妃佐子*7, 堤絵梨*7, 和田邦生*8, 前田晃央*9, 小坂瑞樹*10, 木村葵*10, 菊月隆太*11, 荻原庸介*11, 京谷恭弘*12, 足立秀樹*13, 上松泰明*13, 吉田唯真*14, 成見香瑞範*15, 福田隆之*16, 鈴木裕太*16, 後藤玄*16, 森田健, 本間正充: Pig-a/PIGRETアッセイに関する短期試験への有用性: MMS共同研究報告.

日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

- *1 帝人ファーマ(株)
- *2 第一三共(株)
- *3田辺三菱製薬(株)
- * 4 科研製薬(株)
- * 5 LSIメディエンス(株)
- *6 アステラス製薬(株)
- *⁷ サントリービジネスエキスパート(株)
- * 8 (一財)残留農薬研究所
- *9 東レ(株)
- *10 (株)新日本科学
- *11 大正製薬(株)
- *12 クミアイ化学工業(株)
- *13 大日本住友製薬(株)
- *14 武田薬品工業(株)
- *15 (株)ヤクルト本社
- *¹⁶ (株)ボゾリサーチセンター

堀端克良, 鵜飼明子, 本間正充: MMS/Pig-a共同研究: アクリルアミドの遺伝毒性評価.

日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

杉山圭一, 高宗万希子, 古沢博子, 本間正充:5-アザ-2-デオキシシチジンに対するヒトDNAメチル化酵素遺伝子形質転換酵母の感受性.

日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

堀妃佐子*, 田中康浩*, 堤絵梨*, 百南綾香*, 増村健一, 山田雅巳, 藤居亙*, 北川義徳*: DMHを用いたF344系 統gpt deltaラット突然変異試験と小核試験(末梢血, 骨 髄, 肝臓, 大腸)の統合法の検討.

日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

* サントリービジネスエキスパート (株)

青木康展 *1 , 橋本顕子 *1 , 菅原良樹 *1 , 荒井孝子 *1 , 後藤佐多良 *2 , 増村健一, 能美健彦: ベンゾ [a] ピレンを気管内投与したgpt deltaマウス肺中に誘導された突然

^{*1}日産化学工業(株)

^{*2}大阪府立大学

変異の加齢に伴う変化. 日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

- *1(独)国立環境研究所
- *2順天堂大学

本山茂記 *1 , 竹入章 *1 , 松尾沙織里 *1 , 和田直子 *2 , 寺社下浩 $-^{*2}$, 三島雅之 *1 , 新見直子, グルーズ ピーター, 増村健一, 山田雅巳, 能美健彦: Mitomycin Cによる DNA損傷に対するDNA polymerase kappaの役割 γ H2AX を指標にした免疫組織学的解析-.

日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

須井哉*,川上久美子*,根岸沙記*,増渕恵美*,園原啓太*,山田雅巳:ハイ・スループット微生物遺伝毒性試験法の検討9.

日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

* (財)食品薬品安全センター秦野研究所

安井学: 部位特異的にゲノム内に導入したDNA付加体の遺伝的影響.

日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

長野聖也 *1 , 東垣由夏 *1 , 佐々彰, 川西優喜 *1 , 安井学, 高村岳樹 *2 , 八木孝司 *1 : DNA塩基損傷1分子を部位特異的にもつプラスミドの作製とヒト細胞におけるTLS解析

日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

羽倉昌志*¹, 青儀巧*², 加藤雅之*³, 杉山圭一:19研究 機関によるBMS共同研究:化学合成で汎用される試薬 20種類のAmes試験データの収集.

日本環境変異原学会第43回大会(2014.12)

本間正充:QSARを活用した医薬品中の遺伝毒性不純物の評価と管理.

日本動物実験代替法学会第27回大会(2014.12)

Honma M, Yasui M, Kanemaru Y, Kamoshita N, Suzuki T, Arakawa T*: Tracing the fates of site-specifically introduced DNA adducts in the human genome.

4th Asian Conference on Environmental Mutagens (2014.12)

Masumura K, Toyoda-Hokaiwado N, Ishii Y, Umemura T, Honma M, Nishikawa A, Nohmi T: Point mutations and deletions induced by aging in liver of *gpt* delta transgenic rats.

4th Asian Conference on Environmental Mutagens (2014.12)

Nohmi T, Suzuki T, Matsumoto K*, Honma M: Roles of translation DNA synthesis in threshold for genotoxic chemicals.

4th Asian Conference on Environmental Mutagens (2014.12)

Yamada M, Takamune M, Matsuda T*: Novel mutation assay with non-selective protocol using a next-generation DNA sequencer.

4th Asian Conference on Environmental Mutagens (2014.12)

Hirose A, Hirata-Koizumi M, Ono A, Kosugi Y*1, Suzuki T*1, Fujii S*2, Ema M*3, Nishimura T*4: Analysis of the serum perfluoroalkyl carboxylic acids (PFCAs) levels for repeated dose toxicity studies conducted for long-chain PFCAs in rats.

第54回米国トキシコロジー学会 (2015.3)

^{*1} 中外製薬(株)

^{*2(}株)中外医科学研究所

^{*1}大阪府立大学

^{*2} 神奈川工科大学

^{*1} エーザイ(株)

^{*2} 大塚製薬(株)

^{*3 (}株)シミックバイオリサーチセンター

^{*} Health Sciences University of Hokkaido

^{*} The Institute of Environmental Toxicology

^{*} Kyoto University

^{*1} Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

^{*2} Safety Research Institute for Chemical Compounds
Co. Ltd.

^{*3} National Institute of Advanced Industrial Science and Technology

^{*4} Teikyo Heisei University

Ono A, Kobayashi K, Matsumoto M, Hirata-Koizumi M, Hirose A, Ema M *1 , Nishimura T *2 : Initial Risk Assessment of β -Bromostyrene.

第54回米国トキシコロジー学会 (2015.3)

Yamada T*1, Tanaka Y*1, Hasegawa R*1, Sakuratani Y*1, Yamazoe Y*2, Ono A, Hirose A, Hayashi M*3: Hazard evaluation support system (HESS): Development of a category approach to predict the testicular toxicity of chemical substances structurally related to ethylene glycol methyl ether.

第54回米国トキシコロジー学会(2015.3)

Ono A: Toxicogenomics as alternative of traditional toxicological endpoints.

第11回韓国動物実験代替法学会(2014.11)

Hirose A, Kosugi Y*1, Suzuki T*1, Fujii S*2, Kato H, Takahashi M, Kawamura T, Matsumoto M, Ono A, Hirata-Koizumi M: Chain length-dependent difference in the toxic potency of long-chain perfluoroalkyl carboxylic acids (PFCA) in rats: Determination of the serum pfca concentrations.

DIOXIN2014 (2014.8)

Hirose A, Fujii S*1, Suzuki T*2, Kato H, Kawamura T, Takahashi M, Matsumoto M, Hirata-Koizumi M, Ono A, Nishimaki-Mogami T, Nishimura T*3, Ema M*4: Combined repeated dose toxicity studies with the reproduction/deveropmental toxicity screening tests for long-chain perfluoroalkyl carboxylic acids in rats. The 50th EUROTOX2014 (2014.9)

- * ² Tokyo Metropolitan Institute of Public Health
- * ³ Teikvo Heisei University
- * 4 National Institute of Advanced Industrial Science and Technology

Yamada T^{*1}, Tanaka Y^{*1}, Hasegawa R^{*1}, Sakuratani Y^{*1}, Yamazoe Y^{*2}, Ono A, Hirose A, Hayashi M^{*3}: Hazard evaluation support system (Hess): Category approach to screen chemicals which are metabolized to methoxyor ethoxyacetic acid responsible for testicular toxicity. The 50th EUROTOX2014 (2014.9)

小野敦:トキシコゲノミクスによる肝毒性バイオマーカー.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

山田隆志 *1 , 長谷川隆 *1 , 三浦稔 *1 , 櫻谷祐 *1 , 山添康 *2 , 小野敦, 広瀬明彦, 林真 *3 : 有害性評価支援システム統合プラットフォーム(HESS) $^{-}$ 精巣毒性に係わるアルコキシ酢酸を生成する化学物質のスクリーニング $^{-}$

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

広瀬明彦, 藤井咲子*1, 鈴木俊也*2, 加藤日奈, 川村智子, 松本真理子, 高橋美加, 平田睦子, 西村哲治*3, 江馬 眞*4, 小野敦:パーフルオロアルキル (C14, C16) カル ボン酸の反復投与および生殖・発生毒性.

第41回日本毒性学会学術年会(2014.7)

^{* 1} National Institute of Advanced Industrial Science and Technology

^{* &}lt;sup>2</sup> Teikyo Heisei University

^{* 1} National Institute of Technology and Evaluation

^{* 2} Food Safety Commission of Japan

^{* &}lt;sup>3</sup> BioSafety Research Center

^{* &}lt;sup>1</sup> Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

^{* &}lt;sup>2</sup> Safety Research Institute for Chemical Compounds Co., Ltd.

^{* &}lt;sup>1</sup> Safety Research Institute for Chemical Compounds Co., Ltd.

^{* 1} National Institute of Technology and Evaluation

^{* 2} Food Safety Commission of Japan

^{* &}lt;sup>3</sup> BioSafety Research Center

^{*1}製品評価技術基盤機構

^{*2}食品安全委員会

^{*3 (}公財)食品農医薬品安全性評価センター

^{*1} 化合物安全性研究所

^{*2}東京都健康安全研究センター

^{*3} 帝京平成大学薬学部

^{* 4} 産業技術総合研究所